



GNOME 2.2 ユーザーズガイド (Linux 版)

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 817-5960-10
2004 年 4 月

Copyright 2004 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

Federal Acquisitions: Commercial Software—Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PCGothicB-Sun は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、AnswerBook、AnswerBook2 は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。© Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. © Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved.

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本製品に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は郵政事業庁が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行なっています)。

本製品に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド '98』に添付のものを使用しています。© 1997 ビレッジセンター

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

DiComboBox ウィジェットと DiSpinBox ウィジェットのプログラムおよびドキュメントは、Interleaf, Inc. から提供されたものです。(© 1993 Interleaf, Inc.)

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるかを問わない、なんらの保証も行われえないものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: GNOME 2.2 Desktop on Linux User Guide

Part No: 817-5309-10

Revision A



040420 @ 8606



目次

はじめに 13

パート I **GNOME** デスクトップのツアー 17

1 基本的な操作 19

マウスの使用方法 19

マウスボタンの規定 19

マウスの操作 20

マウスの操作に関する用語 20

マウスポインタ 21

キーボードの操作方法 23

一般的なショートカットキー 23

ウィンドウのショートカットキー 24

パネルのショートカットキー 24

アプリケーションのショートカットキー 25

アクセスキー 25

ウィンドウの操作方法 27

区画サイズを変更する 27

表の使用方法 27

2 **GNOME デスクトップの概要 29**

GNOME デスクトップコンポーネントの概要 29

パネル 31

パネルを作成する 31

パネルを削除する 31

パネルを隠す	31
パネルにオブジェクトを追加する	31
パネルオブジェクトを操作する	34
メニュー	34
ウィンドウ	35
ウィンドウのタイプ	35
ウィンドウを操作する	35
ウィンドウにフォーカスを移動する	36
ワークスペース	37
ワークスペースを切り替える	38
ワークスペースを追加する	38
Nautilus ファイルマネージャ	38
ファイルマネージャからファイルを開く	40
フォルダ間でファイルを移動する	40
デスクトップとデスクトップオブジェクト	40
デスクトップオブジェクトを開く	41
デスクトップにオブジェクトを追加する	41
GNOME デスクトップの設定	41
アプリケーション	42
詳細を調べる	43
GNOME デスクトップトピックの詳細を調べる	43
アプレットの詳細を調べる	44
アプリケーションの詳細を調べる	44
3 GNOME デスクトップセッション	45
セッションの開始	45
セッションにログインする	46
異なる言語でセッションにログインする	46
スクリーンロックする	46
セッションの管理	47
ログインおよびログアウト時のセッションの動作を定義する	48
スタートアップを使用する	48
現在のセッションでアプリケーションをブラウズする	48
セッション設定を保存する	48
セッションの終了	49

4	パネルの操作方法	51
	パネルの概要	51
	パネルの管理	52
	新しいパネルを追加する	52
	パネルを操作する	52
	パネルを移動する	52
	パネルを非表示にする	52
	パネルの設定を変更する	53
	パネルを削除する	55
	パネルオブジェクト	55
	パネルオブジェクトを操作する	55
	パネルにオブジェクトを追加する	55
	オブジェクトの設定を変更する	56
	パネルオブジェクトを移動する	57
	パネルオブジェクトをロックする	57
	パネルオブジェクトを削除する	58
	アプレット	58
	アプレットをパネルに追加する	58
	アプレットを選択する	59
	アプレットの設定を変更する	59
	ランチャー	59
	パネルにランチャーを追加する	60
	ランチャーの設定を変更する	63
	ボタン	64
	「強制終了」ボタン	64
	「画面のロック」ボタン	64
	ログアウトボタン	65
	「アプリケーションの実行」ボタン	65
	「スクリーンショット」ボタン	66
	「ファイルの検索」ボタン	66
	「デスクトップの表示」ボタン	66
	「通知スペース」アプレット	67
	メニュー	67
	引き出し	68
	引き出しを開くまたは閉じる	69
	引き出しをパネルに追加する	69
	オブジェクトを引き出しに追加する	70
	引き出し設定を変更する	70

5	メニューの操作方法	73
	メニューの概要	73
	メニューの特長	74
	メニュー項目のポップアップメニュー	74
	アプリケーションメニュー	76
	アクションメニュー	76
	「アプリケーションの実行」ダイアログの使用	77
	スクリーンショットを撮る	78
	メインメニュー	79
	メインメニューを開く	79
	メインメニューをパネルに追加する	79
	メニューバー	80
	メニューバーをパネルに追加する	80
	メニューのカスタマイズ	80
	メニューを追加する	81
	メニューにランチャーを追加する	81
	空のメニューにランチャーを追加する	81
	メニューにランチャーをコピーする	82
	メニューの設定を編集する	82
	メニュー項目を編集する	82
	メニューから項目を削除する	83
6	ウィンドウの操作方法	85
	ウィンドウとワークスペース	85
	ウィンドウマネージャの動作	86
	ウィンドウの型	86
	ウィンドウフレーム	88
	ウィンドウとワークスペースを操作するメニューおよびアプレット	90
	ウィンドウメニュー	90
	ウィンドウリストアプレット	91
	ワークスペーススイッチアプレット	93
	ウィンドウの操作方法	93
	ウィンドウにフォーカスを移動する	93
	ウィンドウを最小化する	94
	ウィンドウを最大化する	94
	ウィンドウを元のサイズに戻す	95
	ウィンドウを閉じる	95

ウィンドウのサイズを変更する	95
ウィンドウを移動する	96
ウィンドウを巻き上げる	96
すべてのワークスペースにウィンドウを配置する	96
ウィンドウを別のワークスペースに移動する	97
ワークスペースの操作	97
ワークスペースを切り替える	97
ワークスペースを追加する	97
ワークスペースの名前を指定する	98
ワークスペースを削除する	98
7 Nautilus ファイルマネージャ	99
Nautilus ファイルマネージャの概要	99
ファイルマネージャウィンドウ	100
表示区画	102
サイド区画	103
アイコンとエンブレム	103
コンピュータのナビゲート	105
フォルダを表示する	105
サイド区画のツリーの使用	106
ファイルを開く	107
FTP サイトにアクセスする	108
ネットワークプレイスにアクセスする	109
特別な URI ロケーションへのアクセス	110
ナビゲーション履歴の使用方法	111
お気に入りを登録する	112
ファイルとフォルダの管理	113
ファイルマネージャでのドラッグ&ドロップ	113
ファイルおよびフォルダを選択する	114
ファイルまたはフォルダを移動する	115
ファイルまたはフォルダをコピーする	116
ファイルまたはフォルダを複製する	116
フォルダを作成する	117
ファイルまたはフォルダの名前を変更する	117
ファイルまたはフォルダをごみ箱に移動する	117
ファイルまたはフォルダを削除する	118
ファイルまたはフォルダのシンボリックリンクを作成する	118

ファイルやフォルダのプロパティを表示する	118
アクセス権を変更する	119
ファイルやフォルダへのノートの追加	120
「ごみ箱」の使用方法	121
ファイルおよびフォルダの外観の変更	122
ファイルまたはフォルダにエンブレムを追加する	122
新しいエンブレムを追加する	122
ファイルまたはフォルダのアイコンを変更する	122
ビュー内の項目のサイズを変更する	123
ビューを使用したファイルとフォルダの表示	124
ファイルへのアクションの割り当て	129
アクションを変更する	129
ファイルマネージャのカスタマイズ	131
設定	131
背景の変更	135
ウィンドウコンポーネントを表示および非表示	136
リムーバブルメディアの使用方法	136
メディアをマウントする	137
メディアの内容を表示する	137
メディアプロパティを表示する	137
フロッピーディスクをフォーマットする	137
メディアを取り出す	139
CD の書き込み	139
ファイルマネージャからのスクリプトの実行	141
ファイルシステムのマウントとマウント解除	141
ファイルシステムをマウントする	141
ファイルシステムをマウント解除する	143
NFS 共有の使用法	143
NFS 共有を追加する	143
NFS 共有を削除する	145
8 デスクトップの使用方法	147
デスクトップの概要	147
デスクトップオブジェクト	148
デスクトップ上のオブジェクトを選択する	148
デスクトップからオブジェクトを開く	149
デスクトップにランチャーを追加する	149

デスクトップにシンボリックリンクを追加する	150
デスクトップへのファイルまたはフォルダの追加	150
デスクトップオブジェクトの名前を変更する	151
デスクトップからオブジェクトを取り除く	151
デスクトップからオブジェクトを削除する	152
デスクトップオブジェクトのプロパティを表示する	152
デスクトップオブジェクトのパーミッションを変更する	152
エンブレムをデスクトップオブジェクトに追加する	153
ノートをデスクトップオブジェクトに追加する	153
デスクトップオブジェクトのアイコンを変更する	153
デスクトップオブジェクトアイコンのサイズ変更	154
デスクトップでのごみ箱の使用方法	154
ごみ箱を表示する	154
ごみ箱を空にする	155
「デスクトップ」メニューの使用方法	155
デスクトップのパターンまたは色の変更	156

パート II GNOME デスクトップのカスタマイズ 159

9	設定ツールの起動	161
	設定ツールの起動	161
	設定ツールの場所	161
10	設定ツールの使用	165
	デスクトップ背景のカスタマイズ	166
	CD データベースの構成	167
	CD デバイスオプションのカスタマイズ	168
	ファイルの関連付け	169
	ファイルタイプを追加する	170
	サービスを追加する	171
	ファイル管理の設定	172
	デフォルトのフォントの選択	172
	フォントのプレビュー	174
	インターネット接続の設定	174
	キーボードアクセシビリティオプションの構成	175
	基本設定	175
	フィルタの設定	176

マウスの設定の変更	177
キーボード設定の設定	178
キーボードの設定の変更	178
サウンドの設定	179
「キーボードレイアウト」の構成	179
アプリケーションのメニューおよびツールバーのカスタマイズ	180
マウス設定の設定	180
ボタンの設定	181
ポインタの設定	181
動作の設定	181
マルチメディアキーの設定	182
パネルのカスタマイズ	182
パスワードの変更方法	183
優先するアプリケーションの選択	183
Web ブラウザの設定	184
テキストエディタの設定	184
端末の設定	185
画面解像度の設定	186
スクリーンセーバーの設定	186
表示モードの設定	186
拡張設定	187
セッションの構成	189
現在のセッションの設定	189
現在のセッションの設定	190
自動起動アプリケーションの構成	191
キーボードショートカットのカスタマイズ	192
プリンタの設定	193
セッション共有の設定	193
サウンドの設定	194
一般的なサウンド設定	194
サウンドイベントの設定	195
テーマのカスタマイズ	196
カスタムテーマを作成する	197
新しいテーマをインストールする	197
新しいテーマオプションをインストールする	198
テーマオプションを削除する	198
ウィンドウのカスタマイズ	199

パート III **GNOME デスクトップのアプリケーション** **201**

- 11** アプリケーションの起動 **203**
 - アプリケーションの起動 203
 - アプリケーションの場所 203

用語集 **207**

索引 **209**

はじめに

このマニュアル『GNOME 2.2 ユーザーズガイド (Linux 版)』では、Linux 向け GNOME 2.2 デスクトップの使用方法について説明します。

対象読者

このマニュアルは、GNOME 2.2 デスクトップをデフォルトのデスクトップ環境として使用するユーザーを対象としています。

このマニュアルをお読みになる前に

このマニュアルを読む前に、以下のトピックについて知っておく必要があります。

- スリーボタンマウスデバイス
- グラフィカルユーザーインタフェース
- コマンドラインインタフェース

内容の紹介

このマニュアルの構成は次のとおりです。

- パート I 「GNOME デスクトップのツアー」 は、主要な GNOME デスクトップコンポーネントを紹介します。また、GNOME デスクトップでの作業を開始する上で役立つ情報も提供します。

- パート II 「GNOME デスクトップのカスタマイズ」 は GNOME デスクトップの構成方法を説明します。
- パート III 「GNOME デスクトップのアプリケーション」 は GNOME デスクトップ内のアプリケーションの起動方法を説明します。
- 用語集はこのマニュアルで使用する用語およびその定義のリストです。

関連マニュアル

次に、このマニュアルに関連するマニュアルを示します。

- 『GNOME 2.2 Desktop Accessibility Guide』
- 『GNOME 2.2 システム管理 (Linux 版)』

Sun のオンラインマニュアル

docs.sun.com では、Sun が提供しているオンラインマニュアルを参照することができます。マニュアルのタイトルや特定の主題などをキーワードとして、検索を行うこともできます。URL は、<http://docs.sun.com> です。

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	<code>.login</code> ファイルを編集します。 <code>ls -a</code> を使用してすべてのファイルを表示します。 <code>system%</code>

表 P-1 表記上の規則 (続き)

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	system% su password:
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm <i>filename</i> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「 」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% grep '^#define \ XV_VERSION_STRING'

コード例は次のように表示されます。

■ C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

■ C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

一般規則

- このマニュアルでは、英語環境での画面イメージを使っています。このため、実際に日本語環境で表示される画面イメージとこのマニュアルで使っている画面イメージが異なる場合があります。本文中で画面イメージを説明する場合には、日本語のメニュー、ボタン名などの項目名と英語の項目名が、適宜併記されています。
- このマニュアルでは、「x86」という用語は、Intel 32 ビット系列のマイクロプロセッサチップ、および AMD が提供する互換マイクロプロセッサチップを意味します。

GNOME デスクトップのツアー

この節では、GNOME デスクトップの主要コンポーネントを紹介します。GNOME デスクトップ構成は多岐にわたるため、この節では GNOME デスクトップの主要機能についてのみ説明しています。この節で説明するさまざまな構成の実装方法については、「GNOME デスクトップのカスタマイズ」を参照してください。

パート 1 には、次の章が含まれます。

- 基本的な操作
マウスの使用方法、ショートカットキー、基本的なウィンドウ操作、および基本的なダイアログ操作について説明します。
- GNOME デスクトップの概要
GNOME デスクトップの主要コンポーネントおよび機能について説明します。このマニュアルのほかの章を読まない場合でも、この章は必ず読むようにしてください。
- GNOME デスクトップセッション
GNOME デスクトップセッションの起動方法、管理方法、および終了方法について説明します。
- パネルの操作方法
パネルの操作方法について詳しく説明します。パネルは、GNOME デスクトップの主要コンポーネントです。この章では、パネルのさまざまな部分の操作方法や、パネルを使用して利用できる GNOME デスクトップの機能を呼び出す方法について説明します。
- メニューの操作方法
メニューの操作について詳しく説明します。
- ウィンドウの操作方法
ウィンドウの操作について詳しく説明します。ウィンドウの移動やサイズ変更など、基本的なウィンドウ機能について説明します。また、ウィンドウで使用する制御についても説明します。
- Nautilus ファイルマネージャ

Nautilus ファイルマネージャについて詳しく説明します。この章では、ファイルシステムと連携するファイルマネージャの使用方法について説明します。また、ファイルマネージャのカスタマイズ方法についても説明します。

- デスクトップの使用

デスクトップの使用方法について詳しく説明します。GNOME デスクトップとは、パネルやウィンドウなど、グラフィカルなインターフェイス項目が何も存在しないデスクトップ部分のことです。アプリケーションを起動したり、ファイルおよびフォルダを開くためのデスクトップの使用方法について説明します。デスクトップでの「ごみ箱」の使用方法や、「デスクトップ」メニューの使用方法、デスクトップのカスタマイズ方法についても説明します。

第 1 章

基本的な操作

この章では、GNOME デスクトップでの作業に必要な基本的な操作について説明します。

- 19 ページの「マウスの使用方法」
- 23 ページの「キーボードの操作方法」
- 27 ページの「ウィンドウの操作方法」

マウスの使用方法

マウスの一般的な使用方法に慣れている場合でも、このマニュアルで使用するマウスボタンの規定および動作について習得する必要があります。この節では、マウスポインタについても説明します。

マウスボタンの規定

このマニュアル内のすべての説明は、次の種類のマウスが対象となります。

- 右利きユーザー用に設定されているマウス
- 3 ボタンのマウス。2 ボタンのマウスを使用している場合は、2 つのボタンを同時に押すと、マウスの中央ボタンと同じ動作になる

このマニュアルで使用されているマウスボタンの規定は次のとおりです。

マウスボタン	定義
左マウスボタン	マウスの左ボタンは、右利きのユーザー用に設定

マウスボタン	定義
中央マウスボタン	マウスの中央ボタンは、右利きのユーザー用に設定
右マウスボタン	マウスの右ボタンは、右利きのユーザー用に設定

マウスの利き手を変更するには、「マウス」設定ツールを起動後、オプションを選択します。マウスの利き手を変更した場合は、このマニュアルで使用されるマウスボタンの規定も逆になります。

マウスの操作

次の表は、マウスで実行できる操作を示します。

マウスボタン	使用目的
左マウスボタン	次の操作に使用する ■ テキストの選択 ■ 項目の選択 ■ 項目のドラッグ
中央マウスボタン	次の操作に使用する ■ テキストの貼り付け ■ 項目の移動
右マウスボタン	選択したオブジェクトのメニューを開く (メニューがある場合)

たとえば、テキストをコピーする場合は、次の手順に従います。

1. 左マウスボタンでテキストを選択します。
2. テキストをコピーする場所にマウスポインタを移動します。
3. 中央マウスボタンをクリックします。

デスクトップで右クリックして、「デスクトップ」メニューを開くこともできます。

マウスの操作に関する用語

このマニュアルで使用されるマウス操作を表す用語は、以下のとおりです。

動作	定義
クリック	マウスを動かさずに、左マウスボタンを押して放す

動作	定義
クリック&ホールド	左マウスボタンを押したまま放さない
左クリック	クリックと同じ。左クリックは、右クリックと混乱する恐れがある場合に、操作を明確にするために使用する
中央クリック	マウスを動かさずに、中央マウスボタンを押して放す
右クリック	マウスを動かさずに、右マウスボタンを押して放す
ダブルクリック	マウスを動かさずに、すばやく2回押して放す
ドラッグ	マウスボタンをクリック&ホールドして、オブジェクトを移動する。たとえば、ウィンドウまたはアイコンをドラッグできる。デスクトップ上では、左マウスボタンおよび中央マウスボタンを使用してドラッグを実行できる
ドラッグ&ドロップ	マウスボタンをクリック&ホールドして、オブジェクトを移動する。たとえば、ウィンドウまたはアイコンをドラッグ&ドロップできる。オブジェクトを配置する場所でマウスボタンを放す
グラブ	移動する項目をポイントし、マウスボタンをクリック&ホールドする。たとえば、ウィンドウのタイトルバーをグラブし、そのウィンドウを別の場所にドラッグできる

マウスポインタ

マウスポインタの外観は、マウスを使っている状況によって変わります。ポインタの外観は、特定の操作、場所、および状態を表します。次の表で、デスクトップ上のマウスポインタについて説明します。

ポインタ	関連する操作	説明
	項目をポイントし、メニュー項目を選ぶ	通常ポインタ。マウスの通常の使用時に表示されるポインタ
	ドラッグ&ドロップ	移動ポインタ。オブジェクトをドロップするときに、そのオブジェクトが元の場所から別の場所に移動されることを示す
	ドラッグ&ドロップ	コピーポインタ。オブジェクトをそのオブジェクトのコピーがドロップする位置に、作成されることを示す

ポインタ	関連する操作	説明
	ドラッグ&ドロップ	シンボリックリンクポインタ。オブジェクトをドロップした位置に、そのオブジェクトのシンボリックリンクが作成されることを示す。シンボリックリンクとは、別のファイルまたはフォルダを指す特殊な種類のファイルです
	ドラッグ&ドロップ	質問ポインタ。オブジェクトをドロップするときに、メニューが開くことを示す。オブジェクトを移動またはコピーするか、あるいはオブジェクトのシンボリックリンクを作成するかを選択できる
	ドラッグ&ドロップ	利用不可を示すポインタ。現在の場所にオブジェクトをドロップできないことを示す
	パネルオブジェクトの移動	パネルオブジェクトの移動ポインタ。移動するパネルオブジェクトが選択されていることを示す
	ウィンドウの横方向のサイズ変更	横方向のサイズ変更ポインタ。横方向にサイズ変更するウィンドウの縦ウィンドウ境界が選択されていることを示す
	ウィンドウの縦方向のサイズ変更	縦方向のサイズ変更ポインタ。縦方向にサイズ変更するウィンドウの横ウィンドウ境界が選択されていることを示す
	ウィンドウの横方向と縦方向のサイズ変更	コーナーサイズ変更ポインタ。横方向と縦方向にサイズ変更するウィンドウのウィンドウ境界コーナーが選択されていることを示す
	ウィンドウ区画または表の列のサイズ変更	ウィンドウ区画または表の列のサイズ変更ポインタ。サイズ変更する表の列が選択されていることを示す

キーボードの操作方法

マウスで実行できる操作のほとんどが、キーボードでも同様に実行できます。ショートカットキーを使用すると、操作をすばやく実行できます。

ショートカットキーは、一般的な GNOME デスクトップでの操作や、パネルおよびウィンドウなどのインターフェイス項目での操作に使用できます。また、ショートカットキーはアプリケーションでも使用できます。ショートカットキーをカスタマイズするには、「ショートカット」設定ツールを使用します。

また、GNOME デスクトップをカスタマイズして、キーボードの便利な機能を利用することもできます。

以降の節では、使用可能なショートカットキーについて説明します。

一般的なショートカットキー

一般的なショートカットキーを使用すると、キーボードから GNOME デスクトップでの一般的な操作を実行できます。次の表に、一般的なショートカットキーを示します。

デフォルトのショートカットキー	機能
Ctrl + Esc	メインメニューを開く
Super + R	「アプリケーションの実行」ダイアログを表示する
Print Screen	スクリーンショットを撮る
Alt + Print Screen	フォーカスがあるウィンドウのスクリーンショットを撮る
Ctrl + Alt + 右矢印	現在のワークスペースの右側のワークスペースに切り替える
Ctrl + Alt + 左矢印	現在のワークスペースの左側のワークスペースに切り替える
Ctrl + Alt + 上矢印	現在のワークスペースの上のワークスペースに切り替える
Ctrl + Alt + 下矢印	現在のワークスペースの下側のワークスペースに切り替える
Ctrl + Alt + d	すべてのウィンドウを最小化し、フォーカスをデスクトップに移す
F1	オンラインヘルプのブラウザを起動し、適切なオンラインヘルプを表示する

ウィンドウのショートカットキー

ウィンドウのショートカットキーを使用して、キーボードからウィンドウの操作を実行できます。次の表に、ウィンドウのショートカットキーを示します。

デフォルトのショートカットキー	機能
Alt + Tab	ウィンドウをポップアップを使って切り替える。このショートカットキーを使用すると、選択可能なウィンドウの一覧が表示される。キーを放すとウィンドウが選択される
Alt + Esc	ウィンドウをポップアップなしで切り替える。キーを放すとウィンドウが選択される
F10	メニューバーの左側にある最初のメニューを開く
Alt + スペースバー	ウィンドウメニューを開く
矢印キー	メニュー内の項目間でフォーカスを移動する
Return	メニュー項目を選択する
Esc	開いているメニューを閉じる
Ctrl + Alt + 右矢印	現在のワークスペースの右側のワークスペースに切り替える
Ctrl + Alt + 左矢印	現在のワークスペースの左側のワークスペースに切り替える
Ctrl + Alt + 上矢印	現在のワークスペースの上のワークスペースに切り替える
Ctrl + Alt + 下矢印	現在のワークスペースの下側のワークスペースに切り替える
Ctrl + Alt + d	すべてのウィンドウを最小化し、フォーカスをデスクトップに移す

パネルのショートカットキー

パネルのショートカットキーを使用して、キーボードからパネルでの操作を実行できます。次の表に、パネルのショートカットキーを示します。

デフォルトのショートカットキー	機能
Ctrl + Alt + Tab	パネルとデスクトップの間で、ポップアップを使ってフォーカスを切り替える。このショートカットキーを使用すると、選択可能な項目の一覧が表示される。キーを放すと項目が選択される

デフォルトのショートカットキー	機能
Ctrl + Alt + Esc	パネルとデスクトップの間で、ポップアップなしでフォーカスを切り替える。キーを放すと項目が選択される
Ctrl + F10	選択したパネルのポップアップメニューを開く
Tab	パネル上のオブジェクト間でフォーカスを切り替える
Return	選択したパネルオブジェクトまたはメニュー項目を選ぶ
Shift + F10	選択したパネルオブジェクトのポップアップメニューを開く
矢印キー	メニュー内の項目間でフォーカスを移動する。アプレット内のインターフェイス項目間でフォーカスを移動する
Esc	開いているメニューを閉じる
F10	メニューバーがパネル内に表示されている場合、メニューバーから「アプリケーション」メニューを開く

アプリケーションのショートカットキー

アプリケーションのショートカットキーを使用して、アプリケーションの操作を実行できます。ショートカットキーを使用すると、マウスを使用するよりもアプリケーションの操作をすばやく実行できます。次の表に、アプリケーションのショートカットキーを示します。

ショートカットキー	コマンド
Ctrl + N	新規
Ctrl + X	切り取り
Ctrl + C	Copy
Ctrl + V	貼り付け
Ctrl + Z	元に戻す
Ctrl + S	保存
Ctrl + Q	終了

アクセスキー

メニューバーとは、ウィンドウ上部にあるバーのことで、アプリケーション用のメニューが含まれています。アクセスキーとは、メニューバー、メニュー、またはダイアログにある下線付き文字のことで、これを使用して作業を実行できます。メニューバーでは、各メニューのアクセスキーに下線が付いています。

メニューを開くには、Alt キーを押して、アクセスキーを押します。メニューでは、各メニュー項目のアクセスキーに下線が付いています。メニュー項目を選択するには、メニュー項目のアクセスキーを押します。次の表に、テキストエディタ アプリケーションのアクセスキーの例を示します。

アクセスキー	機能
Alt + F	「ファイル」メニューを開く
N	「ファイル」メニューから「新規」を選択する

アクセスキーを使用して、ダイアログ内の要素にアクセスできます。ダイアログでは、ほとんどのダイアログ要素の 1 文字に下線が付いています。特定のダイアログ要素にアクセスするには、Alt キーを押して、アクセスキーを押します。次の表に、テキストエディタの「設定」ダイアログにあるアクセスキーの例を示します。

アクセスキー	機能
Alt + U	「デフォルトのテーマフォントを使用」チェックボックスにフォーカスを移す

ほかのキーを使用して、ウィンドウ内またはダイアログ内を移動することもできます。

キー	機能
Tab	ウィンドウ内またはダイアログ内の要素間でフォーカスを移動する
矢印キー	矢印キーを使用して、次の動作を実行できる ■ メニューバーでは、あるメニューから次のメニューにフォーカスを移動する。開いたメニューでは、あるメニュー項目から次のメニュー項目にフォーカスを移動する ■ あるオプションから次のオプションにフォーカスを移動して選択する (たとえば、ダイアログのラジオボタンのグループなど) ■ スピンボックスが表示する値を変更する

ウィンドウの操作方法

この節では、ウィンドウの使用方法について説明します。

区画サイズを変更する

ウィンドウには、複数の区画が含まれていることがあります。区画とは、ウィンドウを分割したもの。たとえば、Nautilus ファイルマネージャウィンドウには、サイド区画と表示区画があります。区画があるウィンドウの場合、区画間のエッジにサイズ変更ハンドルがあります。区画をサイズ変更するには、サイズ変更ハンドルをグラブし、変更するサイズまでエッジをドラッグします。

表の使用方法

ウィンドウには、表に整理された情報を持っている場合があります。この節では、表の操作方法について説明します。

列の幅を変更するには、列の縦方向のエッジの 1 つをドラッグします。

表によっては、特定の列によって情報の並び変えができます。表内の情報を並び変えるには、並び変える情報の列の見出しをクリックします。上矢印が、並び変えられた表の列の見出しに表示されます。次の図に上矢印を示します。



並び変え順を逆にするには、列の見出しをもう一度クリックします。上矢印が下矢印に変わります。下矢印は、列内の情報が、逆順に並び変えられていることを示します。

一部の表では、複数の項目を選択できます。次の表で、表内の項目を選択する方法について説明します。

作業	操作
項目の選択	その項目をクリックする
一連の項目のグループを選択	Shift キーを押したまま放さない。グループの最初の項目をクリックして、そのグループの最後の項目をクリックする

作業	操作
複数の項目を選択	Ctrl キーを押したままにする。選択する複数の項目をクリックする

第 2 章

GNOME デスクトップの概要

この章では、GNOME デスクトップの機能と主なコンポーネントについて説明します。GNOME デスクトップを使用する前にこの章を読み、さまざまな機能と主なコンポーネントの動作を理解してください。GNOME デスクトップは、あらゆる設定が可能であるため、この章では、次の項目に関する標準的なデフォルトの設定について説明します。

- 29 ページの「GNOME デスクトップコンポーネントの概要」
- 31 ページの「パネル」
- 34 ページの「メニュー」
- 35 ページの「ウィンドウ」
- 37 ページの「ワークスペース」
- 38 ページの「Nautilus ファイルマネージャ」
- 40 ページの「デスクトップとデスクトップオブジェクト」
- 41 ページの「GNOME デスクトップの設定」
- 42 ページの「アプリケーション」
- 43 ページの「詳細を調べる」

GNOME デスクトップコンポーネントの概要

はじめて GNOME デスクトップセッションを開始すると、パネル、ウィンドウ、およびさまざまなアイコンが含まれたデフォルトのスタートアップ画面が表示されます。

GNOME デスクトップの主なコンポーネントは以下のとおりです。

- パネル
パネルとは、すべてのシステムアプリケーションとメニューにアクセスできる GNOME デスクトップ上の領域です。パネルは、幅広い構成が可能です。
- メニュー

デスクトップのすべての機能には、メニューからアクセスできます。「アプリケーション」メニューを使用して、ほとんどすべての標準のアプリケーション、コマンド、および構成オプションにアクセスできます。「アプリケーション」メニューには、「メインメニュー」と「メニューバー」アプレットからアクセスできます。「メインメニュー」と「メニューバー」アプレットはパネルに追加できます。

「メニューバー」アプレットには、「アクション」メニューが含まれています。「アクション」メニューには、さまざまな機能を持つコマンドが含まれています。たとえば、「ファイルの検索」や「ログアウト」などです。「アクション」メニューの項目は、メインメニューのトップレベルにあります。

■ ウィンドウ

同時に複数のウィンドウを表示できます。各ウィンドウで、さまざまなアプリケーションを実行できます。ウィンドウ用のフレームとボタンは、ウィンドウマネージャによって提供されます。ウィンドウマネージャを使用して、ウィンドウを移動する、閉じる、サイズを変更するなど、標準の操作を実行できます。

■ ワークスペース

GNOME デスクトップは、個別のワークスペースに分割できます。ワークスペースとは、作業可能な個別の領域です。GNOME デスクトップ上のワークスペースの数は指定できます。ワークスペースは切り替えて使用できますが、一度に表示できるワークスペースは1つだけです。

■ Nautilus ファイルマネージャ

Nautilus ファイルマネージャは、ファイルおよびアプリケーションへの統合アクセスポイントを提供します。ファイルマネージャウィンドウ内のファイルの内容を表示したり、ファイルマネージャから適切なアプリケーションでファイルを開くことができます。ファイルマネージャを使用して、ファイルとフォルダを管理できます。

■ デスクトップ

デスクトップは、デスクトップ上のほかのすべてのコンポーネントの背後にあります。デスクトップは、ユーザインタフェースのアクティブコンポーネントです。デスクトップに複数のオブジェクトを置くことで、ファイルおよびディレクトリにすばやくアクセスできます。また、頻繁に使用するアプリケーションをデスクトップに配置して、ここから起動することもできます。デスクトップ上で右クリックすると、メニューを開くことができます。

■ 設定

GNOME デスクトップには、専用の設定ツールがあります。各ツールは、GNOME デスクトップの特定の機能を制御します。設定ツールを起動するには、「メインメニュー」から「設定」を選択します。構成する項目をサブメニューから選択します。

GNOME デスクトップの最大の特長は、柔軟に構成できることと、作業実行のために多数の手段が提供されていることです。

GNOME デスクトップのコンポーネントは相互運用可能です。通常、同じ操作を実行するには、いくつかの異なる方法があります。たとえば、アプリケーションはパネルから起動することも、メニューまたはデスクトップから起動することもできます。

システム管理者は、必要に応じて構成を変更できるため、GNOME デスクトップがこの章で説明するものと完全には同じでない可能性があります。それでも、この章では、GNOME デスクトップを使用した作業にすぐに役立つ有用な情報を提供します。

パネル

パネルの追加および削除はいつでも行えます。セッションを始めて開始すると、GNOME デスクトップには少なくとも1つのパネルがあります。

パネルを使用して、以下の操作を実行できます。

- パネルの作成
- パネルの削除
- パネルを隠す
- パネルへのオブジェクトの追加
- パネルオブジェクトの操作

パネルを作成する

パネルを追加するには、パネルの空きスペースを右クリックし、「新規パネル」を選択します。新しいパネルがGNOME デスクトップに追加されます。新しいパネルにはオブジェクトは含まれていません。利用者の環境に合わせて、新しいパネルをカスタマイズできます。ユーザーの要件に合わせて、オブジェクトをパネルに追加できます。パネルの背景も変更できます。作成できるパネルの数に制限はありません。

パネルを削除する

パネルを削除するには、パネルを右クリックし、「パネルを削除」を選択します。

パネルを隠す

パネルは、両端に「非表示ボタン」を持つことができます。この「非表示」ボタンをクリックして、パネルを表示させたり、隠したりすることができます。

パネルにオブジェクトを追加する

パネルは、いくつかのタイプのオブジェクトを持つことができます。図 2-1 に示すパネルには、各タイプのパネルオブジェクトが含まれています。

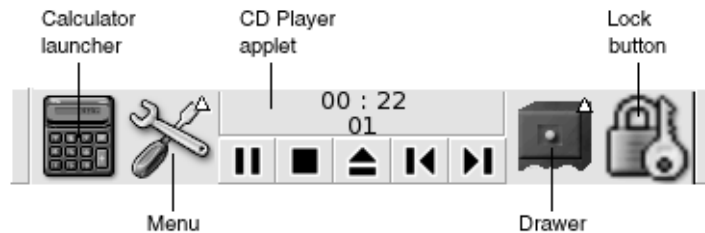


図 2-1 各種パネルオブジェクトを含むパネル

以下に示すオブジェクトは、すべてのタイプのパネルに追加できます。

■ アプレット

アプレットとは、パネル内にある小さな対話型のアプリケーションです (たとえば、図 2-1 の CD プレーヤー)。各アプレットには、マウスまたはキーボードから操作できる単純なユーザーインターフェイスがあります。以下のアプレットは、デフォルトでパネルに表示されます。

- 時計: 時間を表示する。日付を表示するように時計を構成できます
- ウィンドウリスト: 開いている各ウィンドウを示すボタンを表示します。ウィンドウリストボタンをクリックすると、ウィンドウの最小化と元のサイズへの復元を行うことができます。ウィンドウリストは、デフォルトで画面下部のエッジパネルに表示される
- ワークスペーススイッチ: ワークスペースを視覚的に表示します。ワークスペーススイッチを使用して、ワークスペース間を切り替えることができます。ワークスペーススイッチは、デフォルトで画面下部のエッジパネルに表示される

アプレットをパネルに追加するには、パネル上の空いているスペースで右クリックし、「パネルに追加」を選択します。次のサブメニューの 1 つから、必要なアプレットを選びます。

- アクセサリ
- アミューズメント
- インターネット
- マルチメディア
- ユーティリティ
- ランチャー

ランチャーは、特定のアプリケーションを起動したり、コマンドを実行したり、あるいはファイルを開いたりします。図 2-1 に示す電卓アイコンは、電卓アプリケーションのランチャーです。ランチャーは、パネルまたはメニューにあります。ランチャーをクリックすると、そのランチャーに関連する操作が実行されます。

アプリケーション用に独自のランチャーを作成できます。たとえば、頻繁に使用するワードプロセッサアプリケーションのランチャーを作成して、アクセスに便利なパネル上にそのランチャーを配置できます。新しく作成したランチャーをパネルに

追加するには、パネル上の空いているスペースで右クリックし、「パネルに追加」→「ランチャー」を選択します。

あるいは、メニューからランチャーを追加するには、パネル上の空いているスペースで右クリックし、「パネルに追加」→「アプリケーション」を選択します。追加するランチャーをサブメニューから選びます。

■ アクションボタン

ボタンをパネルに追加すると、よく実行するアクションにすばやくアクセスできます。パネルに追加できるボタンは以下のとおりです。

- 「強制終了」: コマンドに応答しないアプリケーションを終了します。
- 「画面のロック」: 画面をロックします。図 2-1 のロックボタンアイコンは、「Lock」ボタンを示します。
- 「ログアウト」: セッションを終了します。
- 「アプリケーションの実行」: コマンドを実行できる「アプリケーションの実行」ダイアログを開きます。
- 「スクリーンショット」: 画面のスクリーンショットを撮ります。
- 「ファイルの検索」: ファイルの検索ができる「ファイルの検索」アプリケーションを起動します。
- 「デスクトップの表示」: すべてのウィンドウを最小化し、デスクトップを表示します。

ボタンをパネルに追加するには、パネル上の空いているスペースで右クリックし、「パネルに追加」→「アクション」を選択します。その後、必要なボタンを選ぶことができます。

■ メニュー

デスクトップのすべての機能には、メニューからアクセスできます。パネルからメニューを開くには、そのメニューを表すアイコンをクリックします。メニューバーからメニューを開くには、そのメニューを表すテキストをクリックします。

パネルに追加するメニューは、矢印が付いたアイコンで表されます。矢印は、そのアイコンがメニューであることを示します。例は、図 2-1 のメニューアイコンを参照してください。

メインメニューは、どのパネルにも追加できます。メインメニューをパネルに追加するには、パネル上の空いているスペースで右クリックし、「パネルに追加」→「メインメニュー」を選択します。

メニューバーもすべてのパネルに追加できます。メニューバーをパネルに追加するには、パネル上の空いているスペースで右クリックし、「パネルに追加」→「メニューバー」を選択します。

■ 引き出し

引き出しは、パネルに追加できるスライド機能であり、引き出しアイコンから開いたり閉じたりできます(図 2-1 を参照)。引き出しは、複数のアプリケーションを同時に実行している場合に、作業を整理するのに役立ちます。すべての同じ機能要素を 1 つの引き出しに入れ、その引き出しを任意のタイプのパネルに配置できます。

引き出しをパネルに追加するには、パネル上の空いているスペースで右クリックし、「パネルに追加」→「引き出し」を選択します。

引き出しを開くには、その引き出しをクリックします。引き出しを閉じるには、もう一度その引き出しをクリックします。

パネルオブジェクトを操作する

パネルオブジェクトは、次の方法で操作できます。

- パネル内でオブジェクトを移動するか、別のパネルに移動する
任意のオブジェクトをパネル内の別の場所に移動できます。また、オブジェクトのあるパネルから別のパネルに移動することもできます。マウスの中央ボタンを使用してパネルオブジェクトを別の場所にドラッグします。
- メニュー項目をパネルにコピーする
項目をメニューからパネルにドラッグします。メニュー項目がランチャーの場合には、そのメニュー項目を右クリックし、「ランチャーをパネルに追加」を選択します。

メニュー

デスクトップのすべての機能には、メニューからアクセスできます。次の GNOME デスクトップコンポーネントからメニューへアクセスできます。

- メインメニュー:
メインメニューには、「アプリケーション」メニューなどさまざまな機能が含まれます。「アプリケーション」メニューを使用すると、ほとんどすべての標準のアプリケーション、コマンド、および構成オプションにアクセスできます。
メインメニューをパネルに追加するには、パネル上で右クリックし、「パネルに追加」→「メインメニュー」を選択します。パネル上の「メインメニュー」ボタンをクリックすると「メインメニュー」が開きます。
- メニューバー
メニューバーには、「アプリケーション」メニューと「アクション」メニューが含まれています。「アプリケーション」メニューと「アクション」メニューを使用して、ほとんどすべての標準のアプリケーション、コマンド、および構成オプションにアクセスできます。
メニューバーをパネルに追加するには、パネル上で右クリックし、「パネルに追加」→「メニューバー」を選択します。
- パネル

パネルに追加できるメニューの数に制限はありません。パネルに追加するメニューを開くには、パネル上のメニューアイコンをクリックします。メニュー項目をパネルにコピーするなど、その他の操作をメニューを使用して実行できます。

ウィンドウ

GNOME デスクトップ上では、同時に複数のウィンドウを表示できます。各ウィンドウにはフレームがあり、ウィンドウでの作業に使用できるアクティブな制御要素が含まれています。

ウィンドウのタイプ

GNOME デスクトップの特長となっているウィンドウを次に説明します。

- アプリケーションウィンドウ

アプリケーションを実行すると、通常、フレームがウィンドウの境界になります。アプリケーションウィンドウのトップエッジにはタイトルバーがあり、タイトルバーにはウィンドウでの作業に使用できるボタンがあります。アプリケーションウィンドウフレームのボタンを使用して、ウィンドウメニューを開いたり、ウィンドウを閉じたりする操作を実行できます。ウィンドウメニューには、ウィンドウで実行できるコマンドが含まれています。

- ダイアログウィンドウ

ダイアログウィンドウは、対話的に行う作業に対応しています。ダイアログウィンドウは、ウィンドウフレームと単一の対話式の区画で構成されており、ユーザーは情報を得たり制御したりすることができます。このマニュアルでは、ダイアログウィンドウの対話に使用する部分をダイアログと呼びます。ダイアログウィンドウのフレームには、ウィンドウメニューを開いたり、ダイアログウィンドウを閉じたりすることができるボタンがあります。

ウィンドウを操作する

アプリケーションウィンドウまたはダイアログウィンドウのフレームを使用して、ウィンドウでの各種操作を実行できます。ほとんどの制御要素は、ウィンドウフレームのトップエッジにあります。図 2-2 は、標準的なアプリケーションウィンドウのフレームのトップエッジを示しています。



図 2-2 標準的なアプリケーションウィンドウのフレームのトップエッジ

ウィンドウフレームのアクティブな制御要素は次のとおりです。

制御要素	「説明」
ウィンドウメニューボタン	クリックすると、ウィンドウメニューが開く
タイトルバー	ウィンドウを移動したりシェードしたりするために使用する
最小化ボタン	最小化ボタンをクリックすると、ウィンドウが最小化する
最大化ボタン	ウィンドウの最大化と元のサイズに戻すことに使用する ウィンドウを最大化するには、最大化ボタンをクリックする。ウィンドウを元のサイズに戻すには、もう一度最大化ボタンをクリックする
ウィンドウを閉じるボタン	ウィンドウを閉じるボタンをクリックすると、ウィンドウが閉じる
境界	境界を右クリックすると、ウィンドウメニューが開く

ウィンドウのサイズを変更する場合は、タイトルバーではなく、ウィンドウの境界をグラブします。変更したいサイズになるまで、ウィンドウの境界をドラッグします。

ウィンドウにフォーカスを移動する

フォーカスされているウィンドウは、マウスとキーボードから入力できます。一度にフォーカスできるのは1つのウィンドウだけです。フォーカスされているウィンドウの外観は、ほかのウィンドウとは異なります。

次の方法により、ウィンドウをフォーカスできます。

要素	操作
マウス	ウィンドウが可視の場合には、そのウィンドウをクリックする
ショートカットキー	ショートカットキーは、開いているウィンドウ間の切り替えに使用する。あるウィンドウにフォーカスを移すには、そのウィンドウにフォーカスが移動したときにキーを放す。ウィンドウ間を切り替える初期値のショートカットキーは、Alt + Tab キー。
ウィンドウリスト	ウィンドウリストのウィンドウを表すボタンをクリックする
ワークスペーススイッチ	ワークスペーススイッチ ディスプレイで、フォーカスするウィンドウをクリックする

ワークスペース

GNOME デスクトップ上では、同時に複数のウィンドウを表示できます。ウィンドウは、GNOME デスクトップに分割して表示され、ワークスペースと呼ばれます。ワークスペースとは、作業可能な個別の領域です。

すべてのワークスペースのデスクトップ、パネル、メニューは同じです。ただし、各ワークスペースで異なるアプリケーションを実行したり、異なるウィンドウを開くことができます。GNOME デスクトップ上で一度に表示できるワークスペースは1つのみですが、別のワークスペースで複数のウィンドウを開くことができます。

多数のアプリケーションを同時に実行する場合、ワークスペースを利用すると GNOME デスクトップを整理できます。作業中のワークスペースがウィンドウで一杯になった場合、別のワークスペースに移動して作業できます。また、別のワークスペースに切り替えて、より多くのアプリケーションを起動することもできます。

ワークスペースは、ワークスペーススイッチアプレットに表示されます。図 2-3 では、ワークスペーススイッチに4つのワークスペースが表示されています。最初の3つのワークスペースには開いたウィンドウがあり、4番目のワークスペースには、現在アクティブなウィンドウはありません。

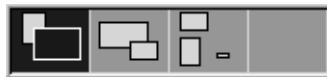


図 2-3 ワークスペーススイッチに表示されたワークスペース

ワークスペースを切り替える

次の方法でワークスペース間を切り替えることができます。

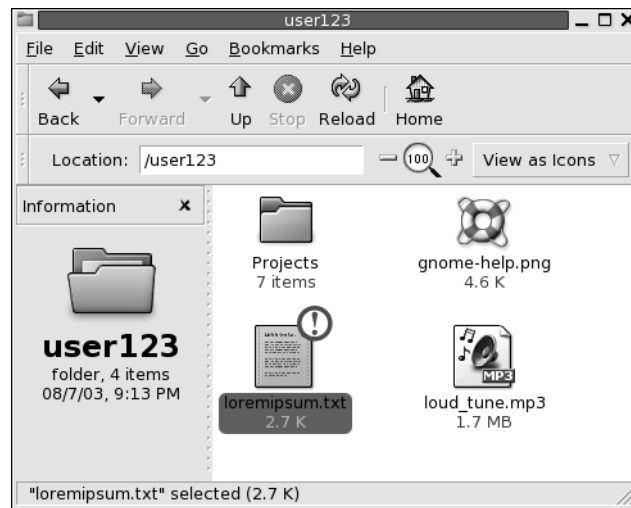
- ワークスペーススイッチで、作業するワークスペースをクリックする
- `Ctrl + Alt + 右矢印`キーを押して、作業中のワークスペースの右側のワークスペースに切り替える
- `Ctrl + Alt + 左矢印`キーを押して、作業中のワークスペースの左側のワークスペースに切り替える

ワークスペースを追加する

ワークスペースを GNOME デスクトップに追加するには、ワークスペーススイッチアプレットを右クリックし、「設定」を選択します。「ワークスペーススイッチの設定」ダイアログが表示されます。「ワークスペースの数」スピンボックスで、必要なワークスペースの数を指定します。

Nautilus ファイルマネージャ

Nautilus ファイルマネージャは、ファイル、アプリケーション、FTP サイト、および URI への統合アクセスポイントを提供します。ファイルマネージャのウィンドウを開くには、デスクトップの「ドキュメント」上でダブルクリックします。以下の図は、フォルダの内容を表示するファイルマネージャウィンドウを示しています。



ファイルマネージャウィンドウは、以下の区画を含むことができます。

サイド区画 ファイル内をナビゲートできます。この区画は、使用中のファイルまたはフォルダに関する情報を表示します。サイド区画は、ウィンドウの左側にあります。

表示区画 ファイルまたはフォルダの内容を表示します。表示区画は、ウィンドウの右側にあります。

ファイルマネージャで次のことができます。

- **ファイルとフォルダの表示**
ファイルやフォルダは、アイコンまたはリストとして表示できます。一部のファイルの内容は、ファイルマネージャウィンドウで表示できます。または、ファイルマネージャから適当なアプリケーションを使ってファイルを開くこともできます。
- **ファイルとフォルダの管理**
ファイルマネージャでは、ファイルとフォルダの作成、移動、コピー、名前変更、および削除ができます。
- **スクリプトの実行**
ファイルマネージャからスクリプトを実行し、スクリプトを実行するファイルやフォルダを選択できます。
- **ファイルおよびフォルダのカスタマイズ**
エンブレムをファイルおよびフォルダに追加して、特定の状態を示すことができます。たとえば、「重要！」エンブレムをファイルに追加して、そのファイルが重要であることを示すことができます。次の方法を使用して、フォルダをカスタマイズすることもできます。

- フォルダに注記を追加する
- フォルダにカスタム背景パターンを指定する
- フォルダにズーム設定を指定する
- 特別な *Uniform Resource Identifiers* (URI) を開く
GNOME デスクトップには、ファイルマネージャから特定の機能にアクセスするための特別な URI があります。たとえば、設定ツールにアクセスするには、ファイルマネージャで `preferences:/// URI` にアクセスします。
- CDにデータを書き込む
ファイルマネージャは、CD に書き込むファイルやフォルダをコピーできる特別な場所を提供します。その場所の内容を簡単に CD に書き込むことができます。

ファイルマネージャでは、デスクトップも作成できます。

ファイルマネージャからファイルを開く

開きたいファイルが存在するフォルダへ移動するには、表示区画内の該当するフォルダアイコンをダブルクリックします。開きたいファイルが表示されたら、そのファイルアイコンをダブルクリックしてファイルを開きます。

フォルダ間でファイルを移動する

2つ以上のファイルマネージャウィンドウを開いて、フォルダ間でファイルを移動できます。各ウィンドウで異なるフォルダを開き、一方のウィンドウから別のウィンドウにファイルをドラッグします。

デスクトップとデスクトップオブジェクト

デスクトップは、ユーザインタフェースのアクティブコンポーネントです。デスクトップを使用して、次の操作を実行できます。

- アプリケーションを起動し、ファイルおよびフォルダを開く
デスクトップオブジェクトを追加すると、頻繁に使用するファイル、フォルダ、またはアプリケーションにアクセスしやすくなります。たとえば、頻繁に使用するアプリケーションのランチャーを追加します。
- 「デスクトップ」メニューを開く

デスクトップで右クリックし、「デスクトップ」メニューを開きます。「デスクトップ」メニューを使用して、デスクトップ上で操作を実行できます。

ファイルマネージャでは、デスクトップを管理できます。

デスクトップオブジェクトを開く

デスクトップオブジェクトを開くには、そのオブジェクトをダブルクリックします。Nautilus ウィンドウで設定することにより、オブジェクトを1度クリックするだけでデフォルトの操作を実行できます。

デスクトップにオブジェクトを追加する

デスクトップオブジェクトを追加すると、頻繁に使用するファイル、フォルダ、またはアプリケーションにアクセスしやすくなります。デスクトップにオブジェクトを追加するには、次の方法を使用します。

- 「デスクトップ」メニューを使用して、デスクトップにランチャーを追加する
- オブジェクトをファイルマネージャウィンドウからデスクトップにドラッグする。たとえば、頻繁に使用するファイルにシンボリックリンクを作成し、そのリンクをデスクトップにドラッグする。リンクのアイコンがデスクトップに移動する。ファイルを開くには、そのアイコンをダブルクリックする。ファイルやフォルダをデスクトップにドラッグすることもできる
- アプリケーションランチャーをメニューからデスクトップにドラッグする。たとえば、頻繁に使用するアプリケーションのランチャーを含むメニューを開き、そのランチャーをデスクトップにドラッグできる

GNOME デスクトップの設定

GNOME デスクトップのほとんどすべての機能は、デスクトップ設定ツールを使用して構成できます。各ツールは、GNOME デスクトップの特定の機能を制御します。たとえば、設定ツールを使用して、GNOME デスクトップのテーマを選択できます。テーマとは、インターフェイス部分の外観を指定する設定グループのことです。

設定ツールは、次のいずれかの方法で起動できます。

- メインメニューから「設定」を選択後、必要な項目を選択する。

- デスクトップの「このコンピュータ」オブジェクトをダブルクリックする。
Nautilus ウィンドウが「このコンピュータ」のロケーションで開きます。
「**Preferences**」オブジェクトをダブルクリックし、設定ツールを表示します。必要な項目をダブルクリックします。

アプリケーション

GNOME デスクトップが提供するアプリケーションには、いくつかの共通する特性があります。たとえば、アプリケーションは一貫したルック&フィールを持ちます。アプリケーションが共通する特性を持つのは、同じプログラミングライブラリを使用するためです。標準の GNOME プログラミングライブラリを使用するアプリケーションを、GNOME 対応アプリケーションと呼びます。たとえば、Nautilus および gedit テキストエディタは、GNOME 対応アプリケーションです。

GNOME は、オペレーティングシステムが提供するライブラリ以外のライブラリも提供します。このライブラリにより、GNOME は、GNOME 対応アプリケーションだけでなく、既存のアプリケーションも実行することができます。たとえば、使用しているオペレーティングシステムが UNIX ベースの場合、現在の X11 アプリケーションと Motif アプリケーションを GNOME デスクトップから実行できます。

以下に、GNOME 対応アプリケーションの特長を示します。

- 一貫したルック&フィール
GNOME 対応アプリケーションは、一貫したルック&フィールを持ちます。
GNOME 対応アプリケーションはルック&フィール設定を使用します。この設定は、設定ツールで指定できます。GNOME 対応アプリケーションのルック&フィールを変更するには、以下のツールを使用します。
 - 「メニューとツールバー」設定ツール
 - 「テーマ」設定ツール
- メニューバー、ツールバー、ステータスバー
ほとんどの GNOME 対応アプリケーションには、メニューバー、ツールバー、およびステータスバーがあります。メニューバーには必ず「ファイル」メニューと「ヘルプ」メニューが含まれています。「ファイル」メニューには必ず「ウィンドウを閉じる」メニュー項目が含まれており、「ヘルプ」メニューには必ず「バージョン情報」メニュー項目が含まれています。
ツールバーは、メニューバーの下に表示されるバーです。ツールバーには、最も一般的に使用される操作のボタンが含まれています。ステータスバーは、ウィンドウ下部にあるバーであり、ウィンドウ内の現在の状態についての情報を提供します。
GNOME 対応アプリケーションには、このほかにもバーが含まれることがあります。たとえば、Nautilus には、ロケーションバーがあります。

GNOME 対応アプリケーションの一部のバーは、切り離し可能です。つまり、バーにはハンドルがあり、そのハンドルを使ってバーをグラブし、別の場所にドラッグできます。バーをドラッグしてウィンドウの反対側、または画面の別の部分にはめ込むことができます。たとえば、ファイルマネージャのメニューバー、ツールバーおよびロケーションバーは切り離すことができます。

- デフォルトのショートカットキー

GNOME 対応アプリケーションは、同じ操作に対して、同じショートカットキーを使用します。たとえば、GNOME 対応アプリケーションを終了するには、**Ctrl + Q** キーを押します。GNOME 対応アプリケーションでの操作を元に戻すには、**Ctrl + Z** キーを押します。

- ドラッグ&ドロップ

GNOME 対応アプリケーションは、同じプロトコルを使用して、ドラッグ&ドロップ操作を実現します。このため、項目をドラッグ&ドロップすると、GNOME 対応アプリケーションからは一貫性のある結果が得られます。

さらに、同じプロトコルを使用することで、GNOME 対応アプリケーションは高度な機能で相互に操作できます。たとえば、GNOME 対応アプリケーションは、ドラッグする項目の形式を認識します。HTML ファイルを Nautilus ウィンドウから Web ブラウザにドラッグすると、そのファイルは HTML 形式でブラウザに表示されます。逆に、HTML ファイルをテキストエディタにドラッグすると、このファイルはプレーンテキスト形式でテキストエディタに表示されます。

詳細を調べる

GNOME デスクトップのヘルプでは、次の項目に関する詳細を調べることができます。

- GNOME デスクトップトピック
- アプレット
- アプリケーション

GNOME デスクトップトピックの詳細を調べる

GNOME デスクトップの特定のトピックについて詳しく調べるには、統合されたヘルプシステムを使用できます。ヘルプシステムを起動するには、メインメニューから「ヘルプ」を選択します。

アプレットの詳細を調べる

特定のアプレットについて詳しく調べるには、アプレットを右クリックし、「ヘルプ」を選択します。

アプリケーションの詳細を調べる

特定のアプリケーションについて詳しく調べるには、アプリケーションを起動し、「ヘルプ」→「使い方」を選択します。または、アプリケーションを起動したあとで F1 キーを押します。

第 3 章

GNOME デスクトップセッション

この章では、GNOME セッションの開始、管理、および終了について説明します。

- 45 ページの「セッションの開始」
- 46 ページの「スクリーンロックする」
- 47 ページの「セッションの管理」
- 49 ページの「セッションの終了」

セッションの開始

GNOME にログインし、それをログアウトするまでをデスクトップセッションといいます。ログイン画面は、「GNOME」への入り口です。ログイン画面には、ユーザー名とパスワードを入力するフィールドがあります。ログイン画面では、セッションの言語などのログインオプションを選択できます。

セッションは、ログインすると開始されます。ユーザー名とパスワードが認証されると、セッションマネージャが起動します。セッションマネージャはセッションを管理します。たとえば、一番最後のセッションの状態を保存し、次回ログインしたときに、そのセッションから開始することができます。セッションマネージャは次のものを保存し復元します。

- フォント、色、マウス設定など、外観や機能設定
- ファイルマネージャウィンドウおよびテキストエディタウィンドウなど、実行していたアプリケーション。セッションマネージャが管理しないアプリケーションは、保存および復元できない。たとえば、端末ウィンドウのコマンドラインから vi エディタを起動した場合、セッションマネージャは編集セッションを復元できません。

セッションにログインする

セッションにログインするには、次の手順を実行します。

1. ログイン画面で「セッション」アイコンを選択します。利用可能なデスクトップ環境のリストから「GNOME」を選びます。
2. ログイン画面の「ユーザ名」フィールドにユーザ名を入力後、Return キーを押します。
3. ログイン画面の「パスワード」フィールドにパスワードを入力後、Return キーを押します。

正常にログインできると、セッションマネージャがセッションを開始します。初めてセッションにログインする場合、セッションマネージャは新しいセッションを開始します。すでにログインしたことがあり、前のセッションの設定を保存した場合は、セッションマネージャが前のセッションを復元します。

ログインする前にシステムを停止または再起動する場合は、ログイン画面の「アクション」アイコンをクリックします。ダイアログが表示されます。必要なオプションを選択し、「了解」をクリックします。

異なる言語でセッションにログインする

異なる言語でセッションにログインするには、次の操作を実行します。

1. ログイン画面で「言語」アイコンを選択します。使用可能な言語のリストから使用する言語を選択します。
2. ログイン画面の「ユーザ名」フィールドにユーザ名を入力後、Return キーを押します。
3. ログイン画面の「パスワード」フィールドにパスワードを入力後、Return キーを押します。

注 - 異なる言語でセッションにログインする場合は、ユーザインターフェイスの言語を選択します。ここでは、セッション用のキーボードレイアウトを指定しません。キーボードレイアウトを指定するには、「キーボード配列切り替え」アプレットを使用します。

スクリーンロックする



スクリーンロックするには、次のいずれかの操作を実行します。

- 「起動」 → 「スクリーンロック」を選択する
- 「画面のロック」ボタンがパネルにある場合は、「画面のロック」ボタンをクリックする。
「画面のロック」ボタンをパネルに追加するには、そのパネルで右クリックする「パネルに追加」 → 「アクション」 → 「画面のロック」の順に選択します。

スクリーンロックすると、スクリーンセーバーが起動します。スクリーンロックを解除するには、マウスを動かして、「スクリーンロック」ダイアログを表示します。ユーザ名とパスワードを「スクリーンロック」ダイアログに入力して、Return キーを押します。

スクリーンセーバーを設定するには、「設定ツールの使用」を参照してください。

注 - 正しくスクリーンロックするには、スクリーンセーバーを有効に設定しておく必要があります。

セッションの管理

GNOME デスクトップのセッション管理を設定するには、「セッション」設定ツールを使用します。「セッション」設定ツールは、アプリケーションの形式を次のように認識します。

- セッション管理されるアプリケーション。セッションの設定を保存した場合、セッションマネージャはセッション管理下のすべてのアプリケーションを保存する。ログアウトし、再びログインすると、セッションマネージャはセッション管理下のアプリケーションを自動的に起動する
- セッション管理されないアプリケーション。セッションの設定を保存した場合、セッションマネージャはセッション管理下でないアプリケーションを保存しない。ログアウトし、再びログインすると、セッションマネージャはセッション管理下でないアプリケーションを起動しない。アプリケーションは手動で起動する必要がある。または、「セッション」設定ツールを使用して、セッション管理下ではないアプリケーションのうち、自動的に起動するアプリケーションを指定する

ログインおよびログアウト時のセッションの動作を定義する

ログインおよびログアウト時のセッションの動作を設定するには、「セッション」設定ツールを使用します。「セッションのオプション」タブセクションで、必要な変更を行います。たとえば、ログイン時にスプラッシュ画面を表示するように選択できます。

スタートアップを使用する

セッションは、非セッション管理のアプリケーションで開始するように設定できます。非セッション管理のアプリケーションを設定するには、「セッション」設定ツールを使用します。アプリケーションの追加、編集、および削除には、「自動起動プログラム」タブセクションを使用します。設定を保存し、ログアウトすると、次回ログインしたときにスタートアップが自動的に起動されます。

現在のセッションでアプリケーションをブラウズする

現在のセッションでアプリケーションをブラウズするには、「セッション」設定ツールを使用します。「現在のセッション」タブセクションには、次の項目がリストされています。

- 現在実行されているすべての GNOME アプリケーション。これらのアプリケーションは、セッションマネージャに接続することができ、そのアプリケーションの状態を保存できる
- すべての設定ツール。これらのツールはセッションマネージャに接続することができ、そのツールの状態を保存できる

「現在のセッション」タブセクションを使用して、アプリケーションまたは設定ツールのセッション設定で操作 (数に制限あり) を実行できます。たとえば、起動順序を編集したり、リストに載っているすべての GNOME アプリケーションまたは設定ツールのスタイルを再設定できます。

セッション設定を保存する

セッションの設定を保存するには、次の手順を行います。

1. セッションの終了時に、自動的に設定を保存するようにセッションを設定します。セッションを設定するには、「セッション」設定ツールを使用します。「セッション」設定ツールが起動します。「セッションのオプション」タブセクションの「変更を自動的にセッションに保存する」オプションを選択します。

2. セッションを終了します。

「変更を自動的にセッションに保存する」オプションを選択しない場合、ログアウトしたときに、現在の設定を保存するかどうかを問うダイアログが表示されます。設定を保存するには、このオプションを選択してからログアウトします。

セッションの終了



セッションを終了するには、現在アクティブなプロセスをすべて閉じ、次のいずれかの操作を実行します。

- 「ログアウト」ボタンをクリックします。
- メインメニューを開き、「*Name* をログアウト」を選択します。

セッションを終了する前に、現在の設定を保存しておく、次回ログインしたときに、セッションを復元できます。ログアウト処理中に、現在の設定を保存するかどうかを問うダイアログが表示されます。「セッション」設定ツールでは、現在の設定を自動的に保存するオプションを選択できます。

第 4 章

パネルの操作方法

この章では、パネルの操作方法について説明します。

- 51 ページの「パネルの概要」
- 52 ページの「パネルの管理」
- 55 ページの「パネルオブジェクト」
- 58 ページの「アプレット」
- 59 ページの「ランチャー」
- 64 ページの「ボタン」
- 67 ページの「メニュー」
- 68 ページの「引き出し」

パネルの概要

パネルは、アプリケーションおよびアプレットを実行したり、ほかの作業を実行したりできる GNOME デスクトップ上の領域です。セッションを始めて開始すると、GNOME デスクトップには少なくとも 1 つのパネルがあります。システム管理者は、ローカルな要求に応じてデフォルトのパネルを設定している場合があります。したがって、ここで説明するパネルと多少異なる可能性があります。

必要に応じて、パネルの動作や外観を変更できます。パネルからオブジェクトを追加、削除することもできます。複数のパネルを作成し、各パネルで異なる設定、オブジェクト、および背景を選ぶことができます。パネルを非表示にすることもできます。

パネルの管理

以下の節では、パネルの管理方法について説明します。

新しいパネルを追加する

パネルを追加するには、パネルの空きスペースを右クリックし、「新規パネル」を選択します。新しいパネルが GNOME デスクトップに追加されます。新しいパネルにはオブジェクトは含まれていません。利用者の環境に合わせて、新しいパネルをカスタマイズできます。

パネルを操作する

パネルを操作するには、パネル上の空いているスペースで、左クリック、右クリック、または中央クリックします。パネルに空きスペースがない場合は、非表示ボタンのいずれか 1 つを中央クリックまたは右クリックすることで、パネルを選択できます。パネル上で非表示ボタンが見えない場合は、パネルの設定を変更して、非表示ボタンを可視にします。

次のようにマウスボタンを使用して、パネルを操作できます。

中央クリック パネルをグラブし、そのパネルを別の場所にドラッグできる

右クリック パネルポップアップメニューを開く

パネルを移動する

パネルは別の場所に移動できます。パネルを移動するには、パネル上の空いているスペースで中央クリックし、中央ボタンを押したままそのパネルを別の場所にドラッグします。

パネルを非表示にする

パネルを非表示にしたり、表示したりすることができます。パネルを非表示にするには、非表示ボタンを使用します。パネル上で非表示ボタンが見えない場合は、パネルの設定を変更して、非表示ボタンを可視にします。

非表示ボタンは、パネルの両端にあります。非表示ボタンには、オプションの矢印アイコンが含まれています。次の図に、非表示ボタンを示します。



パネルを非表示にするには、非表示ボタンのいずれか 1 つをクリックします。パネルは、非表示ボタン上の矢印方向に縮小します。パネルのもう一方の端にある非表示ボタンは、可視のままです。

非表示にしたパネルを再表示するには、可視の非表示ボタンをクリックします。パネルは、非表示ボタン上の矢印方向に拡大します。両方の非表示ボタンが可視になります。

パネルは、オートハイド (自動的に隠す) に設定できます。オートハイドを設定すると、マウスがパネルをポイントしていない場合は、パネルが自動的に隠れます。パネルが存在している画面の一部をポイントすると、そのパネルが再び表示されます。パネルをオートハイドに設定するには、パネルの設定を変更します。

パネルの設定を変更する

すべてのパネルの設定を変更するには、「パネル」設定ツールで必要な変更を行います。たとえば、パネルのアニメーション設定を変更することができます。

個々のパネルに対して、それぞれ設定を変更することもできます。パネルの位置、隠す場合の動作、視覚的な外観など、各パネルの特長を変更することができます。

パネルの設定を変更するには、次の手順を実行します。

1. パネル上の空いているスペースで右クリックし、「設定」を選択して「パネルの設定」ダイアログを表示します。「パネルの設定」ダイアログには、次のタブセクションがあります。
 - 「一般」
 - 「背景」
2. パネルのサイズ、位置、非表示プロパティを変更するには、「一般」タブをクリックします。以下の表に、「一般」タブセクションのダイアログ要素を示します。

ダイアログ要素	「説明」
「名前」	パネルの名前を入力する。パネルとデスクトップの切り替えにショートカットキーを使用する場合、このパネル名が表示される

ダイアログ要素	「説明」
「向き」	画面上のパネルの位置を選択。パネルの変更位置をクリックする
「サイズ」	スピンボックスを使用して、パネルのサイズを指定する
「広げる」	パネルのある画面の最大の長さまでパネルを拡大する
「自動的に隠す」	自動的に隠すを有効にする
「非表示ボタンを表示」	パネル上で非表示ボタンを表示する
「非表示ボタンを矢印表示」	非表示ボタンが有効な場合に、非表示ボタン上に矢印を表示する

3. パネルの背景を変更するには、「背景」タブをクリックし、パネルの背景タイプを選択します。選択は次のとおり

ダイアログ要素	「説明」
「なし (システムのテーマを使用する)」	デフォルトのパネル背景を使用する。デフォルトのパネル背景は、「テーマ」設定ツールの設定によって異なる
「単一色」	パネル背景を1色指定する。「色」ボタンをクリックして、カラー選択ダイアログを表示する。任意の色を「色の選択」ダイアログから選ぶ 「スタイル」スライダで、色の透明度または不透明度を指定する。たとえば、パネルを透明にするには、スライダを「透明的」の端まで移動する。
「背景の画像」	パネル背景の画像を指定する。ドロップダウンコンビネーションボックスに使用する画像のファイル名を入力する。または、「参照」ボタンをクリックしてファイルをブラウズする。ファイルを選択したら、「了解」をクリックする

色または画像をパネルにドラッグして、それをパネルの背景として設定することもできます。詳細については、54 ページの「パネルの背景に色または画像をドラッグする」を参照してください。

4. 「閉じる」をクリックして、「パネルの設定」ダイアログを閉じます。

パネルの背景に色または画像をドラッグする

色または画像をパネルにドラッグして、それをパネルの背景として設定できます。色または画像は、多数のアプリケーションからドラッグできます。たとえば、Nautilus ファイルマネージャの色をパネルにドラッグして、パネルの背景として設定できます。任意の「色の選択」ダイアログから色をドラッグすることもできます。

画像をパネルにドラッグして、それをパネルの背景として設定できます。パターン画像をファイルマネージャからドラッグして、パネルの背景に設定することもできます。

パネルを削除する

GNOME デスクトップからパネルを削除するには、削除したいパネルで右クリックし、「パネルを削除」を選択します。

注 - GNOME デスクトップには少なくとも 1 つのパネルが必要です。GNOME デスクトップにパネルが 1 つしかない場合、そのパネルは削除できません。

パネルオブジェクト

この節では、パネルに追加できるオブジェクト、およびパネルから使用できるオブジェクトについて説明します。

パネルオブジェクトを操作する

次のようにマウスボタンを使用して、パネルオブジェクトを操作できます。

- | | |
|--------|----------------------------------|
| 左クリック | パネルオブジェクトを起動する |
| 中央クリック | オブジェクトをグラブし、そのオブジェクトを別の場所にドラッグする |
| 右クリック | パネルオブジェクトポップアップメニューを開く |

アプレットのパネルオブジェクトは、これとは異なる方法で操作します。詳細については、59 ページの「アプレットを選択する」を参照してください。

パネルにオブジェクトを追加する

パネルにオブジェクトを追加するには、次のいくつかの方法があります。

■ パネルポップアップメニュー

パネル上の空いているスペースで右クリックし、パネルポップアップメニューを開きます。パネルポップアップメニューには、「パネルに追加」サブメニューがあります。「パネルに追加」サブメニューを使用して、次のオブジェクトをパネルに追加できます。

- 以下のカテゴリのアプレット。アクセサリ、アミューズメント、インターネット、マルチメディア、ユーティリティ
- よく行うアクションへクイックアクセスするボタン。「強制終了」ボタン、「画面のロック」ボタン、「ログアウト」ボタン、「アプリケーションの実行」ボタン、「スクリーンショット」ボタン、「ファイルの検索」ボタン、「デスクトップの表示」ボタン
- ランチャー
- メニューからランチャー
- メインメニュー:
- メニューバー
- 引き出し
- 任意のメニュー
任意のメニューでランチャーを右クリックすると、そのランチャーのポップアップメニューが開きます。このポップアップメニューを使用して、パネルにランチャーを追加できます。
メニュー、ランチャー、およびアプレットをメニューからパネルにドラッグすることもできます。
- ファイルマネージャ
各ランチャーは .desktop ファイルに対応します。.desktop ファイルをパネルにドラッグすることで、そのランチャーをパネルに追加できます。

オブジェクトの設定を変更する

ランチャーや引き出しなどのパネルオブジェクトには、関連するプロパティのセットがあります。設定は、各オブジェクトのタイプにより異なります。設定は、次のような詳細を指定します。

- ランチャーを起動するコマンド
- メニューのソースファイルの位置
- オブジェクトを表すアイコン

オブジェクトの設定を変更するには、次の手順を実行します。

1. オブジェクトを右クリックして、図 4-1 に示すパネルオブジェクトポップアップメニューを開きます。

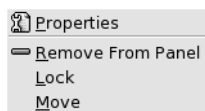


図 4-1 パネルオブジェクトポップアップメニュー

- 2. 「設定」を選択します。「設定」ダイアログを使用して、必要に応じて設定を変更します。「設定」ダイアログ内の設定は、手順 1 で選択したオブジェクトにより異なります。
- 3. 「OK」をクリックして変更を適用し、「設定」ダイアログを閉じます。

パネルオブジェクトを移動する

パネルオブジェクトはパネル内で移動することも、パネル間で移動することもできます。また、パネルと引き出し間でオブジェクトを移動することもできます。

パネルオブジェクトを移動するには、オブジェクトを中央クリックし、ボタンを押したままそのオブジェクトを別の位置にドラッグします。マウスの中央ボタンを放すと、そのオブジェクトが新しい位置に固定されます。

または、パネルオブジェクトポップアップメニューを使用してオブジェクトを移動することもできます。次の手順を実行します。

- 1. オブジェクトを右クリックし、「移動」を選択します。
- 2. オブジェクトの新しい位置をポイントし、任意のマウスボタンをクリックしてその位置にオブジェクトを固定します。移動先は、GNOME デスクトップ上に現在あるパネルであれば、どのパネルでもかまいません。

パネルオブジェクトを動かすと、パネル上のほかのオブジェクトの位置に影響します。パネル上でのオブジェクトの動きを制御するには、動作モードを指定します。動作モードを指定するには、パネルオブジェクトを移動するときに次のいずれかのキーを押します。

キー	動作モード	説明
キーを押さない	スイッチ動作	オブジェクトは、ほかのパネルオブジェクトと位置が入れ替わる。スイッチ動作は、デフォルトの動作モード
Alt キー	フリー動作	オブジェクトは、パネル上のほかのパネルオブジェクトを飛び越えて、次の空きスペースに移動する
Shift キー	プッシュ動作	オブジェクトは、パネルに沿ってほかのパネルオブジェクトをプッシュする

パネルオブジェクトをロックする

パネルオブジェクトをロックして、パネル上のオブジェクトの位置を固定できます。他のパネルオブジェクトを移動するときに一部のパネルオブジェクトの位置を変更したくない場合、この機能が役立ちます。

パネル上のオブジェクトの位置をロックするには、オブジェクトを右クリックしてパネルオブジェクトのポップアップメニューを開き、「ロック」を選択します。オブジェクトのロックを解除するには、そのオブジェクトを右クリックし、「ロック解除」を選択します。

パネルオブジェクトを削除する

パネルからオブジェクトを削除するには、そのオブジェクトを右クリックし、パネルオブジェクトポップアップメニューを開いて、「パネルから削除」を選択します。

アプレット

アプレットとは、小さなアプリケーションで、そのユーザーインターフェイスはパネル内にあります。アプレットの操作には、アプレットパネルオブジェクトを使用します。たとえば、以下の図は、左から順に次のアプレットを示しています。

- ウィンドウリスト: システムで現在開いているウィンドウを表示する
- CD プレーヤー: システムの CD を制御する
- ボリュームコントロール: システムのスピーカの音量を制御する



アプレットをパネルに追加する

アプレットをパネルに追加するには、パネルポップアップメニューを使用します。パネル上の空いているスペースで右クリックし、パネルポップアップメニューを開きます。「パネルに追加」を選択して、次のいずれかのサブメニューから追加するアプレットを選びます。

- 「アクセサリ」
- 「アミューズメント」
- 「インターネット」
- 「マルチメディア」
- 「ユーティリティ」

サブメニューからアプレットをドラッグして、パネルに追加することもできます。

アプレットを選択する

アプレットの設定を変更するには、最初にアプレットを右クリックして、パネルオブジェクトポップアップメニューを表示します。アプレットを移動するには、そのアプレットを中央クリックします。

パネルオブジェクトポップアップメニューを表示したり、アプレットを移動するには、以下に示すように、アプレット上のクリックする場所に制約があります。

- 一部のアプレットには、アプレット特有のコマンドのポップアップメニューがあり、このメニューはアプレットの特定の部分を右クリックした場合に開く。たとえばウィンドウリストアプレットの場合、左側に垂直ハンドルがあり、右側にウィンドウを表すボタンがある。ウィンドウリストアプレットのパネルオブジェクトポップアップメニューを開くには、ハンドルを右クリックする必要がある。右側にあるボタンを右クリックすると、ボタンのポップアップメニューが開く
- あるアプレットには、アプレットの選択に使用できない領域がある。たとえばコマンドラインアプレットには、コマンドを入力するためのフィールドがある。このフィールドを中央クリックまたは右クリックしてアプレットを選択することはできない。代わりに、アプレットの別の部分を中央クリックまたは右クリックする

アプレットの設定を変更する

アプレットの設定を変更するには、次の手順を実行します。

1. アプレットを右クリックして、「設定」を選択します。「設定」ダイアログを使用して、設定を必要に応じて変更します。アプレットの設定は、アプレットによって異なります。
2. 「閉じる」をクリックして、「設定」ダイアログを閉じます。

ランチャー

ランチャーをクリックすると、次のいずれかの操作を開始します。

- 特定のアプリケーションを起動する
- コマンドを実行する
- ファイルマネージャウィンドウでフォルダを開く
- 特定の Uniform Resource Locator (URL) でブラウザを開く。URL は、Web 上の特定の位置を示すアドレス
- 特別な *Uniform Resource Identifiers* (URI) を開く。GNOME デスクトップには、ファイルマネージャから特定の機能にアクセスするための特別な URI があります。

ランチャーは、GNOME デスクトップ上の次の場所にあります。

- パネル: パネルでは、ランチャーはアイコンとして表示される
- メニュー: メニューでは、ランチャーはメニュー項目として表示される。通常、メニュー項目の横にアイコンがある
- デスクトップ: デスクトップでは、ランチャーはアイコンとして表示される

ランチャーの設定は変更できます。たとえば、ランチャーの設定として、ランチャー名、ランチャーを表すアイコン、ランチャーの実行方法があります。

パネルにランチャーを追加する

パネルにランチャーを追加するには、次の方法を使用します。

- パネルポップアップメニュー

新しくランチャーを作成するには、パネル上の空いているスペースで右クリックし、「パネルに追加」→「ランチャー」を選択します。「ランチャーの作成」ダイアログが表示されます。このダイアログに関する詳細については、60 ページの「「ランチャーの作成」ダイアログを使用してランチャーを作成する」を参照してください。

既存のランチャーをパネルに追加するには、パネルポップアップメニューから「パネルに追加」→「アプリケーション」を選択します。追加するランチャーをメニューから選びます。

- 任意のメニュー

任意のメニューからパネルにランチャーを追加するには、次のいずれかの手順を実行します。

- ランチャーを含むメニューを開く。ランチャーをパネルにドラッグする
- ランチャーの追加先のパネルで、そのランチャーを含むメニューを開く。ランチャーのタイトルを右クリックする。「ランチャーをパネルに追加」を選択する

- ファイルマネージャ

ファイルマネージャからパネルにランチャーを追加するには、そのランチャーの .desktop ファイルをファイルシステムから探します。ランチャーを追加するには、.desktop ファイルをパネルにドラッグします。

「ランチャーの作成」ダイアログを使用してランチャーを作成する

「ランチャーの作成」ダイアログを使用してランチャーを作成するには、次の手順を実行します。

1. パネルの任意の部分で右クリックし、パネルポップアップメニューを開きます。「パネルに追加」→「ランチャー」を選択して、「ランチャーの作成」ダイアログを表示します。ダイアログの「基本」タブセクションが表示されます。

2. ダイアログにランチャーの設定を入力します。次の表に、「基本」タブセクションのダイアログ要素を示します。

ダイアログ要素	「説明」
「名前」	ランチャー名を指定する。「拡張」タブを使用して、ランチャー名の翻訳を追加できる。ここで指定した名前は、メニューまたはデスクトップにランチャーを追加したときに表示される
「一般名」	ランチャーが属するアプリケーションのクラスを指定する。たとえば、 <code>gedit</code> ランチャーの場合は、テキストエディタと入力する。「拡張」タブを使用して、「一般名」の翻訳を追加できる
「コメント」	ランチャーについての短い説明を入力する。このコメントは、パネル上のランチャーアイコンをポイントしたときに表示されるツールチップになる。「拡張」タブセクションを使用して、コメントの翻訳を追加できる
「コマンド」	ランチャーをクリックしたときに実行されるコマンドを指定する サンプルコマンドについては、次の節を参照すること
「タイプ」	このドロップダウンのコンビネーションボックスを使用して、ランチャーのタイプを指定する。次の項目から選択する ■ 「アプリケーション」: アプリケーションを起動するランチャーを作成する ■ 「リンク」: URI にリンクしたランチャーを作成する
「アイコン」	ランチャーを表すアイコンを選択する。アイコンを選択するには、「アイコンなし」ボタンをクリックする。「アイコンを選択」ダイアログが表示される。ダイアログからアイコンを選択する。別のディレクトリにあるアイコンを選択するには、「参照」をクリックする。アイコンを選択したら「OK」をクリックする
「端末で実行」	アプリケーションまたはコマンドを端末ウィンドウで実行する場合に選択する。アプリケーションまたはコマンドを実行するウィンドウが作成されない場合に、このオプションを選択する

3. ランチャーの追加設定を設定するには、「拡張」タブをクリックします。「ランチャー設定」ダイアログの「拡張」タブセクションが表示されます。
4. ダイアログに、ランチャーの追加設定を入力します。次の表に、「拡張」タブセクションの上部にあるダイアログ要素を示します。

ダイアログ要素	「説明」
「使用前にこれを試す」	ランチャーを起動する前に、コマンドを入力して確認する。 コマンドが実行可能であり、パスに含まれている場合は、ランチャーがパネルに表示される

ダイアログ要素	「説明」
「文書」	ランチャーのヘルプファイルへのパスを入力する。このフィールドにパスを入力すると、該当するアプリケーションに関するヘルプが、そのランチャーのポップアップメニューに表示される

5. 「基本」タブセクションの「名前」、「汎用名」、および「コメント」フィールドの翻訳を追加することもできます。翻訳を追加するには、「名前/コメントの翻訳」表に次のように翻訳説明を入力します。

フィールド	「説明」
最初のフィールド	追加する翻訳の言語を 2 文字コードで入力する
2 番目のフィールド	ランチャーの「名前」の翻訳を入力する
3 番目のフィールド	ランチャーの「汎用名」の翻訳を入力する
4 番目のフィールド	ランチャーの「コメント」の翻訳を入力する

入力したあとで、「追加/設定」ボタンをクリックします。

翻訳を変更するには、その翻訳を選択します。ダイアログの下の部分に、翻訳されたテキストが表示されます。必要に応じてフィールドを変更したあと、「追加/設定」ボタンをクリックします。

翻訳を削除するには、その翻訳を選択し、「削除」ボタンをクリックします。

6. ランチャーを作成して「ランチャー設定」ダイアログを閉じるには、「OK」をクリックします。

ランチャーコマンド

「コマンド」フィールドで入力できるコマンドの種類は、「タイプ」ドロップダウンコンビネーションボックスで選択したオプションによって異なります。「アプリケーション」を「種類」ドロップダウンコンビネーションボックスから選択した場合は、通常のコマンドを入力できます。以下の表に、いくつかのサンプルコマンドと実行されるアクションを示します。

アプリケーションコマンドのサンプル	操作
gedit	gedit テキストエディタアプリケーションを起動する

アプリケーションコマンドのサンプル	操作
<code>gedit /user123/loremipsum.txt</code>	gedit テキストエディタアプリケーションで /user123/loremipsum.txt ファイルを開く
<code>nautilus /user123/Projects</code>	ファイルマネージャウィンドウで /user123/Projects を開く

「リンク」を「タイプ」ドロップダウンコンビネーションボックスから選択した場合は、リンクコマンドを入力できます。以下の表に、いくつかのサンプルリンクコマンドと実行されるアクションを示します。

リンクコマンドのサンプル	操作
<code>http://www.gnome.org</code>	デフォルトブラウザで GNOME Web サイトを開く
<code>ftp://ftp.gnome.org</code>	デフォルトブラウザで GNOME FTP サイトを開く
<code>applications:///</code>	ファイルマネージャウィンドウでアプリケーションの場所を開く。アプリケーションを起動するには、そのアプリケーションをダブルクリックする
<code>preferences:///</code>	ファイルマネージャウィンドウで「デスクトップ設定」の場所を開く。設定ツールを起動するには、設定ツールをダブルクリックする

ランチャーの設定を変更する

ランチャーの設定を変更するには、次の手順を実行します。

1. ランチャーを右クリックして、パネルオブジェクトポップアップメニューを開きます。
2. 「設定」を選択します。「ランチャーの設定」ダイアログを使用して、必要に応じて設定を変更します。「ランチャーの設定」ダイアログの詳細については、60 ページの「「ランチャーの作成」ダイアログを使用してランチャーを作成する」を参照してください。
3. 「閉じる」をクリックして、「ランチャーの設定」ダイアログを閉じます。

ボタン

ボタンをパネルに追加すると、よく実行するアクションや機能にすばやくアクセスできます。

「強制終了」ボタン



「強制終了」ボタンを使用すると、アプリケーションを終了するウィンドウを選択できます。コマンドに応答しないアプリケーションを終了する場合、このボタンは役に立ちます。

アプリケーションを終了するには、「強制終了」ボタンをクリックして、終了するアプリケーションのウィンドウをクリックします。「強制終了」ボタンをクリックした後にアプリケーションの終了をキャンセルするには、Esc キーを押します。

「画面のロック」ボタン



「画面のロック」ボタンは画面をロックして、スクリーンセーバーを起動します。再びセッションにアクセスするには、パスワードを入力する必要があります。画面を正しくロックするには、スクリーンセーバーを有効に設定しておく必要があります。

パネルに「画面のロック」ボタンを追加するには、パネル上の空いているスペースで右クリックします。「パネルに追加」→「アクション」→「画面のロック」の順に選択します。

「ロック」ボタンを右クリックして、スクリーンセーバー関連コマンドのメニューを開きます。表 4-1 に、メニューから利用可能なコマンドを示します。

表 4-1 スクリーンロックメニュー項目

メニュー項目	機能
「スクリーンセーバーを実行」	すぐにスクリーンセーバーを起動し、画面はロックしない
「画面のロック」	すぐに画面をロックする。このコマンドは、「ロック」ボタンをクリックした場合と同様の機能を行う
「スクリーンセーバーデーモンを強制終了」	スクリーンセーバープロセスを終了する。スクリーンセーバープロセスを終了したあとは、画面をロックできない
「スクリーンセーバーデーモンを再起動」	スクリーンセーバープロセスを終了し再起動する。パスワードを変更したあとで、このコマンドを使用する。スクリーンセーバープロセスを再起動するとき、スクリーンセーバーの新しいパスワードを使用する
「設定」	「スクリーンセーバー」設定ツールを表示する

ログアウトボタン



ログアウトボタンは、GNOME セッションをログアウトするプロセスを開始します。

パネルにログアウトボタンを追加するには、パネル上の空いているスペースで右クリックします。「パネルに追加」、「アクション」、「ログアウト」の順に選択します。セッションを終了、またはシステムを停止するには、「ログアウト」ボタンをクリックします。

「アプリケーションの実行」ボタン



「アプリケーションの実行」ボタンで「アプリケーションの実行」ダイアログを開くことができます。

パネルに「アプリケーションの実行」ボタンを追加するには、パネル上の空いているスペースで右クリックします。「パネルに追加」、「アクション」、「アプリケーションの実行」の順に選択します。「アプリケーションの実行」ダイアログを開くには、「アプリケーションの実行」ボタンをクリックします。

「アプリケーションの実行」ダイアログの詳細は、「メニューの操作方法」を参照してください。

「スクリーンショット」ボタン



「スクリーンショット」ボタンを使って画面のスクリーンショットを撮ることができます。

パネルに「スクリーンショット」ボタンを追加するには、パネル上の空いているスペースで右クリックします。「パネルに追加」、「アクション」、「スクリーンショット」の順に選択します。画面のスクリーンショットを撮るには、「スクリーンショット」ボタンをクリックします。

スクリーンショットの撮り方については、「メニューの操作方法」を参照してください。

「ファイルの検索」ボタン



「ファイルの検索」ボタンを使って、「ファイルの検索」を開くことができます。

パネルに「ファイルの検索」ボタンを追加するには、パネル上の空いているスペースで右クリックします。「パネルに追加」、「アクション」、「ファイルの検索」の順に選択します。「ファイルの検索」を開くには、「ファイルの検索」ボタンをクリックします。

「ファイルの検索」の詳細は、『検索ツールのマニュアル』を参照してください。

「デスクトップの表示」ボタン



「デスクトップの表示」ボタンを使って、開いているすべてのウィンドウを最小化し、デスクトップを表示できます。

パネルに「デスクトップの表示」ボタンを追加するには、パネル上の空いているスペースで右クリックします。「パネルに追加」、「アクション」、「デスクトップの表示」の順に選択します。すべてのウィンドウを最小化し、デスクトップを表示するには、「デスクトップの表示」ボタンをクリックします。

「通知スペース」アプレット



「通知スペース」アプレットは、アプリケーションのアクティビティを示す各種アプリケーションのアイコンを表示します。たとえば、CD プレーヤー アプリケーションで CD を再生しているときは、CD アイコンが「通知スペース」アプレットに表示されます。上の図には、通知スペースアプレット内の CD アイコンが示されています。

「通知スペース」アプレットをパネルに追加するには、パネル上の空いているスペースで右クリックします。「パネルに追加」→「ユーティリティ」→「通知スペース」の順に選択します。

メニュー

次のタイプのメニューをパネルに追加できます。

- メインメニュー:メインメニューを使用して、ほとんどすべての標準アプリケーション、コマンド、および構成オプションにアクセスできます。メインメニューをパネルに追加するには、パネル上の空いているスペースで右クリックし、「パネルに追加」→「メインメニュー」を選択します。パネルに追加するメインメニューオブジェクトの数に制限はありません。

- **メニューバー:**メニューバーのメニューを使用して、ほとんどすべての標準アプリケーション、コマンド、および構成オプションにアクセスできます。メニューバーには、「アプリケーション」メニューと「アクション」メニューがあります。メニューバーをパネルに追加するには、パネル上の空いているスペースで右クリックし、「パネルに追加」→「メニューバー」を選択します。パネルに追加するメニューバーオブジェクトの数に制限はありません。
- **システムメニュー:**システムメニューには、GNOME デスクトップ上で使用できる標準のアプリケーションとツールが含まれています。「アプリケーション」メニューおよび「アクション」メニューは、システムメニューです。システムメニューをパネルに追加するには、そのメニューからランチャーを右クリックし、「メニュー全体」→「メニューとしてパネルに追加」を選択します。

パネルに追加するメニューは、矢印が付いたアイコンで表されます。矢印は、そのアイコンがメニューまたは引き出しを表すことを示します。図 4-2 は、パネル上に表示される標準的なメニューを示しています。



図 4-2 パネル上の標準的なメニューオブジェクト

引き出し

引き出しは、パネルの拡張機能の 1 つです。引き出しは、パネルを表示したり隠したりするのと同じ方法で、開いたり閉じたりできます。引き出しは、ランチャー、メニュー、アプレット、ほかのパネルオブジェクト、およびほかの引き出しなど、すべてのパネルオブジェクトを含むことができます。引き出しを開くと、パネル上のオブジェクトを使用するのと同様の方法でオブジェクトを使用できます。

次の図に、2 つのパネルオブジェクトを含む開いた引き出しを示します。



引き出しアイコン上の矢印は、そのアイコンが引き出しまたはメニューを表すことを示します。

引き出しに対するオブジェクトの追加、移動、および削除は、パネルに対するオブジェクトの追加、移動、および削除と同じ方法で行えます。

引き出しを開くまたは閉じる

引き出しを開くには、パネル内の引き出しオブジェクトをクリックします。引き出しは、次の方法で閉じることができます。

- 引き出しをクリックする
- 引き出し非表示ボタンをクリックする

引き出しをパネルに追加する

引き出しは、次の方法でパネルに追加できます。

- パネルポップアップメニュー
パネル上の空いているスペースで右クリックし、「パネルに追加」→「引き出し」を選択します。
- 任意のメニュー
メニューは、引き出しオブジェクトとしてパネルに追加できます。
メニューを引き出しとしてパネルに追加するには、パネルからメニューを開きます。メニュー内の任意のランチャーを右クリックし、「メニュー全体」→「引き出しとしてパネルに追加」を選択します。

オブジェクトを引き出しに追加する

パネルに追加するのと同じように、オブジェクトを引き出しに追加します。詳細については、55 ページの「パネルにオブジェクトを追加する」を参照してください。

引き出し設定を変更する

すべてのパネルと引き出しの設定を変更するには、Panel 設定ツールを使用します。たとえば、パネルおよび引き出しでのオブジェクトの外観および動作に関連するさまざまなオプションを選択できます。引き出しにのみ関連するオプションを選択することもできます。たとえば、引き出し内のランチャーをクリックしたときに引き出しを閉じるオプションを選択できます。

個々の引き出しに対して、別々の設定を変更することもできます。引き出しの視覚的な外観、引き出しに非表示ボタンがあるかどうかなど、各引き出しの特長を変更することができます。

引き出しの設定を変更するには、次の手順を実行します。

1. 引き出しを右クリックし、「設定」を選択して「パネルの設定」ダイアログを表示します。ダイアログの「一般」タブセクションが表示されます。
2. ダイアログで引き出しの設定を選択します。次の表に、「一般」タブセクションの要素を示します。

ダイアログ要素	「説明」
「名前」	パネルの名前を入力する。パネルとデスクトップの切り替えにショートカットキーを使用する場合、このパネル名が表示される
「サイズ」	パネルのサイズを選択する
「アイコン」	引き出しを表すアイコンを選択する。「アイコン」ボタンをクリックすると、「アイコンセレクト」ダイアログが表示される。ダイアログからアイコンを選択する。「参照」をクリックすると、別のディレクトリにあるアイコンを選択できる。アイコンを選択したら、「了解」をクリックする
「非表示ボタンを表示」	パネル上で非表示ボタンを表示する
「非表示ボタンを矢印表示」	非表示ボタンが有効な場合に、非表示ボタン上に矢印を表示する

3. 「背景」タブセクションを使用して、引き出しの背景を設定できます。「背景」タブセクションに関する詳細については、この項目の 53 ページの「パネルの設定を変更する」の手順を参照してください。色または画像を引き出しにドラッグして、それを引き出しの背景として設定することもできます。詳細については、54 ページの「パネルの背景に色または画像をドラッグする」を参照してください。

4. 「閉じる」をクリックして、「パネルの設定」ダイアログを閉じます。

第 5 章

メニューの操作方法

この章では、GNOME デスクトップでのメニューの操作方法について説明します。

- 73 ページの「メニューの概要」
- 74 ページの「メニューの特長」
- 76 ページの「アプリケーションメニュー」
- 76 ページの「アクションメニュー」
- 79 ページの「メインメニュー」
- 80 ページの「メニューバー」
- 80 ページの「メニューのカスタマイズ」

メニューの概要

デスクトップのすべての機能には、メニューからアクセスできます。パネルにはメニューが含まれており、メニューとパネルを組み合わせることで作業を実行できます。メニュー項目をパネルにコピーするなど、さまざまな操作をメニューを使用して実行できます。

GNOME デスクトップでは次のメニューにアクセスできます。

- メインメニュー: メインメニュー から「アプリケーション」メニューにアクセスできます。パネル上に多数の「メインメニュー」ボタンを表示させることができます。メインメニューからは「アクション」メニューにもアクセスできます。「アクション」メニューの項目は、メインメニューのトップレベルにあります。
- メニューバー: メニューバーからは、「アプリケーション」メニューと「アクション」メニューにアクセスできます。パネル上に多数のメニューバーアプレットを表示させることができます。
- 「アプリケーション」メニュー: 「アプリケーション」メニューから、多数のアプリケーション、コマンド、および構成オプションにアクセスできます。

- 「アクション」メニュー: 「アクション」メニューから、さまざまな作業を実行できるコマンドにアクセスできます。たとえば、検索ツールを起動したり、GNOME デスクトップからログアウトしたりできます。

デスクトップを右クリックすることにより、「デスクトップ」メニューを開くことができます。「デスクトップ」メニューでは、デスクトップに関連する作業を実行できます。

これらのすべてのメニューにより、多様な手段で作業を実行できるため、好みの方法で作業できます。

メニューの特長

メニューには次の項目があります。

- サブメニュー
- ランチャーまたはメニュー項目

メニュー項目の右側にある矢印は、その項目にサブメニューがあることを示します。サブメニューにマウスのカーソルを置くと、サブメニューが開きます。サブメニューから項目を選ぶことができます。

ランチャーを選んだ場合は、そのランチャーはアプリケーションを起動するか、コマンドを実行します。ランチャーを右クリックして、ポップアップメニューを開くこともできます。ポップアップメニューでは、パネルに項目を追加したり、ほかの作業を実行したりできます。ポップアップメニューに関する詳細については、次の節を参照してください。

セッションのテーマを変更して、メニューの外観を変更することができます。テーマを変更するには、「テーマ」設定ツールを使用します。

メニュー項目のポップアップメニュー

メニュー上の項目には、関連するポップアップメニューがあり、この項目に関連する作業は、このポップアップメニューを使用して実行できます。メニュー上の項目を右クリックすると、その項目のポップアップメニューが開きます。ポップアップメニューにはサブメニューが含まれており、メニューに関連する作業を実行できます。

メニュー項目のポップアップメニューを使用して、次の作業を実行できます。

- メニュー項目をランチャーとしてパネルに追加する。
- メニューから項目を削除する。
- ダイアログのメニュー項目コマンドで、「アプリケーションの実行」ダイアログを開く。

- メニューをパネルに追加する。メニューは、メニューオブジェクトまたは引き出しオブジェクトとして追加できる。
- 新しい項目をメニューに追加する。
- サブメニューおよびメニュー項目の設定を変更する。

図 5-1 にポップアップメニューを示します。

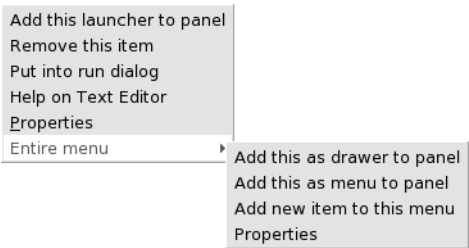


図 5-1 メニュー項目のポップアップメニュー

表 5-1 は、メニュー項目のポップアップメニューを説明しています。

表 5-1 メニュー項目のポップアップメニュー

項目	説明
「ランチャーをパネルに追加」	メニューを開くパネルにランチャーを追加する
「ランチャーをメニューから削除」	メニューからランチャーを削除する
「プログラムを実行」	「アプリケーションの実行」ダイアログを表示する。「アプリケーションの実行」ダイアログには「コマンド」フィールドにランチャーからのコマンドが表示される
「 <i>application_name</i> のヘルプ」	アプリケーションのオンラインヘルプを開く
「設定」	ランチャーの設定を変更できるダイアログを表示する
「メニュー全体」→「引き出しとしてパネルに追加」	メニューを開くパネルに引き出しとしてサブメニューを追加する
「メニュー全体」→「メニューとしてパネルに追加」	メニューを開くパネルにメニューオブジェクトとしてサブメニューを追加する
「メニュー全体」→「ランチャをメニューに追加」	サブメニューに項目を追加できる
「メニュー全体」→「設定」	サブメニューの設定を変更できるダイアログを表示する

アプリケーションメニュー

「アプリケーション」メニューには、階層構造のサブメニューがあり、サブメニューから標準の GNOME アプリケーションおよび設定ツールを起動できます。

「アプリケーション」メニューは次の場所にあります。

- メインメニュー:
- メニューバー

アクションメニュー

「アクション」メニューには、GNOME デスクトップでさまざまな作業を実行するのに使用するコマンドが含まれています。表 5-2に、「アクション」メニューのコマンドを示します。

表 5-2 アクションメニューのコマンド

メニュー項目	機能
「アプリケーションの実行」	「アプリケーションの実行」ダイアログを開く。「アプリケーションの実行」ダイアログを使用してコマンドを実行する。詳細については、77 ページの「「アプリケーションの実行」ダイアログの使用」を参照
「最近使用したドキュメント」	最近保存した 10 個のファイルのサブメニューを表示する
「ファイルの検索」	検索ツールを起動する。詳細については、『ファイルを検索』のヘルプを参照
「画面のロック」	画面をロックする
「name をログアウト」	現在のセッションをログアウトする

「アクション」メニューは次の場所にあります。

- メインメニュー。「アクション」メニューの項目は、メインメニューのトップレベルにあります。
- メニューバー

「アプリケーションの実行」ダイアログの使用

「アプリケーションの実行」ダイアログでは、コマンドラインにアクセスできます。「アプリケーションの実行」ダイアログでコマンドを実行した場合、コマンドからの出力は受け取れません。

コマンドラインからコマンドを実行するには、次の手順を実行します。

1. 「アプリケーションの実行」ダイアログを表示します。「アプリケーションの実行」ダイアログは、次の方法で表示できます。
 - 任意のパネルから
「アプリケーションの実行」ボタンをパネルに追加します。パネルを右クリックし、「パネルに追加」→「アクション」→「アプリケーションの実行」の順に選択します。「アプリケーションの実行」ボタンをクリックします。
 - メインメニュー から
メインメニュー を開き、「アプリケーションの実行」を選択します。
 - メニューバーから
「アクション」→「アプリケーションの実行」の順に選択します。
 - ショートカットキーを使用
「アプリケーションの実行」ダイアログを表示するデフォルトのショートカットキーは、**Super + R** キーです。ショートカットキーは、キーボードショートカット設定ツールで変更できます。
 - メニュー項目のポップアップメニュー
メニュー上の項目を右クリックし、ポップアップメニューから「プログラムを実行」を選択します。「アプリケーションの実行」ダイアログが開き、コマンドフィールドにメニューからのコマンドが表示されます。「アプリケーションの実行」ダイアログが表示されます。
2. 実行するコマンドを空白のフィールドに入力します。以前に実行したコマンドを選択する場合は、コマンドフィールド横の下矢印ボタンをクリックして、実行するコマンドを選びます。

または、「既存のアプリケーション一覧」オプションを選択して、使用可能なアプリケーションのリストを表示します。

「ファイルを引数として実行」ボタンを使用して、コマンドラインに追加するファイルを選ぶこともできます。たとえば、コマンドとして **emacs** を入力し、次に、編集するファイルを選びます。

アプリケーションまたはコマンドを端末で実行するには、「端末内で実行」オプションを選択します。アプリケーションまたはコマンドを実行するウィンドウが作成されない場合に、このオプションを選択する
3. 「アプリケーションの実行」ダイアログの「アプリケーションの実行」ボタンをクリックします。

スクリーンショットを撮る

次の方法を使用して、スクリーンショットを撮ることができます。

- 任意のパネルから

「スクリーンショット」ボタンをパネルに追加します。パネルを右クリックし、「パネルに追加」→「アクション」→「スクリーンショット」の順に選択します。「スクリーンショット」ボタンをクリックし、画面全体のスクリーンショットを撮ります。スクリーンショットを保存するには、「スクリーンショットの保存」ダイアログを使用すること

- ショートカットキーを使用

次のショートカットキーを使用して、スクリーンショットを撮ることができます。

デフォルトのショートカットキー	機能
Print Screen	画面全体のスクリーンショットを撮り、「スクリーンショットの保存」ダイアログを表示する。スクリーンショットを保存するには、「スクリーンショットの保存」ダイアログを使用すること
Alt + Print Screen	マウスが指しているウィンドウのスクリーンショットを取り、「スクリーンショットの保存」ダイアログを表示する。スクリーンショットを保存するには、「スクリーンショットの保存」ダイアログを使用すること

デフォルトのショートカットキーは、キーボードショートカット設定ツールを使用して変更できます。

- コマンドを使用

`gnome-panel-screenshot` コマンドを使用してスクリーンショットを撮ることができます。`gnome-panel-screenshot` コマンドは画面全体のスクリーンショットを撮り、「スクリーンショットの保存」ダイアログを表示します。スクリーンショットを保存するには、「スクリーンショットの保存」ダイアログを使用すること

`gnome-panel-screenshot` コマンドには、次のオプションを指定できます。

オプション	機能
<code>--window</code>	フォーカスしているウィンドウのスクリーンショットを撮り、「スクリーンショットの保存」ダイアログを表示する。スクリーンショットを保存するには、「スクリーンショットの保存」ダイアログを使用すること

オプション	機能
<code>--delay= seconds</code>	指定した秒数を経過したあと、スクリーンショットを撮り、「スクリーンショットの保存」ダイアログを表示する。スクリーンショットを保存するには、「スクリーンショットの保存」ダイアログを使用すること
<code>--help</code>	コマンドのオプションを表示する

メインメニュー

メインメニューからは、「アプリケーション」メニューや「アクション」メニューの多くの項目にアクセスできます。メインメニューを使用して、ほとんどすべての標準アプリケーション、コマンド、および構成オプションにアクセスできます。

「メインメニュー」ボタンはパネルに追加できます。

メインメニューを開く

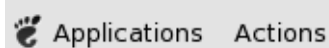
メインメニューは、次の方法で開くことができます。

- メインメニューを選択できるパネルから開く
「メインメニュー」をクリックします。
- ショートカットキーを使用
ショートカットキーを使用してメインメニューを開きます。ショートカットキーを使用してメインメニューを開くと、メインメニューはマウスポインタの位置に表示されます。
メインメニューを開くデフォルトのショートカットキーは、Ctrl + Esc キーです。メインメニューを開くショートカットキーは、キーボードショートカット設定ツールで変更できます。

メインメニューをパネルに追加する

パネルに追加する「メインメニュー」ボタンの数に制限はありません。メインメニューをパネルに追加するには、パネル上の空いているスペースで右クリックします。「パネルに追加」、「メインメニュー」の順に選択します。

メニューバー



メニューバーからは、「アプリケーション」メニューと「アクション」メニューにアクセスできます。メニューバーを使用して、ほとんどすべての標準アプリケーション、コマンド、および構成オプションにアクセスできます。

メニューバーをパネルに追加する

パネルに追加するメニューバーアプレットの数に制限はありません。メニューバーをパネルに追加するには、パネル上の空いているスペースで右クリックします。「パネルに追加」、「メニューバー」の順に選択します。

メニューのカスタマイズ

次のメニューの内容を変更できます。

- 「アプリケーション」メニュー
- 「設定」メニュー

次の GNOME デスクトップコンポーネントを使用してメニューをカスタマイズします。

- パネル上のメニュー
- Nautilus ファイルマネージャ

パネルを使用してメニューをカスタマイズする場合は、メニュー項目のポップアップメニューを使用します。詳細については、74 ページの「メニュー項目のポップアップメニュー」を参照してください。

ファイルマネージャを使用してメニューをカスタマイズするには、ファイルマネージャ内から「アプリケーション」メニューまたは「設定」メニューにアクセスする必要があります。「アプリケーション」メニューまたは「設定」メニューにアクセスするには、ファイルマネージャウィンドウを開きます。

ファイルマネージャ内のメニューにアクセスするには、ロケーションバーのフィールドに以下の URI のどれかを入力します。

メニュー	入力する URI
「アプリケーション」メニュー	applications:///
「設定」メニュー	preferences:///

ファイルマネージャの詳細は、「*Nautilus* ファイルマネージャ」を参照してください。

メニューを追加する

メニューを追加するには、次の手順を実行します。

1. ファイルマネージャウィンドウで、メニューを追加する場所にアクセスします。たとえば、メニューを「アプリケーション」メニューに追加するには、ロケーションバーのフィールドに `applications:///` を入力します。
2. 「ファイル」→「新規フォルダ」を選択します。未タイトルのフォルダが表示区画に追加されます。フォルダの名前が選択されています。
3. フォルダの名前を入力して、Return キーを押します。

次回ログアウト後にログインしたときに、そのメニューは割り当てられた位置にあります。

メニューにランチャーを追加する

メニューにランチャーを追加するには、次の手順を実行します。

1. ランチャーを追加するメニュー内の項目を右クリックします。
2. 「メニュー全体」→「ランチャーをメニューに追加」を選択します。「ランチャーの作成」ダイアログが表示されます。
3. 「ランチャーの作成」ダイアログで、ランチャーの設定を入力します。「ランチャーの作成」ダイアログ内の要素の詳細については、「パネルの操作」を参照してください。
4. 「了解」をクリックします。

空のメニューにランチャーを追加する

空のメニューにランチャーを追加するには、次の手順を実行します。

1. ファイルマネージャウィンドウで、ランチャーを追加するメニューにアクセスします。
2. 「ファイル」→「新規ランチャー」を選択します。「ランチャーの作成」ダイアログが表示されます。

3. 「ランチャーの作成」ダイアログで、ランチャーの設定を入力します。「ランチャーの作成」ダイアログ内の要素の詳細については、「パネルの操作」を参照してください。
4. 「了解」をクリックします。

メニューにランチャーをコピーする

メニューに既存のランチャーをコピーするには、次の手順を実行します。

1. ファイルマネージャウィンドウで、ランチャーのコピー元の位置にアクセスします。たとえば、ランチャーを「アプリケーション」メニューからコピーするには、ロケーションバーのフィールドに `applications:///` を入力します。
2. コピーするランチャーを選択して、「編集」→「ファイルのコピー」を選択します。
3. ファイルマネージャウィンドウで、ランチャーのコピー先の位置にアクセスします。
4. 「編集」→「ファイルの貼り付け」を選択します。ランチャーが新しい位置に追加されます

または、ランチャーをコピー元の位置からコピー先の位置にドラッグすることもできます。

次回ログアウト後にログインしたときに、そのランチャーは新しいメニュー位置にあります。

メニューの設定を編集する

メニューの設定を編集するには、次の手順を実行します。

1. 編集するメニューで、任意の項目を右クリックします。
2. 「メニュー全体」→「設定」を選択します。「ランチャーの設定」ダイアログが表示されます。
3. 「ランチャーの設定」ダイアログでメニューの設定を変更します。「ランチャーの設定」ダイアログ内の要素の詳細については、「パネルの操作」を参照してください。
4. 「了解」をクリックします。

メニュー項目を編集する

メニュー項目を編集するには、次の手順を実行します。

1. 編集する項目を右クリックします。
2. 「設定」を選択します。「ランチャーの設定」ダイアログが表示されます。

3. 「ランチャーの設定」ダイアログでランチャーの設定を変更します。「ランチャーの設定」ダイアログ内の要素の詳細については、「パネルの操作」を参照してください。
4. 「了解」をクリックします。

メニューから項目を削除する

メニューから項目を削除するには、メニュー項目のポップアップメニューを使用します。メニューから項目を削除するには、次の手順を実行します。

1. 削除する項目を右クリックします。
2. 「ランチャーをメニューから削除」を選択します。

ウィンドウの操作方法

この章では、GNOME デスクトップでのウィンドウの使用方法について説明します。GNOME デスクトップでは、Metacity および Sawfish など、いくつかのタイプのウィンドウマネージャを使用できます。Metacity の機能の多くは、Sawfish でも使用できます。この章では、Metacity ウィンドウマネージャに関連する機能について説明します。

- 85 ページの「ウィンドウとワークスペース」
- 86 ページの「ウィンドウの型」
- 90 ページの「ウィンドウとワークスペースを操作するメニューおよびアプレット」
- 93 ページの「ウィンドウの操作方法」
- 97 ページの「ワークスペースの操作」

ウィンドウとワークスペース

GNOME デスクトップ上では、同時に複数のウィンドウを表示できます。ウィンドウは、GNOME デスクトップに分割して表示され、ワークスペースと呼ばれます。ワークスペースとは、作業可能な個別の領域です。すべてのワークスペースのデスクトップ、パネル、メニューは同じです。ただし、各ワークスペースで異なるアプリケーションを実行したり、異なるウィンドウを開くことができます。1 度に表示できるワークスペースは 1 つだけですが、その他のワークスペースでウィンドウを開いたままにしておくことができます。

ワークスペーススイッチアプレットは、ウィンドウとワークスペースの概略を視覚的に示すものです。図 6-1 を参照してください。

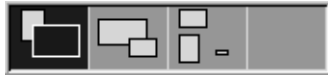


図 6-1 ワークスペーススイッチアプレット

ワークスペースはいつでも追加できます。ワークスペースを GNOME デスクトップに追加するには、ワークスペーススイッチアプレットを右クリックし、「設定」を選択します。「ワークスペーススイッチの設定」ダイアログが表示されます。「ワークスペースの数」スピンボックスを使用して、必要なワークスペースの数を指定します。

ウィンドウマネージャの動作

ウィンドウマネージャは、ウィンドウがどのように表示され、どのように動作するかを制御します。また、ウィンドウの位置とフォーカスされるウィンドウも管理します。ウィンドウフレームには、ウィンドウの移動、閉じる、サイズ変更など、標準の操作を実行できるボタンがあります。

いくつかのウィンドウマネージャ設定は、Windows 設定ツールで構成できます。このマニュアルでは、Metacity ウィンドウマネージャのデフォルトの設定に関する機能について説明します。デフォルト設定は、ウィンドウ設定ツールで指定されています。

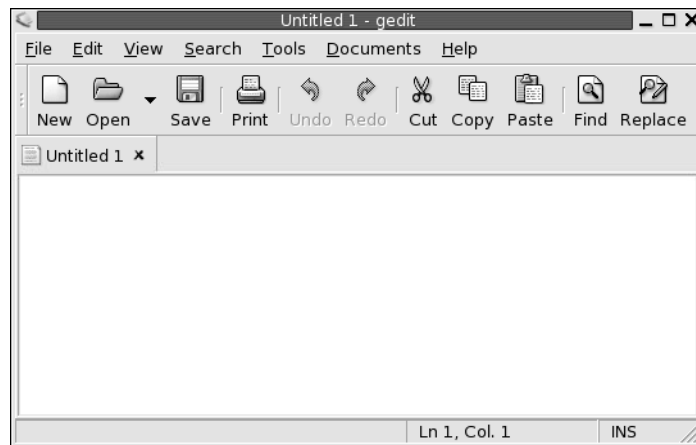
ウィンドウの型

GNOME デスクトップの特長となっているウィンドウを次に説明します。

■ アプリケーションウィンドウ

アプリケーションを起動すると、アプリケーションウィンドウが開きます。ウィンドウマネージャは、アプリケーションウィンドウにフレームを提供します。デフォルトでは、アプリケーションウィンドウのトップエッジにタイトルバーが表示されます。タイトルバーにはウィンドウでの作業に使用できるボタンがあります。アプリケーションウィンドウフレームのボタンを使用して、ウィンドウメニューを開いたり、ウィンドウを閉じたりする操作を実行できます。ウィンドウメニューから、ウィンドウ上で実行できる多数の操作を開始できます。

次の図に、標準的なアプリケーションウィンドウを示します。



■ ダイアログウィンドウ

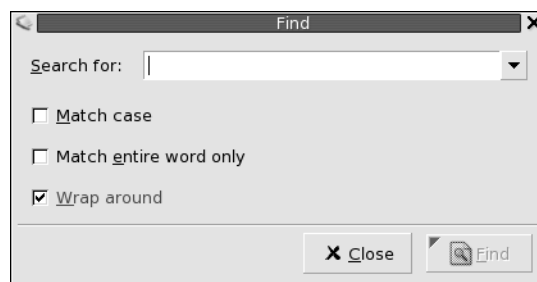
ダイアログウィンドウは、情報やコマンドを入力するポップアップウィンドウです。ダイアログは、ウィンドウフレーム内に表示されます。

ウィンドウを操作するには、フレームのトップエッジを使用します。たとえば、タイトルバーを使用してダイアログを移動できます。フレームには、次の操作に使用できるボタンがあります。

- ウィンドウメニューを開く
- ダイアログウィンドウを閉じる

一般的に、ダイアログウィンドウは、アプリケーションウィンドウから開きます。ダイアログウィンドウを開くと、通常、ウィンドウが立ち上がり、アクティブになります。ダイアログウィンドウのなかには、ダイアログを閉じなければアプリケーションを使用できないものもあります。

次の図に、標準的なダイアログウィンドウを示します。



ウィンドウフレーム

ウィンドウフレームは、ウィンドウのまわりの境界です。ウィンドウフレームにはタイトルバーがあります。タイトルバーには、ウィンドウでの作業に使用できるボタンがあります。

テーマ

ウィンドウフレームには、いくつかのテーマを適用できます。テーマを選択して、フレームの外観を決定します。すべてのウィンドウフレームのテーマを選択するには、「テーマ」設定ツールを使用します。

制御要素

ウィンドウフレームを使用して、さまざまな操作をウィンドウで実行できます。タイトルバーには、各種ボタンが含まれています。次の図に、アプリケーションウィンドウのタイトルバーを示します。



ダイアログウィンドウには、いくつかのウィンドウフレーム制御要素があります。表 6-1 は、左から順にアクティブな制御要素を示します。

表 6-1 ウィンドウフレームの制御要素

制御要素	「説明」
ウィンドウメニューボタン	ボタンをクリックして、ウィンドウメニューを開く

表 6-1 ウィンドウフレームの制御要素 (続き)

制御要素	「説明」
タイトルバー	タイトルバーを使用して、次の操作を実行できる ■ ウィンドウをアクティブにするには、タイトルバーをクリックする ■ ウィンドウを移動するには、タイトルバーをグラブし、別の位置までウィンドウをドラッグする ■ ウィンドウをシェードするには、タイトルバーをダブルクリックする。ウィンドウをシェード解除するには、タイトルバーをもう一度ダブルクリックする
最小化ボタン	最小化ボタンをクリックすると、ウィンドウが最小化する
最大化ボタン	最大化ボタンをクリックすると、ウィンドウが最大化する
ウィンドウを閉じるボタン	ウィンドウを閉じるボタンをクリックすると、ウィンドウが閉じる
境界	ウィンドウのまわりの境界。境界を使用して、次の操作を実行できる ■ ウィンドウのサイズを変更するには、境界をグラブし、希望するサイズまで境界をドラッグする ■ ウィンドウメニューを開くには、境界を右クリックする
ウィンドウコンテンツ	ウィンドウフレームの内側の領域。ウィンドウコンテンツを使用して、次の操作を実行できる ■ ウィンドウを移動するには、Alt キーを押したまま、ウィンドウコンテンツをクリックし、そのウィンドウを別の位置にドラッグする ■ ウィンドウのサイズを変更するには、Alt キーを押したまま、サイズを変更するコーナー付近で中央クリックする。中央クリックしたコーナーから、変更したいサイズまでウィンドウをドラッグする ■ ウィンドウメニューを開くには、Alt キーを押したまま、ウィンドウコンテンツで右クリックする

ウィンドウとワークスペースを操作するメニューおよびアプレット

この節では、ウィンドウとワークスペースの操作に使用できるメニューおよびアプレットについて説明します。

ウィンドウメニュー

— Minimize	Alt+F9
☐ Maximize	Alt+F10
Roll Up	Alt+F12
Move	Alt+F7
Resize	Alt+F8
× Close	Alt+F4
Put on All Workspaces	
Move to Workspace 1	
Move to Workspace 2	
Move to Workspace 3	
Move to Workspace 4	

ウィンドウメニューは、コマンドのメニューであり、ウィンドウ上での操作に使用できます。ウィンドウメニューを開くには、次のいずれかの操作を実行します。

- 操作対象のウィンドウで、ウィンドウメニューボタンをクリックする
- Alt + スペースバーを押す
- Alt キーを押したまま、操作対象のウィンドウの任意の部分で右クリックする

表 6-2 に、ウィンドウメニューのコマンドおよびサブメニューを示します。

表 6-2 ウィンドウメニューのコマンドとサブメニュー

メニュー項目	機能
「最小化」	ウィンドウを最小化する
「最大化」または「元のサイズに戻す」	ウィンドウを最大化する。ウィンドウがすでに最大化されている場合、「元のサイズに戻す」を選択するとウィンドウを元のサイズに戻す
「巻き上げる」または「展開する」	タイトルバーだけが見えるように、ウィンドウを縮小する。ウィンドウがすでに巻き上げられている場合、「展開する」を選択するとウィンドウを元のサイズに戻す

表 6-2 ウィンドウメニューのコマンドとサブメニュー (続き)

メニュー項目	機能
「移動」	ウィンドウの移動に矢印キーを使用できる
「サイズ変更」	ウィンドウのサイズ変更矢印キーを使用できる
「閉じる」	ウィンドウを閉じる
「すべてのワークスペースに含める」または「このワークスペースだけに含める」	ウィンドウをすべてのワークスペースに配置する。ウィンドウがすでにすべてのワークスペースに置かれている場合、「このワークスペースだけに含める」を選択すると、現在のワークスペースにのみウィンドウを配置する
「 <i>workspace-name</i> へ移動」または「ワークスペース名だけに配置」	選択したワークスペースにウィンドウを移動する。ウィンドウがすべてのワークスペースに配置されている場合、「 <i>workspace-name</i> だけに配置」を選択して、希望するワークスペースにウィンドウを配置する

ウィンドウリストアプレット

ウィンドウリストは、開いている各アプリケーションウィンドウを示すボタンを表示します。ウィンドウリストを使用して、次の作業を実行できます。

- ウィンドウの最小化
ウィンドウを表すボタンをクリックします。
- 最小化されたウィンドウを復元する
ウィンドウを表すボタンをクリックします。
- ウィンドウにフォーカスを当てる
ウィンドウを表すボタンをクリックします。

アプリケーションウィンドウを開くと、ウィンドウリストには、ウィンドウを表すボタンが表示されます。ウィンドウリストボタンは、どのアプリケーションウィンドウが開いているかを示します。ウィンドウが最小化されていたり、ほかのウィンドウと重なっていても、開いているウィンドウは表示されます。ウィンドウリストは、現在のワークスペース、またはすべてのワークスペース上のウィンドウを示すボタンを表示できます。このオプションを選択するには、ウィンドウリストの設定を変更する必要があります。

ウィンドウリストボタンを右クリックして、ボタンが表示ウィンドウのウィンドウメニューを開くこともできます。ウィンドウリストからウィンドウメニューを開いた場合、ウィンドウメニューにはワークスペースコマンドは含まれません。ウィンドウメニューのコマンドの詳細については、90 ページの「ウィンドウメニュー」を参照してください。

図 6-2 に、以下に示すウィンドウを開いたときのウィンドウリストを示します。

- gedit
- Dictionary

- GHex
- GNOME 端末 (GNOME Terminal)



図 6-2 ウィンドウリストアプレット

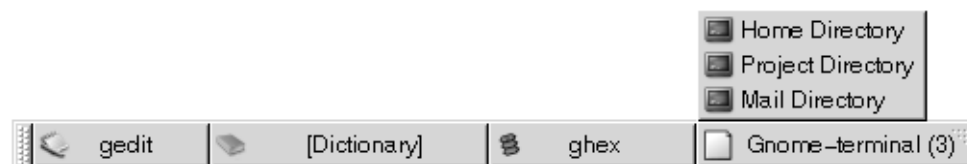
アプレットのボタンは、ウィンドウの状態を示します。表 6-3 は、ウィンドウリストボタンが表示するウィンドウについての情報を示します。表 6-3 の例は、図 6-2 についての説明です。

表 6-3 「ウィンドウリストボタン」のウィンドウの状態情報

状態	説明	例
ボタンが押し込まれている。	ウィンドウにフォーカスがある	gedit
角括弧で囲まれたウィンドウタイトル	ウィンドウが最小化されている	[辞書]
ボタンは押し込まれておらず、ウィンドウタイトルは角括弧で囲まれていない。	ウィンドウが表示されており、最小化されていない	ghex
括弧内の数字が付いたボタン	ボタンのグループを表すボタン	Gnome-terminal (3)

ボタンのグループ化

ウィンドウリストは、1つのウィンドウリストボタンの下に、同じクラスのウィンドウを表すボタンをグループ化できます。図 6-2 の「Gnome-terminal」ボタンは、ボタンのグループを表します。次の図に、ボタングループを開いたウィンドウリストの例を示します。



グループ内のウィンドウのリストを開くには、そのグループを表すウィンドウリストボタンをクリックします。リスト内の項目をクリックしてウィンドウにフォーカスを移動したり、最小化したり、サイズを元に戻したりすることができます。

ボタングループ内のウィンドウのウィンドウメニューを開くには、そのグループを表すウィンドウリストボタン上で右クリックします。グループ内のウィンドウのリストが表示されます。グループ内のウィンドウのウィンドウメニューを開くには、リスト内の項目をクリックします。ウィンドウリストからウィンドウメニューを開いた場合、ウィンドウメニューにはワークスペースコマンドは含まれません。ウィンドウメニューのコマンドの詳細については、90 ページの「ウィンドウメニュー」を参照してください。

ワークスペーススイッチアプレット

ワークスペーススイッチは、図 6-3 に示すように、ワークスペースの概略を視覚的に表示します。図 6-3 は、GNOME セッションに 4 つのワークスペースが含まれている場合のアプレットを示します。ワークスペースは、アプレット上でボタンとして表示されます。現在のワークスペースを表すボタンの背景は、強調表示されます。図 6-3 の現在のワークスペースは、アプレットの左端のワークスペースです。別のワークスペースに切り替えるには、アプレットのワークスペース上でクリックします。

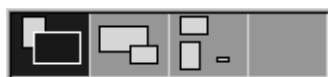


図 6-3 ワークスペーススイッチアプレット

ワークスペーススイッチは、ワークスペース上で開いているアプリケーションウィンドウとダイアログも表示します。

アプレットは、左から右へ順番にワークスペースを表示します。図 6-3 のアプレットは、1 列でワークスペースを表示するように設定されています。ワークスペースが表示されるワークスペーススイッチの列数は指定できます。また、アプレットのデフォルトの動作を変更して、アプレット上にワークスペースの名前を表示することもできます。

ウィンドウの操作方法

この節では、ウィンドウの操作方法について説明します。

ウィンドウにフォーカスを移動する

フォーカスされているウィンドウは、マウスとキーボードから入力できます。一度にフォーカスできるのは 1 つのウィンドウだけです。フォーカスされているウィンドウの外観は、ほかのウィンドウとは異なります。

次の方法により、ウィンドウをフォーカスできます。

要素	動作
マウス	ウィンドウが可視の場合には、そのウィンドウをクリックする
ショートカットキー	ショートカットキーは、開いているウィンドウ間の切り替えに使用する。あるウィンドウにフォーカスを移すには、そのウィンドウにフォーカスが移動したときにキーを放す。ウィンドウ間を切り替える初期値のショートカットキーは、 Alt + Tab キー。
ウィンドウリスト	ウィンドウリストでフォーカスするウィンドウを表すボタンをクリックする
ワークスペーススイッチ	ワークスペーススイッチディスプレイで、フォーカスを移動するウィンドウをクリックする。別のワークスペースのウィンドウをクリックした場合、ワークスペーススイッチは、そのワークスペースに切り替えて、ウィンドウにフォーカスを移動する

ウィンドウを最小化する

ウィンドウを最小化するには、次のいずれかの操作を実行します。

- ウィンドウフレーム上の最小化ボタンをクリックする
- ウィンドウメニューを開き、「最小化」を選択する
- ウィンドウにフォーカスがある場合は、ウィンドウリストでそのウィンドウを表すボタンをクリックする。ウィンドウにフォーカスがない場合は、ウィンドウを表すボタンを2回クリックする
- ウィンドウリストのそのウィンドウを表すボタン上で右クリックし、ポップアップメニューから「最小化」を選択する

ウィンドウを最大化する

ウィンドウを最大化する場合、ウィンドウは可能な限り広がります。ウィンドウを最大化するには、次のいずれかの操作を実行します。

- ウィンドウフレーム上の最大化ボタンをクリックしてウィンドウを最大化する。または、ウィンドウメニューを開いて、「最大化」を選択する
- ウィンドウリストのそのウィンドウを表すボタン上で右クリックし、ウィンドウメニューから「最大化」を選択する

ウィンドウを元のサイズに戻す

最大化したウィンドウを元のサイズに戻すには、次のいずれかの操作を実行します。

- ウィンドウフレーム上の最大化ボタンをクリックする
- ウィンドウメニューを開く。「元のサイズに戻す」を選択する
- ウィンドウリストでそのウィンドウを表すボタン上で右クリックし、ウィンドウメニューを開く。「元のサイズに戻す」を選択する

最小化したウィンドウを元のサイズに戻すには、ウィンドウリストのそのウィンドウを表すボタン上でクリックします。

ウィンドウを閉じる

ウィンドウを閉じるには、次のいずれかの操作を実行します。

- ウィンドウフレーム上のウィンドウを閉じるボタンをクリックする
- ウィンドウメニューを開く。「閉じる」を選択する
- ウィンドウリストでそのウィンドウを表すボタン上で右クリックし、ウィンドウメニューから「閉じる」を選択する

そのウィンドウ上に保存していないデータがある場合、データを保存するかどうかを問うプロンプトが表示されます。

ウィンドウのサイズを変更する

ウィンドウのサイズを変更するには、次のいずれかの操作を実行します。

- ウィンドウのコーナーにマウスのカーソルを置く。ウィンドウをサイズ変更できるマウスポインタに変わる。コーナーをグラブし、希望のサイズまでウィンドウをドラッグする
- ウィンドウリストのそのウィンドウを表すボタン上で右クリックする。ウィンドウメニューから「サイズ変更」を選択する。ウィンドウのサイズ変更には矢印キーを使用する
- Alt キーを押したまま、サイズを変更するコーナー付近で中央クリックする。マウスポインタが変わり、コーナーからサイズ変更できる。中央クリックしたコーナーから、変更したいサイズまでウィンドウをドラッグする
- ウィンドウを横方向にサイズ変更するには、ウィンドウの縦のエッジの1つをポイントする。ウィンドウをサイズ変更できるマウスポインタに変わる。エッジをグラブし、希望のサイズまでウィンドウをドラッグする。
- ウィンドウを縦方向にサイズ変更するには、ウィンドウのボトムエッジにポイントする。ウィンドウをサイズ変更できるマウスポインタに変わる。エッジをグラブし、希望のサイズまでウィンドウをドラッグする。

注 – 一部のダイアログウィンドウはサイズ変更できません。また、一部のアプリケーションウィンドウは、最小サイズが決まっており、それ以下に縮小できません。

ウィンドウを移動する

ウィンドウを移動するには、次のいずれかの操作を実行します。

- ウィンドウのタイトルバーをグラブし、別の位置までウィンドウをドラッグする
- Alt キーを押したままで、ウィンドウを別の位置までドラッグする
- ウィンドウメニューを開き、「移動」を選択する。矢印キーを使用して、ウィンドウを別の位置に移動する
- ウィンドウリストで移動するウィンドウ上で右クリックし、ウィンドウメニューから「移動」を選択する。矢印キーを使用して、ウィンドウを別の位置に移動する

ウィンドウを巻き上げる

以下のようにウィンドウを巻き上げまたは展開できます。

巻き上げ タイトルバーだけが見えるように、ウィンドウを縮小する

展開 ウィンドウ全体が表示されるように、ウィンドウを巻き上げ状態から切り替える

ウィンドウを巻き上げるには、次のいずれかの操作を実行します。

- ウィンドウのタイトルバーをダブルクリックする。ウィンドウを展開するには、タイトルバーをもう一度ダブルクリックする
- ウィンドウメニューを開く。「巻き上げる」を選択する。ウィンドウを展開するには、「展開する」を選択する
- ウィンドウリスト中の巻き上げるウィンドウを表すボタンを右クリックし、ウィンドウメニューから「巻き上げる」を選択する。ウィンドウを展開するには、「展開する」を選択する

すべてのワークスペースにウィンドウを配置する

すべてのワークスペースにウィンドウを配置するには、ウィンドウメニューを開き、「すべてのワークスペースに含める」を選択します。現在のワークスペースでのみウィンドウが表示されるように設定するには、「このワークスペースだけ含める」を選択します。

ウィンドウを別のワークスペースに移動する

次のいずれかの方法を使用して、ウィンドウを別のワークスペースに移動できます。

- ワークスペーススイッチを使用
ワークスペーススイッチディスプレイで、希望するワークスペースにウィンドウをドラッグします。
- ウィンドウメニューを使用
ウィンドウメニューを開く。ウィンドウを次のワークスペースに移動するには、「*workspace-name* へ移動」を選択します。

ワークスペースの操作

この節では、ワークスペースの操作方法について説明します。

ワークスペースを切り替える

ワークスペース間の切り替えは、次の方法で行えます。

- ワークスペーススイッチを使用
ワークスペーススイッチで、切り替え先のワークスペースをクリックします。
- ショートカットキーを使用
ワークスペース間を切り替えるデフォルトのショートカットキーは、以下のとおりです。

デフォルトのショートカットキー	機能
Ctrl + Alt + 右矢印	右側のワークスペースを選択
Ctrl + Alt + 左矢印	左側のワークスペースを選択

ワークスペースを追加する

ワークスペースを GNOME デスクトップに追加するには、ワークスペーススイッチで右クリックし、「設定」を選択します。「ワークスペーススイッチの設定」ダイアログが表示されます。「ワークスペースの数」スピンボックスを使用して、追加するワークスペースの数を指定します。ワークスペーススイッチは、新しいワークスペースをワークスペースリストの末尾に追加します。

ワークスペースの名前を指定する

ワークスペースのデフォルトの名前は、ワークスペース 1、ワークスペース 2、ワークスペース 3 となります。ワークスペースの名前を指定するには、ワークスペーススイッチで右クリックし、「設定」を選択します。「ワークスペーススイッチの設定」ダイアログが表示されます。「ワークスペース名」リストボックスを使用して、ワークスペース名を指定します。ワークスペースを選択し、次にそのワークスペースの新しい名前を入力します。

ワークスペースを削除する

ワークスペースを削除する場合、そのワークスペース上のウィンドウは別のワークスペースに移動され、空のワークスペースが削除されます。

ワークスペースを GNOME デスクトップから削除するには、ワークスペーススイッチで右クリックし、「設定」を選択します。「ワークスペーススイッチの設定」ダイアログが表示されます。「ワークスペースの数」スピンボックスを使用して、追加するワークスペースの数を指定します。ワークスペーススイッチは、ワークスペースリストの末尾からワークスペースを削除します。

第 7 章

Nautilus ファイルマネージャ

この章では、Nautilus ファイルマネージャの使用方法について説明します。

- 99 ページの「Nautilus ファイルマネージャの概要」
- 100 ページの「ファイルマネージャウィンドウ」
- 105 ページの「コンピュータのナビゲート」
- 113 ページの「ファイルとフォルダの管理」
- 122 ページの「ファイルおよびフォルダの外観の変更」
- 129 ページの「ファイルへのアクションの割り当て」
- 131 ページの「ファイルマネージャのカスタマイズ」
- 136 ページの「リムーバブルメディアの使用方法」
- 139 ページの「CD の書き込み」
- 141 ページの「ファイルマネージャからのスクリプトの実行」
- 141 ページの「ファイルシステムのマウントとマウント解除」
- 143 ページの「NFS 共有の使用法」

Nautilus ファイルマネージャの概要

Nautilus ファイルマネージャは、ファイルおよびアプリケーションへの統合アクセスポイントを提供します。ファイルマネージャで次のことができます。

- ファイルおよびフォルダの表示
- ファイルおよびフォルダの管理
- スクリプトの実行
- ファイルおよびフォルダのカスタマイズ
- 特別な URI を開く
- CD-R へのデータの書き込み

Nautilus では、デスクトップも管理します。デスクトップは、デスクトップ上に表示される、ほかのすべてのコンポーネントの背後にあります。デスクトップは、ユーザインタフェースのアクティブコンポーネントです。

ファイルマネージャウィンドウを使用すると、ファイルとフォルダを表示、管理できます。ファイルマネージャのウィンドウを開くには、デスクトップの「ドキュメント」上でダブルクリックします。ファイルマネージャウィンドウは、デフォルトドキュメントの位置にある内容を表示区画に表示します。

ファイルマネージャウィンドウ

ファイルマネージャウィンドウを使用すると、ファイルとフォルダを表示、管理できます。図 7-1 に、フォルダの内容を表示するファイルマネージャウィンドウを示します。

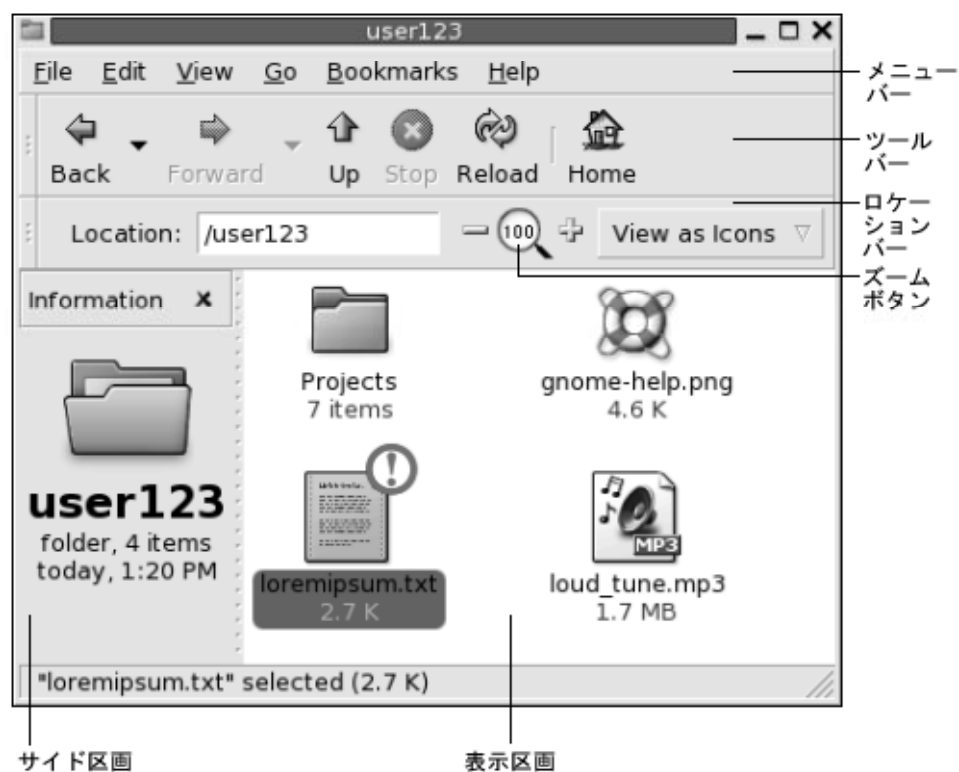


図 7-1 ファイルマネージャウィンドウのフォルダの内容

表 7-1 に、ファイルマネージャウィンドウの構成要素を示します。

表 7-1 ファイルマネージャウィンドウの構成要素

コンポーネント	「説明」
メニューバー	ファイルマネージャで作業を行うために使用するメニューを含む
ツールバー	ファイルマネージャで作業を行うために使用するボタンを含む
ロケーションバー	次の要素が含まれる ■ 「場所」フィールドまたは「移動」フィールド: 表示するファイル、フォルダ、または URI を指定できる ■ 拡大 / 縮小 ボタン: 表示区画内の項目のサイズを変更できる ■ 「表示方法」ドロップダウンリスト: 表示区画内の項目の表示方法を選択できる
サイド区画	次の機能を実行する ■ 現在のファイルまたはフォルダに関する情報を表示する ■ ファイル内をナビゲートできます。 サイド区画には、サイド区画で表示するものを選択するドロップダウンリストがある。次のオプションの中から、いずれか 1 つを選択する ■ 「情報」 ■ 「エンブレム」 ■ 「履歴」 ■ 「ノート」 ■ 「ツリー」 サイド区画を表示するには、「表示」→「サイド区画」を選択する
表示区画	次の内容を表示する ■ 特定の型のファイル形式 ■ フォルダ ■ FTP サイト ■ 特別な URI に対応する場所
ステータスバー	状態情報を表示する

ファイルマネージャウィンドウからポップアップメニューを開くこともできます。このポップアップメニューを開くには、ファイルマネージャウィンドウ内で右クリックします。このメニューの項目は、右クリックした場所により異なります。たとえば、ファイルまたはフォルダで右クリックした場合、ファイルおよびフォルダに関連するメニュー項目を選択できます。表示区画の背景で右クリックした場合、表示区画内の項目の表示に関連するメニュー項目を選択できます。

注 - GNOME デスクトップのバージョンによっては、「ホーム」ツールバーボタンをクリックすると、「ドキュメント」などの別の場所が表示される場合もあります。

表示区画

表示区画では、次の内容を表示できます。

- 特定の型のファイル形式
- フォルダ
- FTP サイト
- 特別な URI に対応する場所

ファイルマネージャには、特定の種類のファイルを表示区画に表示できるビューアコンポーネントがあります。たとえば、テキストビューアを使用して、表示区画にテキストファイルを表示できます。図 7-2 に、表示区画に表示されたテキストファイルを示します。

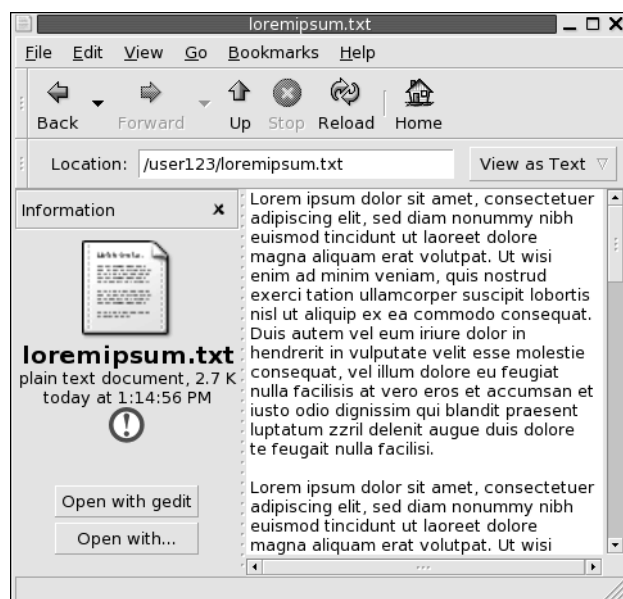


図 7-2 ファイルマネージャウィンドウのテキストファイル

表示区画にファイルを表示することにより、次のような利点があります。

- アプリケーションを起動するよりも使用するシステムリソースが少ない
- アプリケーションを起動するよりも表示までの時間が短い

ただし、表示区画ではファイルを変更することはできません。

ファイルマネージャには、フォルダの内容を異なる方法で表示できるビューがあります。たとえば、フォルダの内容は次の表示形式で表示できます。

- アイコン表示: フォルダ内の項目をアイコン形式で表示する
- リスト表示: フォルダ内の項目をリスト形式で表示する

- オーディオ表示:フォルダ内のオーディオ項目のみを表示する

フォルダの表示方法は、「表示」メニューを使用して選択できます。ビューについての詳細は、124 ページの「ビューを使用したファイルとフォルダの表示」を参照してください。

サイド区画

サイド区画を表示するには、「表示」→「サイド区画」を選択します。サイド区画に表示する情報は、選択できます。以下のいずれかを表示できます。

- 「情報」

現在のファイルまたは現在のフォルダを表すアイコン。現在のファイルまたは現在のフォルダに関する情報も表示される。ファイルを表示区画に表示した場合、ボタンがサイド区画に表示される。このボタンを使用して、デフォルト操作以外の操作をファイルで実行できる

- 「エンブレム」

ファイルまたはフォルダに追加できるエンブレムが含まれる。エンブレムについては、次の節を参照

- 「履歴」

最近表示したファイル、フォルダ、FTP サイト、URI の履歴リストが含まれる

- 「ノート」

ファイルとフォルダに注釈を追加できる

- 「ツリー」

ファイルシステムの階層表現を表示する。「ツリー」を使って、ファイル間を移動できる

サイド区画を閉じるには、サイド区画の右上の「X」ボタンをクリックします。

アイコンとエンブレム

アイコン表示では、ファイルとフォルダがアイコンとして表示されます。ファイルアイコンおよびフォルダアイコンに、エンブレムを追加することができます。エンブレムとは、項目に追加してその項目を視覚的に印をつける小さなアイコンのことです。たとえば、ファイルを重要として印をつけるには、以下の図のような視覚的効果のある「重要！」エンブレムをファイルアイコンに追加できます。



アイコンにエンブレムを追加する方法についての詳細は、122 ページの「ファイルまたはフォルダにエンブレムを追加する」を参照してください。

次の表に、ファイルアイコンの構造を示します。

コンポーネント	「説明」
	エンブレム。これは、「重要！」エンブレムを示す
	ファイルを表すアイコン。アイコンには、ファイルの内容のプレビューが含まれる場合もある。
loremipsum.txt 2.7 K	アイコン見出し。どの情報項目をアイコン見出しに表示するかは、変更できる

ファイルマネージャには、以下のタイプの項目のデフォルトエンブレムがあります。

- シンボリックリンク
- 次のアクセス権を持つ項目:
 - 読み取り専用
 - 読み取り権なしと書き込み権なし

以下の表に、デフォルトエンブレムを示します。

デフォルトのエンブレム	「説明」
	シンボリックリンク
	読み取り権のみ
	読み取り権なしと書き込み権なし

コンピュータのナビゲート

各ファイルマネージャウィンドウは、ファイル、フォルダ、FTP サイト、特別な URI の内容を表示します。この節では、次の項目について説明します。

- ファイルマネージャウィンドウで項目を表示する方法
- ファイルマネージャウィンドウでファイルを開く方法
- ファイルシステムでファイルおよびフォルダをナビゲートする方法
- FTP サイトをナビゲートする方法
- 特別な URI が示す場所にアクセスする方法

フォルダを表示する

フォルダの内容は、次の方法を使用して表示できます。

- 表示区画上のフォルダをダブルクリックする
- 「場所」フィールドに、表示するフォルダのパスを入力して、Return キーを押す。「場所」フィールドには、オートコンプリート機能がある。ユーザがパスを入力すると、ファイルマネージャはファイルシステムを読み込む。ディレクトリを固有に識別するのに十分な文字を入力すると、ファイルマネージャは、「場所」フィールドにディレクトリ名を完成させる
- サイド区画の「ツリー」を使用する。詳細については、106 ページの「サイド区画のツリーの使用」を参照
- 「戻る」および「前」ツールバーボタンを使用して、ナビゲーション履歴を参照する

現在のフォルダの1つ上のレベルにあるフォルダに変更するには、「移動」→「上」を選択します。または、「上」ツールバーボタンをクリックします。

ディスプレイを再読み込みするには、「再読み込み」ボタンをクリックします。

表示するフォルダを検索できない場合は、「ファイルの検索」を使用できます。「ファイルの検索」を起動するには、「ファイルの検索」をメインメニューから選択します。

サイド区画のツリーの使用

「ツリー」は、ファイルシステムの階層表現を表示します。「ツリー」を使用すると、ファイルシステムを簡単にナビゲートできます。「ツリー」をサイド区画に表示するするには、サイド区画の上部分にあるドロップダウンリストから「ツリー」を選択します。

「ツリー」ではフォルダは以下のように表示されます。

フォルダの状態	グラフィック表示
閉じたフォルダ	右矢印
開いたフォルダ	下矢印

表 7-2 に、「ツリー」で実行できる作業と、その作業の実行方法を示します。

表 7-2 ツリーでの作業

作業	動作
「ツリー」を開く	サイド区画の上部分にあるドロップダウンリストから「ツリー」を選択する
「ツリー」を閉じる	サイド区画の上部分にあるドロップダウンリストから別の項目を選択する
「ツリー」のフォルダを開く	「ツリー」内のフォルダの横にある矢印をクリックする
「ツリー」のフォルダを閉じる	「ツリー」内のフォルダの横にある矢印をクリックする
表示区画にフォルダの内容を表示する	「ツリー」内のフォルダを選択する
表示区画にファイルの内容を表示する	「ツリー」内のファイルを選択する

「ツリー」でファイルを表示しないように、設定できます。詳細については、131ページの「表示形式を設定する」を参照してください。

ファイルを開く

ユーザがファイルを開くと、ファイルマネージャはそのファイルタイプのデフォルトのアクションを実行します。デフォルトのアクションは、次のいずれかになります。

- ビューアコンポーネントを使用してファイルを表示区画に表示する
- ファイルを開くアプリケーションを起動する

ファイルマネージャは、ファイルの内容をチェックしてファイルのタイプを判断します。最初の行でファイルタイプを判別できない場合、ファイルマネージャはファイル拡張子を確認します。

開くファイルを検索できない場合は、「ファイルの検索」を使用します。「ファイルの検索」を起動するには、「ファイルの検索」をメインメニューから選択します。

表示区画でのファイルの表示

ファイルマネージャには、ビューアコンポーネントがあり、特定のファイル形式を表示区画に表示できます。たとえば、次の種類のファイルを表示区画に表示できます。

- プレーンテキストファイル
- PNG ファイル
- JPEG (Joint Photographic Experts Group) ファイル

表示区画の内容を再読み込みするには、「表示」→「再読み込み」を選択します。表示区画で項目の読み込みを停止するには、「表示」→「停止」を選択します。

ファイルを表示区画に表示すると、ビューコンポーネントはファイルマネージャメニューにメニュー項目を追加します。メニュー項目は、表示されているファイルタイプと関連します。たとえば、PNG ファイルを表示する場合、「編集」メニューには、「反転」と「回転」というメニュー項目があります。

また一部のファイルタイプを表示区画に表示する場合には、ファイルマネージャズームボタンで項目の大きさを変更できます。

デフォルトのアクションを実行する

ファイルのデフォルトのアクションを実行するには、そのファイルをダブルクリックします。たとえば、プレーンテキスト文書のデフォルトのアクションが、テキストビューアにファイルを表示するとします。この場合、ファイルをダブルクリックすることにより、ファイルをテキストビューアに表示できます。

ファイルマネージャで設定することにより、ファイルを1度クリックするだけでデフォルトの操作を実行できます。詳細については、132 ページの「動作環境を設定する」を参照してください。

「他のもので開く」サブメニューを使用してデフォルト以外のアクションを実行する

ファイルのデフォルト以外のアクションを実行するには、次の手順を実行します。

1. 表示区画で、アクションを実行するファイルを選択します。「ファイル」→「他のもので開く」を選択します。「他のもので開く」サブメニューが開きます。このサブメニュー内の項目は、「ファイルの関連付け」設定ツールの次の部分の内容と一致します。
 - 「ファイルタイプを編集」ダイアログの「デフォルトのアクション」ドロップダウンリスト
 - 「ファイルタイプを編集」ダイアログの「ビューアコンポーネント」ドロップダウンリスト
2. 「他のもので開く」サブメニューからアクションを選択します。

ファイルを表示したときに別のアクションを実行する

ファイルを表示区画に表示したときに、サイド区画にボタンがあります。図 7-2 に、テキストファイルが表示区画に表示されているときのサイド区画のボタンを示します。

ボタンは、「ファイルの関連付け」の設定リストに定義されているアクションを表しています。アクションは、「ファイルの関連付け」設定ツールの「ファイルタイプを編集」ダイアログ内の「デフォルトのアクション」ドロップダウンリストで定義されています。アクションを実行するにはボタンをクリックします。たとえば、プレーンテキスト文書に対して定義されているアクションが、`gedit` テキストエディタでファイルを開くことだとします。このアクションが定義されていると、「`gedit` で開く」ボタンがサイド区画に表示されます。`gedit` アプリケーションでファイルを開くには、「`Gedit` で開く」ボタンをクリックします。

注 - アクションが次のいずれかのダイアログで実行される場合、そのアクションを表すボタンはサイド区画に表示されません。

- 「アプリケーションで開く」
 - 「他の表示方法で開く」
-

FTP サイトにアクセスする

ファイルマネージャを使用して、FTP サイトにアクセスできます。FTP サイトにアクセスするには、ロケーションバー上のフィールドにサイトの URL を入力して、Return キーを押します。そのサイトの内容が表示区画に表示されます。FTP サイトからファイルをコピーするには、そのファイルを別の場所にドラッグします。

ユーザー名とパスワードの入力を要求する FTP サイトにアクセスするには、次の形式で URL を入力します。

```
ftp://username:password@hostname.domain
```

表示区画で FTP サイトを再読み込みするには、「表示」→「再読み込み」を選択します。FTP サイトの読み込みを停止するには、「表示」→「停止」を選択します。

ネットワークプレイスにアクセスする

システムがネットワーク上のプレイスにアクセスできる構成の場合は、ファイルマネージャを使ってネットワーク上のプレイスにアクセスできます。

ネットワークプレイスにアクセスする場合は、ファイルマネージャを開き、「移動」→「ネットワークプレイス」の順に選択します。ファイルマネージャウィンドウが表示されます。ウィンドウには、アクセス可能なネットワークプレイスが表示されます。アクセスするネットワークプレイスをダブルクリックします。

UNIX 共有ファイルにアクセスする場合は、「**UNIX ネットワーク (NFS)**」オブジェクトをダブルクリックします。アクセス可能な UNIX 共有ファイルのリストが、ファイルマネージャウィンドウに表示されます。

Windows 共有ファイルにアクセスする場合は、「**Windows ネットワーク (SMB)**」オブジェクトをダブルクリックします。アクセス可能な Windows 共有ファイルのリストが、ファイルマネージャウィンドウに表示されます。

ネットワークプレイスを追加する

ネットワークプレイスを追加するには、次の手順を実行します。

1. ファイルマネージャを開き、「移動」→「ネットワークプレイス」の順に選択します。ファイルマネージャウィンドウが表示されます。
2. 「ネットワークプレイスの追加」オブジェクトをダブルクリックします。「ネットワークプレイスの追加」ダイアログが表示されます。ダイアログにサーバーの詳細を次のように入力します。

ダイアログ要素	「説明」
「場所」	このテキストボックスを使用して、追加する場所を指定する。あるいは、ドロップダウンリストから次の場所を1つ選択することもできる ■ FTP サーバー ■ Web フォルダ ■ Windows ネットワーク (SMB) ■ UNIX ネットワーク (NFS)
「ショートカット名」	このテキストボックスを使用して、ネットワークプレイスのショートカット名を指定する
「匿名ログイン」	FTP サーバーオプションのみ。FTP サーバーに匿名ユーザーとしてログインする場合は、このオプションを選択する。
「ログインを要求しない」	Web フォルダ、Windows ネットワーク (SMB)、UNIX ネットワーク (NFS) 各オプションのみ。Web フォルダ、Windows 共有、または UNIX 共有にログインする必要がない場合は、このオプションを選択する。
「ユーザー名」	このテキストボックスを使用して、指定するネットワークプレイスに接続するときのユーザー名を指定する。 ネットワークプレイスに接続する際には、パスワードを入力する必要がある
「今すぐそこに移動」	ネットワークプレイスに直ちにアクセスしたい場合は、このオプションを選択する。

3. 「OK」をクリックしてネットワークプレイスを追加する

特別な URI ロケーションへのアクセス

GNOME デスクトップには、ファイルマネージャから特定の機能にアクセスするための特別な URI ロケーションがあります。たとえば、設定ツールにアクセスするは、ファイルマネージャウィンドウの `preferences:///` URI にアクセスします。表 7-3 にファイルマネージャで使用できる特別な URI ロケーションを示します。

表 7-3 特別な URI ロケーション

URI ロケーション	「説明」
<code>applications:///</code>	GNOME デスクトップのアプリケーションリストを表示する。アプリケーションの種類は、「アプリケーション」メニューのアプリケーションと同じ。アプリケーションを開くには、そのアプリケーションをダブルクリックする

表 7-3 特別な URI ロケーション (続き)

URI ロケーション	「説明」
burn:///	CD に書き込むファイルやフォルダをここにコピーする。この内容を CD に書き込むことができる
fonts:///	システムで利用できるフォントをすべて表示する。フォントのプレビューを表示するには、フォントをダブルクリックする。ここで、フォントを GNOME デスクトップに追加することも可能
network:///	「ネットワークプレイス」のロケーションを表示する。 「ネットワークプレイス」は、システムがネットワーク上のロケーションにアクセスできる構成の場合に、接続可能なネットワーク上のロケーションを表示する。ネットワーク上のロケーションにアクセスするには、ネットワーク上のロケーションをダブルクリックする。この URI で、ネットワーク上のロケーションをシステムに追加することも可能
nfs:///	システムが UNIX NFS ロケーションにアクセスできる構成の場合、UNIX NFS ロケーションを表示する。NFS ロケーションにアクセスするには、NFS ロケーションをダブルクリックする。
preferences:///	GNOME デスクトップの設定ツールリストを表示する。設定ツールの種類は、「設定」メニューの設定ツールと同じ。設定ツールを開くには、設定ツールをダブルクリックする
printers:///	システムがプリンタにアクセスできる構成の場合、プリンタを表示する。プリンタにアクセスするには、プリンタをダブルクリックする。この URI で、プリンタをシステムに追加することも可能
smb:///	Windows サーバーにアクセスできる構成の場合、Windows サーバーを表示する。Windows サーバーを開くには、Windows サーバーをダブルクリックする。
system-settings:///	システム設定の変更に使用できるアプリケーションのリストを表示する。

ナビゲーション履歴の使用方法

ファイルマネージャは、ファイル、フォルダ、FTP サイトおよび URI の履歴リストを持っています。この履歴リストを使って、最近表示したファイル、フォルダ、FTP サイト、URI に移動できます。履歴リストには、最後に表示した 10 項目が含まれています。以降の節では、履歴リストのナビゲート方法について説明します。

履歴リストを消去するには、「移動」 → 「履歴を消去」を選択します。

「移動」メニューを使用して履歴リストをナビゲートする

以前に表示した項目のリストを表示するには、「移動」メニューを選択します。履歴リストは、「移動」メニューの下部に表示されます。履歴リスト内の項目を開くには、「移動」メニューからその項目を選択します。

ツールバーを使用して履歴リストをナビゲートする

ツールバーを使用して履歴リストをナビゲートするには、次のいずれかの操作を実行します。

- 履歴リスト内の以前のファイル、フォルダ、または URI を開くには、「戻る」ツールバーボタンをクリックする
- 履歴リスト内の次のファイル、フォルダ、または URI を開くには、「前」ツールバーボタンをクリックする
- 以前に表示した項目のリストを表示するには、「戻る」ツールバーボタンの右側にある下矢印をクリックする。このリストから項目を開くには、その項目をクリックする
- 現在の項目以降に表示した項目のリストを表示するには、「前」ツールバーボタンの右側にある下矢印をクリックする。このリストから項目を開くには、その項目をクリックする

サイド区画の履歴を使用して履歴リストをナビゲートする

「履歴」をサイド区画に表示するには、サイド区画の上部分にあるドロップダウンリストから「履歴」を選択します。サイド区画の「履歴」リストに、以前表示した項目のリストが表示されます。

履歴リストの項目を表示区画に表示するには、「履歴」リストの項目をクリックします。

お気に入りを登録する

ブックマークの項目にアクセスするには、「ブックマーク」メニューからその項目を選択します。お気に入りを「ブックマーク」メニューに追加できます。ブックマークは、ファイルシステムのファイルやフォルダ、FTP サイトまたは URI に追加できます。

ブックマークを追加する

ブックマークを追加するには、ブックマークを追加する項目を表示区画に表示します。「ブックマーク」→「追加」を選択します。

ブックマークを編集する

ブックマークを編集するには、次の手順を実行します。

1. 「ブックマーク」→「編集」を選択します。「ブックマークを編集」ダイアログが表示されます。
2. 「ブックマークを編集」ダイアログの左側にあるブックマークを選択します。「ブックマークを編集」ダイアログの右側に表示されるブックマークの詳細を編集します。以下を参照してください。

ダイアログ要素	「説明」
「名前」	「ブックマーク」メニューに表示されるブックマークを識別する名前を指定する
「場所」	ブックマークの場所を指定する

3. ブックマークを削除するには、ダイアログの左側にあるブックマークを選択します。「削除」をクリックします。

ファイルとフォルダの管理

この節では、ファイルおよびフォルダの操作方法について説明します。

ファイルマネージャでのドラッグ&ドロップ

ファイルマネージャの一部の作業は、ドラッグ&ドロップで実行できます。ドラッグ&ドロップすると、マウスポインタは、実行する作業に関するフィードバックを示します。表 7-4 は、ドラッグ&ドロップで実行できる作業を説明します。また、ドラッグ&ドロップしたときに表示されるマウスポインタも示します。

表 7-4 ファイルマネージャでのドラッグ&ドロップ

作業	操作	マウスポインタ
項目の移動	項目を別の場所にドラッグする	

表 7-4 ファイルマネージャでのドラッグ&ドロップ (続き)

作業	操作	マウスポインタ
項目のコピー	項目をグラブし、Ctrl キーを押したままにする。項目を別の場所にドラッグする	
項目へのシンボリックリンクを作成する	項目をグラブし、Ctrl + Shift キーを押したままにする。シンボリックリンクを配置する場所に項目をドラッグする	
ドラッグした項目で行う動作を尋ねる	項目をグラブし、Alt キーを押したままにする。配置する場所に項目をドラッグする。マウスボタンを放す。ポップアップメニューが表示される。ポップアップメニューから次の項目のいずれか 1 つを選ぶ ■ 「ここへ移動」 項目をその場所まで移動 ■ 「ここにコピー」 項目をその場所にコピー ■ 「リンク先」 その場所に項目のシンボリックリンクを作成 ■ 「背景として設定」 項目が画像の場合、その画像をデスクトップ背景に設定。このコマンドを使用して、デスクトップおよび表示区画の背景を設定できる ■ 「取消し」 ドラッグ&ドロップ操作を取り消す	

ファイルおよびフォルダを選択する

ファイルマネージャでファイルやフォルダを選択する方法は、いくつかあります。表 7-5 では、ファイルマネージャとデスクトップで項目を選択する方法が説明されています。

表 7-5 ファイルマネージャ内の項目の選択

作業	操作
項目の選択	その項目をクリックする
一連の項目のグループを選択	アイコン表示で、選択する複数のファイルを囲むようにドラッグする リスト表示で、グループの最初の項目をクリックする。Shift キーを押したまま、グループの最後の項目をクリックする

表 7-5 ファイルマネージャ内の項目の選択 (続き)

作業	操作
複数の項目を選択	Ctrl キーを押したままにする。選択する複数の項目をクリックする または、Ctrl キーを押したまま、選択する複数のファイルを囲むようにドラッグする
フォルダ内のすべての項目を選択	「編集」→「すべてのファイルを選択」を選択する

項目のデフォルトのアクションを実行するには、その項目をダブルクリックします。ファイルマネージャで設定することにより、ファイルを 1 度クリックするだけでデフォルトの操作を実行できます。詳細については、132 ページの「動作環境を設定する」を参照してください。

ファイルまたはフォルダを移動する

以降の節では、ファイルまたはフォルダを移動する方法について説明します。

表示区画でのドラッグ

ファイルまたはフォルダを表示区画内の別の場所にドラッグするには、次の手順を実行します。

1. ファイルマネージャウィンドウを開きます。「ファイル」→「新規ウィンドウ」を選択して、別のファイルマネージャウィンドウを開きます。
2. 1 つ目のウィンドウで、ファイルまたはフォルダの移動元のフォルダを選択します。別のウィンドウで、ファイルまたはフォルダの移動先のフォルダを選択します。
3. 移動するファイルまたはフォルダを、別のウィンドウの新しい場所にドラッグします。

ファイルまたはフォルダを現在の場所より 1 レベル下のフォルダに移動する場合は、新しいウィンドウを開きません。代わりに、ファイルまたはフォルダをドラッグして、同じウィンドウ内の移動先フォルダにドラッグします。

切り取りと貼り付け

ファイルまたはフォルダを切り取って、それを別の場所に貼り付けることができます。次の手順を実行します。

1. 移動するファイルまたはフォルダを選択して、「編集」→「ファイルの切り取り」を選択します。
2. ファイルまたはフォルダの移動先のフォルダを開き、「編集」→「ファイルの貼り付け」を選択します。

ファイルまたはフォルダをコピーする

以降の節では、ファイルまたはフォルダをコピーする方法について説明します。

表示区画でのドラッグ

ファイルまたはフォルダをコピーするには、次の手順を実行します。

1. ファイルマネージャウィンドウを開きます。「ファイル」→「新規ウィンドウ」を選択して、別のファイルマネージャウィンドウを開きます。
2. 1つ目のウィンドウで、ファイルまたはフォルダのコピー元のフォルダを選択します。別のウィンドウで、ファイルまたはフォルダのコピー先のフォルダを選択します。
3. ファイルまたはフォルダをグラブし、Ctrl キーを押したままにします。ファイルまたはフォルダを別のウィンドウの新しい場所にドラッグします。

ファイルまたはフォルダを現在の場所より 1 レベル下のフォルダにコピーする場合は、新しいウィンドウを開きません。代わりに、ファイルまたはフォルダをグラブし、Ctrl キーを押したままにします。ファイルまたはフォルダを同じウィンドウの別の場所にドラッグします。

コピーと貼り付け

ファイルまたはフォルダをコピーして、それを別の場所に貼り付けることができます。次の手順を実行します。

1. コピーするファイルまたはフォルダを選択して、「編集」→「ファイルのコピー」を選択します。
2. ファイルまたはフォルダのコピー先のフォルダを開き、「編集」→「ファイルの貼り付け」を選択します。

ファイルまたはフォルダを複製する

ファイルまたはフォルダの複製を現在のフォルダに作成するには、次の手順を実行します。

1. 表示区画で、複製するファイルまたはフォルダを選択します。
2. 「編集」→「複製」を選択します。または、表示区画でファイルまたはフォルダを右クリックして、「複製」を選択します。

ファイルまたはフォルダの複製が現在のフォルダに表示されます。

フォルダを作成する

フォルダを作成するには、次の手順を実行します。

1. 新たにフォルダを作成するフォルダを選択します。
2. 「ファイル」→「新規フォルダ」を選択します。または、表示区画の背景で右クリックして、「新規フォルダ」を選択します。
「未タイトル」のフォルダが表示区画に追加されます。フォルダの名前が選択されています。
3. フォルダの名前を入力して、Return キーを押します。

ファイルまたはフォルダの名前を変更する

ファイルまたはフォルダの名前を変更するには、次の手順を実行します。

1. 表示区画で、名前を変更するファイルまたはフォルダを選択します。
2. 「編集」→「名前の変更」を選択します。または、表示区画でファイルまたはフォルダを右クリックして、「名前の変更」を選択します。
ファイルまたはフォルダの名前が選択されています。
3. ファイルまたはフォルダの新しい名前を入力して、Return キーを押します。

ファイルまたはフォルダをごみ箱に移動する

ファイルまたはフォルダをごみ箱に移動するには、次の手順を実行します。

1. 表示区画で、ごみ箱に移動するファイルまたはフォルダを選択します。
2. 「編集」→「ごみ箱へ移動」を選択します。または、表示区画でファイルまたはフォルダを右クリックして、「ごみ箱へ移動」を選択します。

あるいは、表示区画からデスクトップ上のごみ箱オブジェクトにファイルまたはフォルダをドラッグすることもできます。

注 – ファイルまたはフォルダをリムーバブルメディアからごみ箱に移動すると、そのファイルまたはフォルダはリムーバブルメディアの ごみ箱 に保存されます。リムーバブルメディアからファイルまたはフォルダを完全に削除するには、ごみ箱 を空にします。

ファイルまたはフォルダを削除する

ファイルまたはフォルダを削除する場合、そのファイルまたはフォルダはごみ箱に移動されず、ただちにファイルシステムから削除されます。「削除」メニュー項目が使用できるのは、「ごみ箱を経由しない削除コマンドを含める」オプションが「フォルダオプション」ダイアログで選択されている場合のみです。

ファイルまたはフォルダを削除するには、次の手順を実行します。

1. 表示区画で、削除するファイルまたはフォルダを選択します。
2. 「編集」→「削除」を選択します。または、表示区画でファイルまたはフォルダを右クリックして、「削除」を選択します。

ファイルまたはフォルダのシンボリックリンクを作成する

シンボリックリンクとは、別のファイルまたはフォルダを指す特殊な種類のファイルです。シンボリックリンクに対してアクションを実行すると、そのアクションはシンボリックリンクが指すファイルまたはフォルダで実行されます。ただし、シンボリックリンクを削除した場合、リンクファイルが削除されるだけで、そのリンクが指すファイルは削除されません。

ファイルまたはフォルダのシンボリックリンクを作成するには、リンクを作成するファイルまたはフォルダを選択します。「編集」→「リンクを作成」を選択します。ファイルまたはフォルダのリンクが、現在のフォルダに追加されます。

あるいは、リンクを作成する項目をグラブし、Ctrl + Shift キーを押したままにします。リンクを配置する場所に項目をドラッグします。

デフォルトでは、エンブレムがシンボリックリンクに追加されます。

注 - シンボリックリンクのアクセス権は、シンボリックリンクが指すファイルやフォルダによって異なります。

ファイルやフォルダのプロパティを表示する

ファイルやフォルダのプロパティを表示するには、次の手順を実行します。

1. プロパティを表示するファイルやフォルダを選択します。
2. 「ファイル」→「プロパティ」を選択します。「プロパティ」ダイアログが表示されます。
3. 「プロパティ」ダイアログで、ファイルやフォルダのプロパティを表示します。
4. 「閉じる」をクリックして、「プロパティ」ダイアログを閉じます。

アクセス権を変更する

アクセス権は、ファイルやフォルダそれぞれに割り当てられる設定で、ユーザがそのファイルやフォルダに対して持つアクセス権を決定します。以下の表に、ファイルやフォルダに設定できるアクセス権とその効果を示します。

アクセス権	「ファイル」	フォルダ
読み取り	ファイルを読み取る権利	フォルダの内容を一覧表示する権利
書き込み	ファイルを変更する権利	フォルダ内にファイルを作成したり、フォルダ内からファイルを削除する権利
実行	ファイルをプログラムとして実行する権利この権利は、ファイルがプログラムまたはスクリプトの場合のみに関係します。	ディレクトリ内のファイルにアクセスする権利

複数のタイプのユーザにアクセス権を設定できます。以下の表には、アクセス権を設定できるユーザのタイプが示されています。

ユーザのカテゴリ	「説明」
所有者	ファイルやフォルダを作成したユーザ
グループ	所有者が属するグループ
その他のユーザー	所有者が属するグループ外のユーザ全員

ファイルやフォルダのアクセス権を変更するには、以下の手順を実行します。

1. アクセス権を変更するファイルまたはフォルダを選択します。
2. 「ファイル」 → 「プロパティ」を選択します。「プロパティ」ダイアログが表示されます。
3. 「アクセス権」タブをクリックします。「アクセス権」タブセクションで、ドロップダウンリストとチェックボックスを使用して、ファイルまたはフォルダのアクセス権を変更します。次の表に、「アクセス権」タブセクションのダイアログ要素を示します。

要素	「説明」
「ファイルの所有者」	ファイルやフォルダの所有者を変更するには、その所有者をドロップダウンリストから選択する
「ファイルのグループ」	ファイルやフォルダが所属するグループを変更するには、そのグループをドロップダウンリストから選択する

要素	説明
「所有者」	ファイルやフォルダの所有者に適用するアクセス権を選択する
「グループ」	ファイルやフォルダの所有者が属するグループに適用するアクセス権を選択する
「その他」	所有者が属するグループ外のユーザー全員に適用するアクセス権を選択する
「テキスト表示」	「読み取り」、「書き込み」、「実行」オプションから選択したアクセス権をテキスト形式で表示する
「番号表示」	「読み取り」、「書き込み」、「実行」オプションから選択したアクセス権をテキスト形式で表示する
「最終変更日時」	ファイルまたはフォルダが最後に変更された日時を表示する

4. 「閉じる」をクリックして、「プロパティ」ダイアログを閉じます。

ファイルやフォルダへのノートの追加

ファイルやフォルダへノートを追加できます。以下の方法で、ファイルやフォルダへノートを追加します。

- 「プロパティ」ダイアログから
- サイド区画の「ノート」から

「プロパティ」ダイアログでノートを追加する

ファイルやフォルダにノートを追加するには、次の手順を実行します。

1. ノートを追加するファイルやフォルダを選択します。
2. 「ファイル」→「プロパティ」を選択します。「プロパティ」ダイアログが表示されます。
3. 「ノート」タブをクリックし、「ノート」タブセクションでノートを入力します。
4. 「閉じる」をクリックして、「プロパティ」ダイアログを閉じます。ノートエンブレムがファイルやフォルダに追加されます。

ノートを削除するには、「ノート」タブセクションからノートテキストを削除します。

サイド区画の「ノート」でノートを追加する

ファイルやフォルダにノートを追加するには、次の手順を実行します。

1. ノートを追加するファイルやフォルダを表示区画で開きます。
2. サイド区画の上部分にあるドロップダウンリストから「ノート」を選択します。サイド区画を表示するには、「表示」→「サイド区画」を選択します。
3. サイド区画にノートを入力します。ノートエンブレムが表示区画のファイルまたはフォルダに追加され、ノートアイコンがサイド区画に追加されます。このアイコンをクリックすると、ノートを表示できます。

ノートを削除するには、サイド区画の「ノート」からノートテキストを削除します。

「ごみ箱」の使用方法

以下の項目は、ごみ箱に移動できます。

- ファイル
- フォルダ
- デスクトップオブジェクト

ごみ箱内のファイルを元に戻したい場合は、ごみ箱の内容を表示して、ごみ箱からファイルを取り出すことができます。ごみ箱を空にすると、ごみ箱の内容は永久に失われます。

ごみ箱を表示する

ごみ箱の内容は、次の方法で表示できます。

- ファイルマネージャウィンドウから
「移動」→「ごみ箱」を選択します。ごみ箱の内容がウィンドウに表示されます。
- デスクトップ
デスクトップのごみ箱オブジェクトをダブルクリックします。

ごみ箱を空にする

ごみ箱の内容は、次の方法で空にできます。

- ファイルマネージャウィンドウから
「ファイル」→「ごみ箱を空にする」を選択します。
- デスクトップ
ごみ箱オブジェクトを右クリックして、「ごみ箱を空にする」を選択する

ファイルおよびフォルダの外観の変更

ファイルマネージャを使用すると、ファイルおよびフォルダの概観をなんとなりに変更できます。説明は、次の節を参照してください。

ファイルまたはフォルダにエンブレムを追加する

項目にエンブレムを追加するには、次の手順を実行します。

1. エンブレムを追加する項目を選択します。
2. 項目を右クリックして、「プロパティ」を選択します。「プロパティ」ダイアログが表示されます。
3. 「エンブレム」タブをクリックして、「エンブレム」タブセクションを表示します。
4. 項目に追加するエンブレムを選択します。
5. 「閉じる」をクリックして、「プロパティ」ダイアログを閉じます。

新しいエンブレムを追加する

エンブレムを新たに追加するには、次の手順を実行します。

1. 「編集」→「背景とエンブレム」を選択します。
2. 「エンブレム」ボタンをクリックし、「新しいエンブレムを追加」ボタンをクリックします。「新規エンブレムを作成」ダイアログが表示されます。
3. エンブレムの名前を「キーワード」テキストボックスに入力します。
4. 「画像」ボタンをクリックします。ダイアログが表示されます。「閲覧」をクリックします。エンブレムを選択したら、「了解」をクリックします。
5. 「新規エンブレムを作成」ダイアログで「了解」をクリックします。

ファイルまたはフォルダのアイコンを変更する

個々のファイルまたはフォルダを表すアイコンを変更するには、次の手順を実行します。

1. 変更するファイルまたはフォルダを選択します。
2. 「ファイル」→「プロパティ」を選択します。「プロパティ」ダイアログが表示されます。
3. 「基本」タブセクションで、「カスタムアイコンの選択」ボタンをクリックします。「アイコンを選択」ダイアログが表示されます。

- 4. 「アイコンを選択」ダイアログを使用して、ファイルまたはフォルダを表すアイコンを選びます。
- 5. 「閉じる」をクリックして、「プロパティ」ダイアログを閉じます。

カスタムアイコンから「ファイルの関連付け」設定ツールで指定した初期値のアイコンに戻すには、アイコンを右クリックして、「Remove Custom Icon」を選択します。または、「設定」ダイアログの「カスタムアイコンを削除」ボタンをクリックします。

ファイルタイプを表すアイコンを変更するには、「ファイルの関連付け」設定ツールを使用します。

ビュー内の項目のサイズを変更する

ビュー内の項目のサイズは変更することができます。ビューでファイルまたはフォルダを表示している場合には、そのサイズを変更できます。ビュー内の項目のサイズは、次の方法で変更できます。

- ビュー内の項目を拡大するには、「表示」→「拡大」を選択する
- ビュー内の項目を縮小するには、「表示」→「縮小」を選択する
- ビュー内の項目を通常のサイズに戻すには、「表示」→「通常のサイズ」を選択する

ロケーションバーにある拡大 / 縮小ボタンを使用して、ビュー内の項目のサイズを変更することもできます。表 7-6 は、拡大 / 縮小ボタンの使用方法を説明します。

表 7-6 拡大 / 縮小ボタン

ボタン	ボタン名	説明
	縮小ボタン	ビュー内の項目のサイズを縮小する
	通常のサイズボタン	ビュー内の項目のサイズを通常のサイズに戻す
	拡大ボタン	ビュー内の項目のサイズを拡大する

ファイルマネージャは、特定のフォルダ内の項目のサイズを記憶しています。次回、そのフォルダを表示したとき、その項目は変更したサイズで表示されます。つまり、フォルダの項目のサイズを変更した場合、そのフォルダは、指定したサイズで項目を表示するようにカスタマイズされます。項目のサイズを、設定で指定したデフォルトのサイズに戻すには、「表示」→「デフォルトの表示方法」を選択します。

ビューを使用したファイルとフォルダの表示

ファイルマネージャでは、ファイルの内容を表示する方法がいくつかあります。ファイルマネージャには、ビューアコンポーネントがあり、特定のファイル形式を表示区画に表示できます。たとえば、Web ページビューアを使用して、表示区画に HTML ファイルを表示できます。また、テキストビューアを使用して、表示区画にプレーンテキストファイルを表示できます。

さらに、ファイルマネージャでは、適当なアプリケーションでファイルを開くことも可能です。詳細については、107 ページの「ファイルを開く」を参照してください。

ファイルマネージャには、フォルダの内容を異なる方法で表示できるビューがあります。たとえば、フォルダの内容は次の表示形式で表示できます。

- アイコン表示

フォルダ内の項目をアイコン形式で表示する図 7-1 に、アイコン表示のフォルダを示します。

- リスト表示

フォルダ内の項目をリスト形式で表示する図 7-3 に、リスト表示のフォルダを示します。

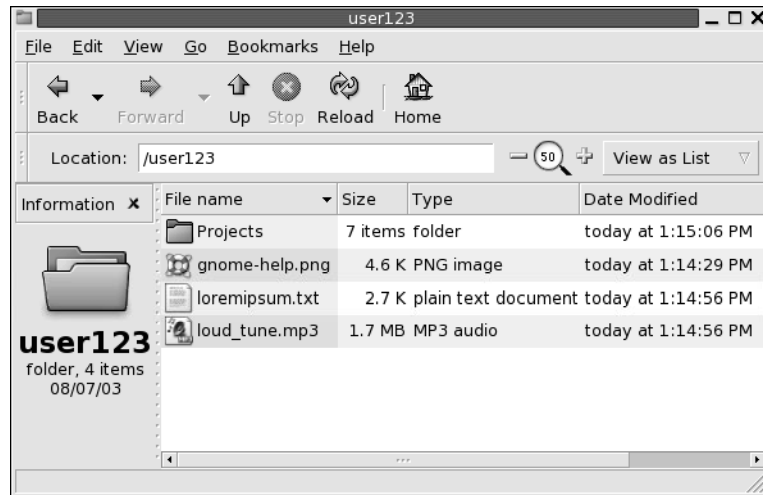


図 7-3 リスト表示のファイルマネージャウィンドウ

■ オーディオ表示

フォルダ内のオーディオ項目のみを表示し、オーディオファイルの再生に使う機能を示します。図 7-3 に、オーディオ表示のフォルダを示します。

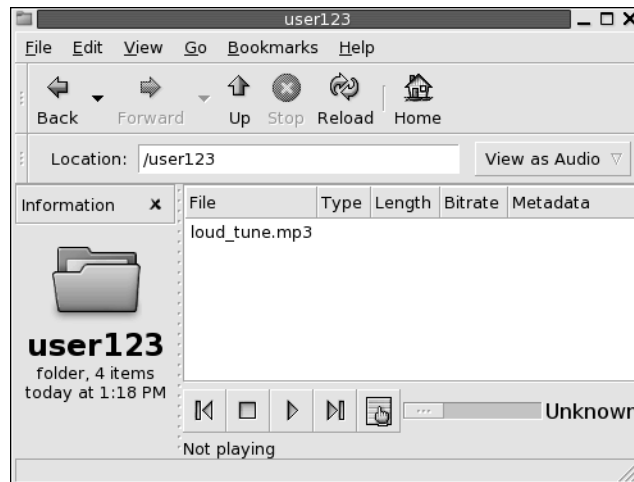


図 7-4 オーディオ表示のファイルマネージャウィンドウ

「表示」メニューを使用して、ファイルまたはフォルダの表示方法を選択できます。また、「表示方法」ドロップダウンリストを使用して、ファイルまたはフォルダの表示方法を選ぶこともできます。フォルダを表示するときに、フォルダ内で項目をどのように整理または並べ替えるかを指定できます。表示区画内の項目のサイズは変更できます。以降の節では、アイコン表示、リスト表示、およびファイルの表示の操作方法について説明します。

ファイルまたはフォルダを表示するビューを選ぶ

ファイルまたはフォルダの内容を表示するビューのタイプは、「表示」メニューから選択します。

または、「表示」→「表示方法」からビューを選択することもできます。使用するビューを「他の表示方法で開く」ダイアログから選択して、「選択」ボタンをクリックします。

ビューのタイプは、「表示方法」ドロップダウンリストから選ぶこともできます。「表示方法」ドロップダウンリストは、ロケーションバーの右側にあります。

異なるフォルダは、異なるビューに表示できます。ファイルマネージャは、ユーザーが選択した特定のフォルダの表示方法を記憶しています。次にフォルダを表示するときも、フォルダは同じ表示方法で表示されます。フォルダのビューを、設定で指定したデフォルトのビューに戻すには、「表示」→「デフォルトの表示方法」を選択します。

アイコン表示でファイルを整理する

フォルダの内容をアイコン表示で表示する場合、フォルダ内の項目をどのように整理するかを指定できます。アイコン表示で項目をどのように整理するかは、「表示」→「項目の位置を設定」を選択して指定できます。「項目の位置を設定」サブメニューには次のセクションがあります。

- 上のセクションには、ファイルを手動で整理できるオプションが含まれる
- 中央セクションには、ファイルを自動的に並べ替えるオプションが含まれる
- 下のセクションには、ファイルの整理方法を変更できるオプションが含まれる

適切なオプションをサブメニューから選んでください。次の表に、オプションを説明します。

オプション	「説明」
「手動」	項目を手動で整理する。項目を手動で整理するには、表示区画内で項目を希望する場所までドラッグする

オプション	「説明」
「名前」	名前のアルファベット順に項目を並べ替える。項目の順序に、大文字と小文字の区別はない。ファイルマネージャが隠しファイルを表示する設定の場合は、隠しファイルは最後に表示される
「サイズ」	サイズの大きな順に項目を並べ替える。項目をサイズで並べ替える場合、フォルダはフォルダ内の項目の数によって並べ替えられる。フォルダの並べ替えは、フォルダ内の項目の合計サイズではない
「種類別」	オブジェクトの種類によって、アルファベット順に項目を並べ替える。項目は、「ファイルの関連付け」設定ツールの MIME タイプの記述に従いアルファベット順にソートされる。MIME タイプにはファイルの書式が指定されており、この情報によってアプリケーションがファイルを読み取ることが可能になる。たとえば、電子メールアプリケーションは、image/png MIME タイプから、電子メールに PNG (Portable Networks Graphic) ファイルが添付されていることを認識する
「更新日時」	項目を最後に更新した日付によって並べ替える。最も日付の新しい項目が先頭になる
「エンブレム」	項目に追加されているエンブレムによって並べ替える。エンブレムの名前のアルファベット順に項目が並べ替えられる。エンブレムが追加されていない項目は最後に表示される
「コンパクトなレイアウト」	項目が互いに接近するように整理する
「逆順」	項目を並べ替えるオプションの、並べ替えの順序を逆にする。たとえば、項目を名前ですべて替える場合、「逆順」オプションを選択すると、逆のアルファベット順に項目を並べ替える

ファイルマネージャは、特定のフォルダの項目配置を記憶しています。次回、そのフォルダを表示したとき、その項目は指定した方法で整理されます。つまり、フォルダ内の項目の整理方法を指定した場合、そのフォルダは、指定した方法で項目を表示するようにカスタマイズされます。フォルダの整理方法を、設定で指定されているデフォルトの整理方法に戻すには、「表示」→「デフォルトの表示方法」を選択します。

アイコン表示でアイコンのサイズを変更する

アイコン表示では、表示されている項目を表すアイコンのサイズを変更できます。アイコン表示で項目のサイズを変更するには、次の手順を実行します。

1. サイズ変更する項目を右クリックして、「アイコンを伸縮」を選択します。項目のまわりに、各コーナーにハンドルのある長方形が表示されます。
2. ハンドルの1つをグラブして、希望するサイズまでアイコンをドラッグします。

アイコンを元のサイズに戻すには、そのアイコンを右クリックして「アイコンの元のサイズに復元」を選択します。

デスクトップのオブジェクトのサイズも変更できます。

ビューの動作を変更する

ビューの動作は、次の方法で変更できます。

- 特定のファイルまたはフォルダのデフォルトのビューとして指定する
- ファイルタイプまたはすべてのフォルダのデフォルトのビューとして指定する
- 特定のファイルまたはフォルダの「表示方法」サブメニュー内の項目として指定する
- 特定のファイルタイプすべて、またはすべてのフォルダの「表示方法」サブメニュー内の項目として指定する
- ビューが特定のファイルまたはフォルダの「表示方法」サブメニュー内の項目に含まれないように指定する

ビューの動作を変更するには、次の手順を実行します。

1. 「表示」→「表示方法」を選択します。「他の表示方法で開く」ダイアログが表示されます。
2. 変更するビューをダイアログ内の表から選択します。
3. 「修正」ボタンをクリックします。「修正」ダイアログが表示されます。次の表で、「修正」ダイアログのオプションを説明します。

オプション	「説明」
「 <i>item-name</i> アイテムのメニューに含まれます」	ビューをこの種の項目の「表示方法」サブメニューに含める
「 <i>item-name</i> アイテムのデフォルトとして使用します」	ビューをこの種の項目のデフォルトとして使用する
「 <i>item-name</i> のメニューにのみ含まれます」	ビューをこの項目のみの「表示方法」サブメニューに含める
「 <i>item-name</i> のデフォルトとしてのみ使用します」	ビューをこの項目のみのデフォルトとして使用する
「 <i>item-name</i> アイテムのメニューに含まれません」	ビューをこの種の項目の「表示方法」サブメニューから除外する

4. 「了解」をクリックし、「取消し」をクリックして「他の表示方法で開く」ダイアログを閉じます。

注 - 「ファイルの関連付け」設定ツールの「ファイルタイプを編集」ダイアログでもファイルタイプに関連付けたアクションを修正できます。「ファイルタイプを編集」ダイアログを開くには、「起動」ボタンをクリックします。

ファイルへのアクションの割り当て

ユーザがファイルを開くと、ファイルマネージャはそのファイルタイプのデフォルトのアクションを実行します。「ファイルの関連付け」設定ツールには、ファイルタイプ、関連ファイル拡張子、デフォルトのアクションの表が含まれています。この表で、ファイルマネージャのファイルをダブルクリックしたときの動作が決まります。

ファイルマネージャを使用して、特定のファイルおよびファイルタイプに関連付けられているアクションを変更することもできます。

「ファイルの関連付け」設定ツールでは、以下の作業を実行できます。

- ファイルタイプのデフォルトのアクションを指定。ファイルタイプのデフォルトアクションは、ファイルマネージャでも変更できます。
- ファイルタイプを1つまたは複数のアプリケーションと関連付ける。デフォルトのアクションでは、そのファイルタイプと関連付けられるアプリケーションでファイルを開くように指定されている
- ファイルタイプを1つまたは複数のビューアと関連付ける。デフォルトのアクションでは、そのファイルタイプと関連付けられるビューアでファイルを開くように指定されている
- ファイルの拡張子を MIME タイプに関連付ける。MIME タイプは、ファイル形式を指定するため、インターネットブラウザおよび電子メールアプリケーションがそのファイルを読み取ることができる

アクションを変更する

ファイルまたはファイルタイプと関連付けられるアクションを変更できます。次の変更が可能です。

- 特定のファイルのデフォルトのアクションであることを指定する
- 特定のファイルタイプのデフォルトのアクションであることを指定する
- 特定のファイルの「他のもので開く」サブメニュー内の項目であることを指定する
- 特定のファイルタイプの「他のもので開く」サブメニュー内の項目であることを指定する
- 特定のファイルタイプの「他のもので開く」サブメニュー内の項目に含まれないことを指定する

ファイルまたはファイルタイプと関連付けられるアクションを変更するには、次の手順を実行します。

1. 表示区画で、アクションを変更するファイルを選択します。ファイルタイプに関連付けられるアクションを変更する場合は、そのタイプのファイルを選択します。
2. 「ファイル」→「他のもので開く」を選択します。次のいずれかの手順を実行します。
 - 「アプリケーション」を選択。「アプリケーションで開く」ダイアログが表示されます。
 - 「ビューア」を選択。「他の表示方法で開く」ダイアログが表示されます。
3. ダイアログ内の表から、動作を変更するアプリケーションまたはビューアを選択します。
4. 「修正」ボタンをクリックします。「修正」ダイアログが表示されます。次の表で、「修正」ダイアログのオプションを説明します。

オプション	「説明」
「 <i>filetype</i> アイテムのメニューに含まれます」	このファイルタイプの「他のもので開く」サブメニューにアプリケーションまたはビューアを含める
「 <i>filetype</i> アイテムのデフォルトとしてのみ使用します」	このファイルタイプのデフォルトのアクションとしてアプリケーションまたはビューアを使用する
「 <i>filename</i> のメニューにのみ含まれます」	このファイルの「他のもので開く」サブメニューにアプリケーションまたはビューアを含め、このタイプの別のファイルのサブメニューには含めない
「 <i>filename</i> のデフォルトとしてのみ使用します」	このファイルのデフォルトのアクションとしてアプリケーションまたはビューアを使用し、このタイプの別のファイルには使用しない
「 <i>filetype</i> アイテムのメニューに含まれません」	このファイルタイプの「他のもので開く」サブメニューからアプリケーションまたはビューアを除外する

5. 「OK」をクリックし、「取消し」をクリックしてダイアログを閉じます。

注 - 「ファイルの関連付け」設定ツールの「ファイルタイプを編集」ダイアログでもファイルタイプに関連付けたアクションを修正できます。「ファイルタイプを編集」ダイアログを開くには、「起動」ボタンをクリックします。

ファイルマネージャのカスタマイズ

ファイルマネージャは、要件や設定に合わせてカスタマイズできます。この節では、ファイルマネージャのカスタマイズ方法について説明します。

設定

ファイルマネージャの設定には、「フォルダオプション」ダイアログを表示します。「フォルダオプション」ダイアログを表示するには、「編集」→「設定」の順に選択します。

設定は、次のカテゴリで設定できます。

- ビューのデフォルト設定
- ファイル、フォルダ、実行テキストファイル、ごみ箱の動作
- アイコン見出しに表示される情報
- ファイルマネージャのパフォーマンスを向上させるプレビューオプション

表示形式を設定する

デフォルト表示形式を指定して、ソートオプションと表示オプションを選択できます。アイコン表示とリスト表示のデフォルト設定も指定できます。デフォルトの表示形式を指定するには、「編集」→「設定」の順に選択します。「表示」タブをクリックして、「表示」タブセクションを表示します。

表 7-7 に、変更可能な表示設定を示します。

表 7-7 表示の設定

ダイアログ要素	「説明」
「新しいフォルダの表示方法」	フォルダのデフォルトの表示を選択。フォルダを開いたときに、指定した表示にそのフォルダが表示される
「アイテムを整列」	この表示に表示されるフォルダ内の項目を並べ替える特性を選択
「フォルダをファイルより前に並べる」	フォルダをソートすると、フォルダがファイルの前にリスト表示される

表 7-7 表示の設定 (続き)

ダイアログ要素	「説明」
「逆に並べ替え」	この表示での項目の並べ替えを逆順にする。このオプションを選択すると、「アイテムを整列」ドロップダウンリストで指定した特性の順序が逆になる。たとえば、「名前順」を選択している場合、項目はアルファベットの Z からソートされる
「隠しファイルとバックアップファイルを表示する」	隠しファイルとバックアップファイルを表示区画に表示する。隠しファイル名はピリオド (.) で始まる。バックアップファイル名はチルド (~) で終わる
「拡大レベルをデフォルトに戻す」	アイコン表示とリスト表示。この表示に表示されるフォルダのデフォルトの拡大レベルを選択。拡大レベルは、ビュー内の項目のサイズを指定する
「コンパクトレイアウトを使用」	フォルダ内の項目が互いに接近するようにアイコン表示の項目が整理される
「アイコンに表示する優先テキスト」:	アイコン見出しをアイコンの下ではなく、横に表示する
「手動レイアウトを使用する」	アイコン表示の項目を手動で整理する
「フォルダのみ表示する」	サイド区画の「ツリー」にフォルダのみを表示する

動作環境を設定する

ファイルとフォルダの環境を設定するには、「編集」→「設定」を選択します。「動作」タブをクリックして、「動作」タブセクションを表示します。

表 7-8 に、変更可能なファイルとフォルダの設定を示します。

表 7-8 ファイルとフォルダの動作設定

オプション	「説明」
「シングルクリックでアイテムを起動する」	ユーザが項目をクリックすると、デフォルトのアクションが実行される。このオプションを選択した場合、項目を指すと項目下のタイトルに下線が引かれる
「ダブルクリックでアイテムを起動する」	ユーザが項目をダブルクリックすると、デフォルトのアクションが実行される。
「起動したアイテムを新しいウィンドウの中に開く」	ファイルまたはフォルダを開いたときに新しいウィンドウを開く
「実行可能なテキストファイルのクリック時に、そのファイルを実行する」	実行ファイルを選択すると、その実行ファイルが実行される。実行ファイルとは、実行できるテキストファイル、つまりシェルスクリプトを指す

表 7-8 ファイルとフォルダの動作設定 (続き)

オプション	「説明」
「実行可能なテキストファイルのクリック時に、そのファイルの中身を表示する」	実行ファイルを選択すると、その内容が表示される
「毎回確認する」	実行ファイルを選択すると、ダイアログが表示される。ダイアログによって、ファイルを実行するか表示するかを選択できる
「ごみ箱を空にする、または、ファイルを削除する前に確認を求める」	ごみ箱を空にする (ファイルを削除する) 前に確認メッセージを表示する
「ごみ箱を経由しない削除コマンドを含める」	「削除」メニュー項目を以下のメニューに追加する。 ■ 「編集」メニュー ■ ファイル、フォルダ、デスクトップオブジェクトを右クリックしたときに表示されるポップアップメニュー 項目を選択して「削除」メニュー項目を選ぶと、その項目は直ちにファイルシステムから削除される

アイコン見出しを設定する

アイコン見出しは、アイコン表示でファイルやフォルダの名前を表示します。アイコン見出しには、ファイルやフォルダの情報が他にも 3 つ含まれています。追加情報は、ファイル名の後に表示されます。通常は 1 項目しか表示されていませんが、アイコンを拡大表示すると他の情報も表示されます。どの追加情報をアイコン見出しに表示するかは、変更できます。

アイコン見出しの環境を設定するには、「編集」→「設定」を選択します。「アイコンの見出し」タブをクリックして、「アイコンの見出し」タブセクションを表示します。

3 つのドロップダウンリストからアイコン見出しに表示する項目を選択します。まず最初の項目を最初のドロップダウンリストから選択し、次の項目を次のドロップダウンリストから選択するというように実行します。以下の表には、選択可能な項目が示されています。

インフォメーション	「説明」
「サイズ」	項目のサイズを表示
「タイプ」	「ファイルの関連付け」設定ツールから項目の MIME タイプの説明を表示
「変更日時」	項目の最終変更日を表示
「アクセス日時」	項目の最終アクセス日を表示

インフォメーション	「説明」
「所有者」	項目の所有者を表示
「グループ」	項目が属しているグループを表示
「アクセス権」	項目のアクセス権を <code>-rwxrw-r--</code> のように3文字の3セットで表示
「8進数表記のアクセス権」	項目のアクセス権を <code>764</code> のように8進数表記で表示
「MIMEタイプ」	項目のMIMEタイプを表示
「なし」	項目の情報を表示しない

プレビュー環境を設定する

ファイルマネージャには、ファイルのプレビュー機能がいくつかあります。プレビュー機能は、ファイルマネージャの要求速度に影響する場合があります。ファイルマネージャの速度を改善するために、この機能の動作を変更できます。各プレビューの設定に対して、以下の表に示すオプションのいずれか1つを選択できます。

オプション	「説明」
「常に表示する」	ローカルファイルと、別のファイルシステム上のファイルの両方に対して、動作を実行する
「ローカルファイルのみ」	ローカルファイルに対してのみ動作を実行する
「表示しない」	動作を実行しない

プレビュー環境を設定するには、「編集」→「設定」を選択します。「プレビュー」タブダイアログをクリックして、「プレビュー」タブセクションを表示します。

表 7-9に、変更可能なプレビュー設定を示します。

表 7-9 プレビューの設定

ダイアログ要素	「説明」
「アイコンにテキストを表示」	ファイルを表すアイコンのテキストファイルの内容をいつプレビューするかを指定する
「サムネイルの表示」	画像ファイルのサムネイルをいつ表示するかを指定する。ファイルマネージャは、各フォルダのサムネイルファイルを、そのフォルダの1レベル下にある <code>.thumbnails</code> ディレクトリに格納する
「ファイルの最大サイズ」	ファイルマネージャがサムネイルを作成するファイルの最大サイズを指定する

表 7-9 プレビューの設定 (続き)

ダイアログ要素	「説明」
「サウンドファイルをプレビュー」	サウンドファイルをいつプレビューするかを指定する
「アイテム数のカウント」	フォルダ内の項目の数をいつ示すかを指定する表示にアイコン表示をすでに設定している場合は、「表示」タブセクションでデフォルトのズームレベルを上げないと、各フォルダのアイテム数を表示できないことがあります。

背景の変更

ファイルマネージャには、以下の画面コンポーネントの概観と雰囲気を変更するために使用できる背景が含まれています。

- デスクトップ
- サイド区画
- 表示区画
- パネル

画面コンポーネントの背景を変更するには、次の手順を実行します。

1. 「編集」→「背景とエンブレム」を選択します。「背景とエンブレム」ダイアログが表示されます。
2. 背景に使用できるパターンのリストを表示するには、「パターン」ボタンをクリックします。背景に使用できる色のリストを表示するには、「色」ボタンをクリックします。
3. 背景をパターンに変更するには、そのパターンを画面コンポーネントにドラッグします。背景を色に変更するには、その色を画面コンポーネントにドラッグします。
4. 「閉じる」をクリックして、ダイアログを閉じます。

表示区画やサイド区画の背景をデフォルトの背景に戻すには、区画の背景を右クリックし、「デフォルトの背景を使用」を選択します。

特定のフォルダのサイド区画または表示区画の背景を変更した場合、ファイルマネージャは指定した背景を記憶します。次回、そのフォルダを表示したとき、指定した背景が表示されます。つまり、フォルダの背景を変更した場合、そのフォルダが指定の背景を表示するようにカスタマイズされます。

パターンを追加する

画面コンポーネントで使用できるパターンに、パターンを追加するには、「編集」→「背景とエンブレム」を選択します。「パターン」ボタンをクリックし、「新しいパターンを追加」ボタンをクリックします。ダイアログが表示されます。ダイアログを使用して、新しいパターンを見つけます。「OK」をクリックして、新しいパターンを「背景とエンブレム」ダイアログに追加します。

色を追加する

画面コンポーネントで利用できる色に、色を追加するには、「編集」→「背景とエンブレム」を選択します。「色」ボタンをクリックし、「新しい色を追加」ボタンをクリックします。「色の選択」ダイアログが表示されます。色ガイドまたはスライダを使用して色を選びます。「OK」をクリックして、新しい色を「背景とエンブレム」ダイアログに追加します。

ウィンドウコンポーネントを表示および非表示

ファイルマネージャウィンドウのコンポーネントを以下のように表示したり、非表示にしたりできます。

- サイド区画を非表示にするには、「表示」→「サイド区画」を選択する。サイド区画を再び表示するには、「表示」→「サイド区画」をもう一度選択する
- ツールバーを非表示にするには、「表示」→「ツールバー」を選択する。ツールバーを再び表示するには、「表示」→「ツールバー」をもう一度選択する
- ロケーションバーを非表示にするには、「表示」→「ロケーションバー」を選択する。ロケーションバーを再び表示するには、「表示」→「ロケーションバー」をもう一度選択する
- ステータスバーを非表示にするには、「表示」→「ステータスバー」を選択する。ステータスバーを再び表示するには、「表示」→「ステータスバー」をもう一度選択する
- サイド区画からタブを取り除くには、サイド区画を右クリックする。取り除くタブをポップアップメニューから選択する。タブをサイド区画に再び追加するには、そのタブをポップアップメニューから選択する

リムーバブルメディアの使用方法

ファイルマネージャは、以下の特徴を持つリムーバブルメディアをすべてサポートしています。

- `/etc/fstab` ファイルにエントリがあるリムーバブルメディア `/etc/fstab` ファイルは、コンピュータが使用するファイルシステムを記述します。
- `user` オプションは、`/etc/fstab` ファイルのリムーバブルメディア用エントリで指定されます。

メディアをマウントする

メディアをマウントすることにより、そのメディアのファイルシステムにアクセス可能になる。メディアをマウントすると、そのメディアのファイルシステムは、ファイルシステムのサブディレクトリとして接続されます。

メディアをマウントするには、適切なデバイスにメディアを挿入します。メディアを表すオブジェクトがデスクトップに追加されます。なお、オブジェクトは、お使いのシステムが、メディアの検出時に自動的にデバイスをマウントするように設定されている場合にのみ追加されます。

デバイスを自動的にマウントする設定になっていない場合、手動でデバイスをマウントする必要があります。デスクトップを右クリックし、「ディスク」→「*device-name*」を選択します。たとえば、フロッピーディスクをマウントする場合は、「ディスク」→「フロッピー」を選択します。メディアを表すオブジェクトがデスクトップに追加されます。

注 - リムーバブルメディアオブジェクトの名前は変更できません。

メディアの内容を表示する

メディアの内容は、次の方法を使用して表示できます。

- デスクトップ上のメディアを表すオブジェクトをダブルクリックする
- デスクトップ上のメディアを表すオブジェクトを右クリックして、「開く」を選択する

ファイルマネージャウィンドウは、メディアの内容を表示します。ディスプレイを再読み込みするには、「再読み込み」ボタンをクリックします。

メディアプロパティを表示する

リムーバブルメディアのプロパティを表示するには、デスクトップ上のメディアを表すオブジェクトを右クリックして、「プロパティ」を選択します。メディアのプロパティを表示するダイアログが開きます。

プロパティのダイアログを閉じるには、「閉じる」をクリックします。

フロッピーディスクをフォーマットする

メディアをフォーマットすることにより、特定のファイルシステムで使用できるようになります。ファイルマネージャでフロッピーディスクをフォーマットできます。



注意 – メディアをフォーマットすると、そのメディア上の既存の情報は上書きされます。

フロッピーディスクのフォーマットを作成するには、次の手順を実行します。

1. フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクを挿入します。フロッピーディスクをマウントします。メディアのマウント方法については、137 ページの「メディアをマウントする」を参照してください。
2. デスクトップ上のディスクを表すオブジェクトを右クリックして、「フォーマット」を選択します。「フロッピーフォーマッタ」ダイアログが表示されます。
3. 「フロッピーフォーマッタ」ダイアログでフォーマットオプションを選択します。次の表では、ダイアログの要素について説明します。

ダイアログ要素	「説明」
「フロッピーデバイス」	フロッピーデバイスの名前を表示する
「フロッピー密度」	ディスク密度を選択する。密度は、ディスクが保存できるデータの量を指す
「ファイルシステムタイプ」	ディスクをフォーマットするファイルシステムの型を選択する次のオプションのいずれかを選択します。 ■ 「Linux ネイティブ (ext 2)」: ディスクを Linux システム用にフォーマットする。Linux 以外のほとんどのシステムでは、このファイルシステムタイプのディスクを読み取ることはできない ■ 「DOS (FAT)」: ディスクを Windows システム用にフォーマットする。ほとんどのUNIX ベースのシステムでは、このファイルシステムタイプのディスクを読み取ることができる
「ボリューム名」	テキストボックスにディスクの名前を入力する
「高速」	ディスクにファイルシステムのみを作成する。クイックフォーマットでは、壊れたブロックはチェックされない そのディスクが以前フォーマット済みの場合は、このオプションを選択すること
「標準」	ディスクにファイルシステムを作成し、ディスクをフォーマットする。標準フォーマットでは、壊れたブロックはチェックされない そのディスクが以前フォーマットされていない場合は、このオプションを選択すること

ダイアログ要素	「説明」
「詳細」	ファイルシステムをディスクに作成し、壊れたブロックをチェックし、ディスクをフォーマットする ディスクが破損したかどうかを確認する場合は、このオプションを選択すること

4. 「フォーマット」をクリックして、ディスクをフォーマットします。

メディアを取り出す

メディアを取り出すには、デスクトップ上のメディアオブジェクトを右クリックして、「取り出し」を選択します。メディアのドライブが電動ドライブの場合は、メディアはドライブから取り出されます。メディアのドライブが電動でない場合は、メディアのデスクトップオブジェクトが消えてから、手動でメディアを取り出します。

メディアがマウントされている場合、メディアを電動ドライブから取り出すことはできません。メディアを取り出す前に、マウント解除する必要があります。ドライブからフロッピーディスクを取り出すには、次の手順を実行します。

1. ファイルマネージャウィンドウ、端末ウィンドウ、このフロッピーディスクにアクセスするその他のウィンドウをすべて閉じます。
2. デスクトップ上のディスクを表すオブジェクトを右クリックして、「編集」を選択します。ディスクのデスクトップオブジェクトが非表示になります。
3. フロッピーディスクをドライブから取り出します。



注意 – マウント解除する前にフロッピーディスクをドライブから取り出すと、フロッピーディスク上のデータが失われる可能性があります。

CD の書き込み

ファイルマネージャは、CD に書き込むファイルやフォルダをコピーできる特別な場所を提供します。その場所の内容を簡単に CD に書き込むことができます。

CD の書き込みを行うには、次の手順を実行します。

1. 「移動」→「CD 作成」の順に選択します。ファイルマネージャが **burn:///** という特別なロケーションを開きます。ここからデータを CD に書き込むことができます。

2. CD に書き込むファイルやフォルダを **burn:///** にコピーします。
3. 書き込み可能な CD をお使いのシステムの CD 書き込みデバイスに挿入します。
4. 「ファイル」→「CD に書き込む」の順に選択します。「**CD** レコーダにファイルを書き込む」ダイアログが表示されます。
5. 「**CD** レコーダにファイルを書き込む」ダイアログで、以下のように CD への書き込み方法を指定します。

ダイアログ要素	「説明」
「書き込むターゲット」	ドロップダウンリストから CD を書き込むデバイスを選択する。ファイルやフォルダの CD イメージファイルを作成するには、「ファイルイメージ」オプションを選択する
「書き込み速度」	ドロップダウンリストから CD を書き込む速度を選択する
「 CD 名」	テキストボックスに CD の名前を入力する
「 CD を消去する」	CD の内容を削除する
「完了したときに CD を排出する」	CD の書き込みが終わると、CD をドライブから取り出す
「別の CD を焼くのにこれらのファイルを再利用する」	ファイルやフォルダを他の CD に書き込まない。このオプションを選択すると、CD の書き込み後、ファイルやフォルダは burn:/// から削除されなくなる。

6. 「CD にファイルを書き込む」ボタンをクリックします。
「ファイルイメージ」オプションを「書き込むターゲット」ドロップダウンリストから選択すると、「**CD-ROM** イメージのファイル名を選択」ダイアログが表示されます。このダイアログで、CD イメージファイルを保存する場所を指定します。CD イメージファイルのデフォルト拡張子は、**.iso** です。
「**CD** に書き込み中」ダイアログが表示されます。CD への書き込みまたは CD イメージファイルの作成が行われると、プロセスが完了したことを示すメッセージがダイアログに表示されます。
CD イメージファイルを作成した場合は、このファイルを CD に書き込むことができます。CD イメージファイルを CD に書き込むには、CD イメージファイルを右クリックし、ポップアップメニューから「**CD** に書き込む」を選択します。
「別の **CD** を焼くのにこれらのファイルを再利用する」オプションを選択していない場合は、ファイルやフォルダは **burn:///** から削除されます。

ファイルマネージャからのスクリプトの実行

ファイルマネージャには、スクリプトを保存できる特別なフォルダがあります。このフォルダに実行可能ファイルを追加すると、そのファイルは「スクリプト」サブメニューに追加されます。スクリプトを実行するには、「ファイル」→「スクリプト」を選択して、サブメニューから実行するスクリプトを選びます。

特定のファイルに対してスクリプトを実行するには、表示区画でそのファイルを選択します。「ファイル」→「スクリプト」を選択し、ファイルに対して実行するスクリプトをサブメニューから選びます。スクリプトは、複数のファイルに対して実行することもできます。

スクリプトフォルダの内容を表示するには、「ファイル」→「スクリプト」→「スクリプトフォルダを開く」を選択します。

ファイルシステムのマウントとマウント解除

ファイルシステムをマウントすることは、そのファイルシステムをアクセス可能にすることを意味します。ファイルシステムにマウントすると、そのファイルシステムは、ファイルシステムのサブディレクトリとして接続されます。

遠隔システムのディレクトリをマウントすることもできますし、アクセス可能なシステムに接続されているデバイス上のファイルシステムをマウントすることもできます。ファイルシステムのマウントやマウント解除には、root アクセス権が必要です。

ファイルシステムにアクセスする必要がなくなったら、ファイルシステムのマウントを解除できます。

ファイルシステムをマウントする

ファイルシステムをマウントするには、次の手順を実行します。

1. ファイルマネージャの中でフォルダを右クリックし、「共有」→「新しいマウントポイントを設定します」の順に選択します。「マウント/マウント解除」ダイアログが表示されます。

注 - ポップアップメニューに「マウント解除」というメニュー項目がすでに含まれている場合は、選択したディレクトリのファイルシステムがすでにマウントされていることを意味します。

2. 「マウント/マウント解除」 ダイアログに、マウントするファイルシステムの情報を入力します。次の表では、ダイアログの要素について説明します。

ダイアログ要素	「説明」
「ローカルディレクトリをマウント」	すでに選択されているフォルダの名前を表示する
「ディレクトリとして」	フォルダ上の、マウントしたいファイルシステムのパスを入力する
「リモートマシンに」	「リモートマシンに」が選択されている場合は、マウントするファイルシステムが別のシステムにあることを意味する。システムの IP アドレスか DNS 名を指定する必要がある。

3. マウントしたいファイルシステムに対して拡張オプションを選択する場合は、「拡張設定」ボタンをクリックします。「マウントオプション」ダイアログが表示されます。次の表では、ダイアログの要素について説明します。

ダイアログ要素	「説明」
「読み書き」	マウントされたファイルシステムに読み取りと書き込みのアクセス権を割り当てる場合は、このオプションを選択する
「読み取り専用」	マウントされたファイルシステムに読み取り専用のアクセス権を割り当てる場合は、このオプションを選択する
「マウントのタイプを指定」	マウントするファイルシステムの種類を指定する場合は、このオプションを指定する。ファイルシステムの種類をフィールドに入力する
「追加のオプションを指定: (コンマで区切る)」	マウントしたいファイルシステムの追加オプションを指定する場合は、このオプションを選択する。オプションをフィールドに入力する。各オプションはコンマで区切る必要がある

4. 「マウント」ボタンをクリックします。成功または失敗を示すメッセージがダイアログに表示されます。

ファイルシステムをマウント解除する

ファイルシステムをマウント解除するには、次の手順を実行します。

1. ファイルマネージャの中でフォルダを右クリックし、「共有」→「マウント解除」の順に選択します。「マウント/マウント解除」ダイアログが表示され、そこに、マウントしたファイルの詳細が表示されます。

注 - ポップアップメニューに「マウント」というメニュー項目がすでに含まれている場合は、選択したディレクトリのファイルシステムがまだマウントされていないことを意味します。

2. 「マウント解除」ボタンをクリックします。成功または失敗を示すメッセージがダイアログに表示されます。

NFS 共有の使用法

Network File System (NFS) 共有を使用すれば、フォルダを他のシステムから使用できるようにすることができます。NFS 共有の追加や削除には、root アクセス権が必要です。

NFS 共有を追加する

NFS 共有をフォルダに追加するには、次の手順を実行します。

1. ファイルマネージャの中でフォルダを右クリックし、「共有」→「追加のクライアントと共有します」の順に選択します。「共有」ダイアログが表示されます。
2. 共有したいフォルダの情報を「共有」ダイアログに入力します。次の表では、ダイアログの要素について説明します。

ダイアログ要素	「説明」
「クライアントと共有」	フォルダを共有するシステムまたはシステムグループの名前を入力する
「読み取り専用」	フォルダに読み取り専用のアクセス権を割り当てる場合は、このオプションを選択する

ダイアログ要素	「説明」
「読み取り/書き込み」	フォルダに読み取りと書き込みのアクセス権を割り当てる場合は、このオプションを選択する

3. 共有の拡張オプションを設定する場合は、「拡張設定」をクリックします。
「**Advanced Sharing Properties**」ダイアログが表示されます。次の表では、ダイアログの要素について説明します。

ダイアログ要素	「説明」
「1024 番以降のポートからの接続を許可」	1024 より低いポート番号で動作する NFS 共有を起動する場合は、root アクセス権が必要。root 以外のユーザーが NFS 共有を起動できるようにする場合は、このオプションを選択する
「非同期サーバー応答を許可」	要求によって行われた変更を保存する前に、その要求に NFS サーバーが応答できるようにする場合は、このオプションを選択する このオプションを選択すると、システムクラッシュの後に NFS サーバーを起動したときに、データが失われたり壊されたりすることがある
「同期的な書き込みを許可」	データの保存が完了するまで待ちたくない場合は、このオプションを選択する。「非同期サーバー応答を許可」オプションが選択されていると、このオプションは無効になる NFS サーバーが、互いに関係のない小さい要求を受信する場合は、このオプションの選択を解除すると、性能が向上する
「透過的で再起的なマッピングを許可」	サーバーが 2 つのファイルシステムをエクスポートし、その一方が他方にマウントされている場合、クライアントは両方のファイルシステムをマウントする必要がある クライアントが親のファイルシステムだけをマウントすると、他のファイルシステムは表示されない。このファイルシステムには空のディレクトリが含まれている このファイルシステムを表示したい場合は、このオプションを選択する。これによって、許可されたクライアントであれば、親のファイルシステムから別のファイルシステムに透過的に移動できるようになる

ダイアログ要素	「説明」
「サブツリーの整合性検査を有効にする」	サブツリーの検査を有効にする場合は、このオプションを選択する。ファイルシステムのサブディレクトリは別のシステムにエクスポートされるが、ファイルシステム全体がエクスポートされるというわけではない場合、サーバーは要求されたファイルがエクスポートされるサブディレクトリに含まれているかどうかを検査する。この検査をサブツリー検査と呼ぶ ファイルシステム全体をエクスポートする場合は、このオプションの選択を解除すると、転送速度が向上する
「クライアントのルートサーバーのルートとして扱う」	どうしても必要な場合以外は、このオプションを選択しない デフォルトでは、root ユーザーのユーザー ID とグループ ID は共に 0 である。クライアントでの root アクセス権は、NFS サーバーでの root アクセス権に対応付けられない このオプションを選択しても、root アクセス権が匿名ユーザーに割り当てられるわけではない。クライアントでの root には、ディレクトリをエクスポートする root アクセス権がある 注 - このオプションを選択すると、システムのセキュリティが低下します。
「すべてのクライアントのユーザを匿名ユーザとして扱う」	匿名ユーザーにすべてのユーザー ID とグループ ID を割り当てる場合は、このオプションを選択する
匿名ユーザのローカル ID を指定:	「すべてのクライアントのユーザを匿名ユーザとして扱う」オプションを選択すると、匿名ユーザーのユーザー ID を指定できるようになる
匿名ユーザのグループ ID を指定:	「すべてのクライアントのユーザを匿名ユーザとして扱う」オプションを選択すると、匿名ユーザーのグループ ID を指定できるようになる

4. 「追加」ボタンをクリックします。成功または失敗を示すメッセージがダイアログに表示されます。

NFS 共有を削除する

NFS 共有をフォルダから削除するには、次の手順を実行します。

1. ファイルマネージャの中でフォルダを右クリックし、「共有」→「追加のクライアントと共有します」の順に選択します。「共有」ダイアログが表示されます。
2. 「削除」ボタンをクリックします。成功または失敗を示すメッセージがダイアログに表示されます。

デスクトップの使用方法

Nautilus ファイルマネージャは、デスクトップを管理します。この章は、Nautilus デスクトップの使用方法について説明します。

- 147 ページの「デスクトップの概要」
- 148 ページの「デスクトップオブジェクト」
- 154 ページの「デスクトップでのごみ箱の使用方法」
- 155 ページの「「デスクトップ」メニューの使用方法」
- 156 ページの「デスクトップのパターンまたは色の変更」

デスクトップの概要

デスクトップは、デスクトップ上に表示される、ほかのすべてのコンポーネントの背後にあります。デスクトップは、ユーザインタフェースのアクティブコンポーネントです。デスクトップから、次の作業を実行できます。

- アプリケーションを起動し、ファイルおよびフォルダを開く
デスクトップオブジェクトを追加すると、頻繁に使用するファイル、フォルダ、またはアプリケーションにアクセスしやすくなります。たとえば、デスクトップにアプリケーションランチャーを追加できます。頻繁に使用するファイルにシンボリックリンクを作成し、このリンクをデスクトップに追加できます。ファイルおよびフォルダをデスクトップに格納することもできます。
- 「デスクトップ」メニューを開く
デスクトップで右クリックし、「デスクトップ」メニューを開きます。「デスクトップ」メニューを使用して、デスクトップ上で操作を実行できます。
- ごみ箱の使用
オブジェクトをごみ箱に移動したり、ごみ箱を空にしたりできます。
- デスクトップのカスタマイズ
デスクトップのパターンまたは色をカスタマイズできます。

デスクトップオブジェクト

デスクトップオブジェクトは、デスクトップ上のアイコンで、ファイル、フォルダ、およびアプリケーションを開くときに使用します。デフォルトでは、デスクトップに3つのオブジェクトがあります。デスクトップにオブジェクトを追加すると、頻繁に使用するファイル、フォルダ、アプリケーション、およびURIにアクセスしやすくなります。たとえば、デスクトップにランチャーを追加して、頻繁に使用する特定のアプリケーションを開くことができます。

表 8-1 で、デスクトップに追加できるオブジェクトのタイプを説明します。

表 8-1 デスクトップオブジェクトのタイプ

オブジェクトタイプ	説明
シンボリックリンク	シンボリックリンクとは、別のファイルまたはフォルダを指すオブジェクトのこと。デスクトップでシンボリックリンクを選択すると、そのシンボリックリンクが指すファイルまたはフォルダが開く。シンボリックリンクは、デスクトップに移動またはコピーできる シンボリックリンクは、デフォルトの矢印エンブレム (すべてのシンボリックリンクに表示) によって識別できる
ランチャー	以下のタイプのランチャーをデスクトップに追加できる ■ アプリケーション: 特定のアプリケーションを起動する ■ リンク: 特定のファイル、フォルダ、または URI にリンクする
ファイル	デスクトップにファイルを追加できる。デスクトップ上のファイルはデスクトップディレクトリに存在する
フォルダ	デスクトップにフォルダを移動したり、フォルダを作成したりすることができる。デスクトップ上のフォルダは、デスクトップディレクトリに存在する

以降の節では、デスクトップでのオブジェクトの操作方法について説明します。

デスクトップ上のオブジェクトを選択する

デスクトップ上のオブジェクトを選択するには、そのオブジェクトをクリックします。複数のオブジェクトを選択する場合は、`Ctrl` キーを押したままで、選択するオブジェクトをクリックします。

デスクトップで範囲を選択することで、その範囲内のすべてのオブジェクトを選択することもできます。デスクトップ上でクリックしたまま、選択するオブジェクトが含まれる領域をドラッグします。クリックしたままでドラッグすると、選択する領域に長方形が表示されます。

複数の範囲を選択するには、Ctrl キーを押したままで、選択する範囲でドラッグします。

デスクトップからオブジェクトを開く

デスクトップオブジェクトを開くには、そのオブジェクトをダブルクリックします。または、オブジェクトを右クリックして、「開く」を選択します。オブジェクトを開くと、そのオブジェクトのデフォルトのアクションが実行されます。たとえば、オブジェクトがテキストファイルの場合、そのテキストファイルはファイルマネージャウィンドウで開かれます。ファイルタイプ別のデフォルトのアクションは、ファイルの関連付け設定ツールで指定されます。

オブジェクトのデフォルトのアクション以外のアクションを実行するには、オブジェクトを右クリックして、「他のもので開く」を選択します。「他のもので開く」サブメニューからアクションを選択します。

「他のもので開く」サブメニュー内の項目は、ファイルの関連付け設定ツールの次の部分の内容と一致します。

- 「ファイルタイプを編集」ダイアログの「デフォルトのアクション」ドロップダウンリスト
- 「ファイルタイプを編集」ダイアログの「ビューアコンポーネント」ドロップダウンリスト

ファイルマネージャウィンドウで設定することにより、ファイルを1度クリックするだけでデフォルトの操作を実行できます。

デスクトップにランチャーを追加する

デスクトップランチャーは、アプリケーションを起動したり、特定のファイル、フォルダ、FTP サイト、または URI にリンクすることができます。

デスクトップにランチャーを追加するには、次の手順を実行します。

1. デスクトップで右クリックして、「新規ランチャー」を選択します。「ランチャーの作成」ダイアログが表示されます。
2. ランチャーのプロパティを「ランチャーの作成」ダイアログに入力する方法については、「パネルの操作」を参照してください。ランチャー用に入力したコマンドは、デスクトップオブジェクトを使用したときに実行されるコマンドになります。

デスクトップにシンボリックリンクを追加する

デスクトップにシンボリックリンクを作成して、次の操作を実行できます。

- 特定のアプリケーションで特定のファイルを開く
- ファイルマネージャウィンドウで特定のフォルダを開く
- バイナリファイルまたはスクリプトを実行する

デスクトップでシンボリックリンクを作成するには、次の手順を実行します。

1. シンボリックリンクを作成するファイルまたはフォルダをファイルマネージャウィンドウに表示します。
2. そのファイルまたはフォルダのシンボリックリンクを作成します。ファイルまたはフォルダのシンボリックリンクを作成するには、リンクを作成するファイルまたはフォルダを選択します。「編集」→「リンクを作成」を選択します。ファイルまたはフォルダのリンクが、現在のフォルダに追加されます。シンボリックリンクは、デフォルトの矢印エンブレム (すべてのシンボリックリンクに表示) によって識別できます。次の図に、ファイルのシンボリックリンクを示します。



3. デスクトップにシンボリックリンクをドラッグします。オブジェクトのアイコンがデスクトップに移動します。

デスクトップへのファイルまたはフォルダの追加

以降の節では、デスクトップにファイルオブジェクトおよびフォルダオブジェクトを追加する方法について説明します。

ファイルまたはフォルダをデスクトップに移動する

ファイルまたはフォルダを ファイルマネージャからデスクトップへ移動できます。ファイルまたはフォルダをデスクトップに移動するには、次の手順を実行します。

1. ファイルマネージャウィンドウを開きます。
2. 表示区画で、移動するファイルまたはフォルダを表示します。
3. ファイルまたはフォルダをデスクトップヘドラッグします。ファイルまたはフォルダのアイコンがデスクトップに移動します。ファイルまたはフォルダは、デスクトップディレクトリに移動します。

別の方法として、ファイルまたはフォルダを選択し、「編集」→「ファイルの切り取り」を選択します。任意のデスクトップオブジェクトを右クリックして、「ファイルの貼り付け」を選択します。

ファイルまたはフォルダをデスクトップにコピーする

ファイルまたはフォルダを ファイルマネージャからデスクトップへコピーできます。ファイルまたはフォルダをデスクトップに複写するには、次の手順を実行します。

1. ファイルマネージャウィンドウを開きます。
2. 表示区画で、移動するファイルまたはフォルダを表示します。
3. **Ctrl** キーを押したままで、ファイルまたはフォルダをデスクトップにドラッグします。ファイルまたはフォルダのアイコンが、デスクトップに追加されます。ファイルまたはフォルダは、デスクトップディレクトリにコピーされます。

別の方法として、ファイルまたはフォルダを選択し、「編集」→「ファイルのコピー」を選択します。任意のデスクトップオブジェクトを右クリックして、「ファイルの貼り付け」を選択します。

フォルダオブジェクトをデスクトップに作成する

フォルダオブジェクトを作成するには、デスクトップで右クリックして、「デスクトップ」メニューを開きます。「新規フォルダ」を選択します。「未タイトル」のフォルダがデスクトップに追加されます。新しいフォルダの名前を入力して、**Return** キーを押します。フォルダが、新しい名前で表示されます。新しいフォルダは、デスクトップディレクトリに作成されます。

デスクトップオブジェクトの名前を変更する

デスクトップオブジェクトの名前を変更するには、オブジェクトを右クリックし、「名前の変更」を選択します。デスクトップオブジェクトの名前が強調表示されます。オブジェクトの新しい名前を入力し、**Return** キーを押します。

デスクトップからオブジェクトを取り除く

オブジェクトをデスクトップから取り除くには、そのオブジェクトを右クリックして、「ごみ箱へ移動」を選択します。または、オブジェクトをごみ箱にドラッグします。

注 - ファイルまたはフォルダをリムーバブルメディアからごみ箱に移動すると、そのファイルまたはフォルダはリムーバブルメディアの **ごみ箱** に保存されます。リムーバブルメディアからファイルまたはフォルダを完全に削除するには、**ごみ箱** を空にします。

デスクトップからオブジェクトを削除する

デスクトップからオブジェクトを削除すると、そのオブジェクトはごみ箱に移動せず、ただちにデスクトップから削除されます。「削除」メニュー項目は、Nautilus「フォルダオプション」ダイアログで「ごみ箱を経由しない削除コマンドを含める」オプションを選択した場合にのみ利用可能です。

オブジェクトをデスクトップから削除するには、そのオブジェクトを右クリックして、「削除」を選択します。

注 - ホームとごみ箱デスクトップオブジェクトは、削除できません。

デスクトップオブジェクトのプロパティを表示する

デスクトップオブジェクトのプロパティを表示するには、次の手順を実行します。

1. プロパティを表示するオブジェクトを右クリックし、「プロパティ」を選択します。「プロパティ」ダイアログが表示されます。
2. 「プロパティ」ダイアログで、デスクトップオブジェクトのプロパティを表示します。
3. 「閉じる」をクリックして、「プロパティ」ダイアログを閉じます。

デスクトップオブジェクトのパーミッションを変更する

デスクトップオブジェクトのパーミッションを変更するには、次の手順を実行します。

1. パーミッションを変更するオブジェクトを右クリックし、「プロパティ」を選択します。「プロパティ」ダイアログが表示されます。
2. 「アクセス権」タブをクリックして、「アクセス権」タブセクションを表示します。

3. 「アクセス権」タブセクションのドロップダウンリストとチェックボックスで、ファイルまたはフォルダのパーミッションを変更します。「アクセス権」タブセクションのダイアログ要素の詳細は、「*Nautilus* ファイルマネージャ」を参照してください。
4. 「閉じる」をクリックして、「プロパティ」ダイアログを閉じます。

エンブレムをデスクトップオブジェクトに追加する

デスクトップオブジェクトにエンブレムを追加するには、次の手順を実行します。

1. エンブレムを追加するオブジェクトを右クリックし、「プロパティ」を選択します。「プロパティ」ダイアログが表示されます。
2. 「エンブレム」タブをクリックして、「エンブレム」タブセクションを表示します。
3. 項目に追加するエンブレムを選択します。
4. 「閉じる」をクリックして、「プロパティ」ダイアログを閉じます。

ノートをデスクトップオブジェクトに追加する

デスクトップオブジェクトにノートを追加するには、次の手順を実行します。

1. ノートを追加するオブジェクトを選択します。
2. 「ファイル」→「プロパティ」を選択します。「プロパティ」ダイアログが表示されます。
3. 「ノート」タブをクリックし、「ノート」タブセクションでノートを入力します。
4. 「閉じる」をクリックして、「プロパティ」ダイアログを閉じます。ノートエンブレムがデスクトップオブジェクトに追加されます。

ノートを削除するには、「ノート」タブセクションからノートテキストを削除します。

デスクトップオブジェクトのアイコンを変更する

デスクトップオブジェクトのアイコンを変更するには、次の手順を実行します。

1. パーミッションを変更するオブジェクトを右クリックし、「プロパティ」を選択します。「プロパティ」ダイアログが表示されます。
2. 「基本」タブセクションで、「カスタムアイコンの選択」ボタンをクリックします。「アイコンを選択」ダイアログが表示されます。
3. 「アイコンを選択」ダイアログを使用して、ファイルまたはフォルダを表すアイコンを選びます。

4. 「閉じる」をクリックして、「プロパティ」ダイアログを閉じます。

カスタムアイコンから ファイルタイプとプログラム設定ツールで指定したデフォルトのアイコンに戻すには、アイコンを右クリックして、「カスタムアイコンを削除」を選択します。または、「設定」ダイアログの「カスタムアイコンを削除」ボタンをクリックします。

デスクトップオブジェクトアイコンのサイズ変更

デスクトップオブジェクトを表すアイコンのサイズを変更できます。デスクトップ上のアイコンのサイズを変更するには、次の手順を実行します。

1. サイズを変更するアイコンのデスクトップオブジェクトを右クリックし、「アイコンを伸縮」を選択します。アイコンのまわりに、各コーナーにハンドルのある長方形が表示されます。
2. ハンドルの1つをグラブして、希望するサイズまでアイコンをドラッグします。
アイコンを元のサイズに戻すには、そのアイコンを右クリックして「アイコンの元のサイズに復元」を選択します。

デスクトップでのごみ箱の使用方法

以下の項目は、ごみ箱に移動できます。

- ファイル
- フォルダ
- デスクトップオブジェクト

ごみ箱からファイルを取り出す場合は、ごみ箱の内容を表示して、ファイルをごみ箱から移動できます。ごみ箱を空にした場合は、ごみ箱内の項目は永久に削除されます。

ごみ箱を表示する

ごみ箱の内容は、次の方法で表示できます。

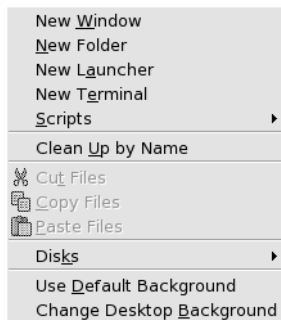
- デスクトップ
デスクトップのごみ箱オブジェクトをダブルクリックします。ごみ箱の内容が Nautilus ウィンドウに表示されます。
- ファイルマネージャウィンドウから
「移動」→「ごみ箱」を選択します。ごみ箱の内容がウィンドウに表示されます。

ごみ箱を空にする

ごみ箱の内容は、次の方法で空にできます。

- デスクトップ
ごみ箱オブジェクトを右クリックして、「ごみ箱を空にする」を選択する
- ファイルマネージャウィンドウから
「ファイル」→「ごみ箱を空にする」を選択します。

「デスクトップ」メニューの使用方法



「デスクトップ」メニューを開くには、デスクトップ上の空いているスペースで右クリックします。「デスクトップ」メニューを使用して、デスクトップ上で操作を実行できます。

表 8-2 に、「デスクトップ」メニューの項目を示します。

表 8-2 「デスクトップ」メニューの項目

メニュー項目	機能
「新規ウィンドウ」	ホームの位置を表示する新しいファイルマネージャウィンドウを開く
「新規フォルダ」	デスクトップの上に新しいフォルダオブジェクトを作成する。フォルダは、デスクトップディレクトリに作成される
「新規端末」	GNOME 端末を起動する

表 8-2 「デスクトップ」メニューの項目 (続き)

メニュー項目	機能
「新規ランチャー」	デスクトップにランチャーを作成する。詳細については、149 ページの「デスクトップにランチャーを追加する」を参照
「スクリプト」	実行できるスクリプトのサブメニューを開く
「名前順に整理」	デスクトップ上のオブジェクトを、名前のアルファベット順に整理する
「ファイルの切り取り」	フォルダまたはデスクトップから、選択した 1 つまたは複数のファイルを削除し、そのファイルをバッファに入れる
「ファイルのコピー」	フォルダまたはデスクトップから、選択した 1 つまたは複数のファイルをコピーし、そのファイルをバッファに入れる
「ファイルの貼り付け」	バッファ内の 1 つまたは複数のファイルを、選択したフォルダまたはデスクトップに置く
「ディスク」	フロッピーディスクおよびほかのリムーバブルメディアをマウントできる
「デフォルトの背景を使用」	「背景とエンブレム」ダイアログで最後に選んだパターンにデスクトップの背景を戻す。「背景とエンブレム」ダイアログには、Nautilus ウィンドウからアクセスできる
「デスクトップの背景の変更」	デスクトップの背景設定ツールを起動して、デスクトップの背景を変更できる

デスクトップのパターンまたは色の変更

ユーザー環境に応じて、デスクトップ背景のパターンまたは色を変更できます。ファイルマネージャには、デスクトップ背景の概観と雰囲気を変更するために使用できる背景パターンと色が含まれています。

デスクトップ背景のパターンまたは色は、次の方法を使用して変更できます。

- 別のウィンドウまたはダイアログのパターンまたは色を、デスクトップにドラッグする

デスクトップ背景が色の場合、デスクトップ背景色にグラデーション効果を用いることができます。グラデーション効果とは、ある色が別の色に徐々にブレンドされる視覚的効果のことです。デスクトップ背景にグラデーション効果を作成するには、画面の縁の 1 つに色をドラッグします。その色は、ドラッグを開始した縁から画面反対側の縁まで調和されます。

画面の縁にエッジパネルがないかどうかを確認してから、色を画面の縁にドラッグしてください。画面の縁にエッジパネルがある場合、そのパネルを隠してから色をドラッグする必要があります。

- デスクトップ背景設定ツールを使用する
- 「背景とエンブレム」ダイアログから、背景のパターンまたは色を選択する。デスクトップ背景のパターンまたは色を変更するには、次の手順を実行する。
 1. ファイルマネージャウィンドウを開きます。
 2. 「編集」→「背景とエンブレム」を選択します。「背景とエンブレム」ダイアログが表示されます。
 3. 背景に使用できるパターンのリストを表示するには、「パターン」ボタンをクリックします。背景に使用できる色のリストを表示するには、「色」ボタンをクリックします。
 4. デスクトップ背景をパターンに変更するには、そのパターンをデスクトップ背景にドラッグします。デスクトップ背景を色に変更するには、その色をデスクトップ背景にドラッグします。
 5. 「閉じる」をクリックして、ダイアログを閉じます。

GNOME デスクトップのカスタマイズ

GNOME デスクトップの特性のほとんどは、カスタマイズすることができます。GNOME デスクトップの各要素のカスタマイズは、デスクトップ設定ツールと呼ばれる専用のソフトウェアツールによって制御されます。この節では、GNOME デスクトップの設定方法に関する以下の章について説明します。

- 設定ツールの起動

GNOME デスクトップ内の設定ツールを起動する方法については、この章をお読みください。

- 設定ツールの使用

設定ツールを使って GNOME デスクトップをカスタマイズする方法については、この章をお読みください。この章は、各設定ツールのオプションすべてを説明します。

第 9 章

設定ツールの起動

この章では、設定ツールの起動方法および GNOME デスクトップメニュー構造の中の設定ツールの位置について説明します。

- 161 ページの「設定ツールの起動」
- 161 ページの「設定ツールの場所」

設定ツールの起動

設定ツールは、次のいずれかの方法で起動できます。

- 「設定」をメインメニューから選択します。サブメニューから必要なツールを選びます。
- デスクトップの「このコンピュータ」オブジェクトをダブルクリックする。ファイルマネージャウィンドウが「このコンピュータ」で開きます。ファイルマネージャウィンドウ内の「設定」オブジェクトをダブルクリックし、設定ツールを表示します。必要なツールをダブルクリックします。

設定ツールの場所

表 9-1 に、GNOME デスクトップの設定ツールとメニュー構造の中の設定ツールの位置を示します。

表 9-1 GNOME デスクトップメニュー構造内の設定ツールの位置

設定ツール	メニューパス
背景の設定	「設定」 → 「表示」 → 「背景」
CD データベース	「設定」 → 「拡張設定」 → 「CD データベースサーバー」
CD 装置のオプション	「設定」 → 「拡張設定」 → 「CD デバイスオプション」
ファイルの関連づけ	「設定」 → 「拡張設定」 → 「ファイルの関連付け」
フォルダオプション	「設定」 → 「フォルダ」
フォント	「設定」 → 「表示」 → 「フォント」
インターネット	「設定」 → 「インターネット」
Java	「設定」 → 「Java」
キーボードのアクセシビリティ	「設定」 → 「キーボード」 → 「キーボード」
キーボードの動作	「設定」 → 「キーボード」 → 「動作」
キーボードのレイアウト	「設定」 → 「キーボード」 → 「レイアウト」
メニューとツールバー	「設定」 → 「表示」 → 「メニューとツールバー」
マウス	「設定」 → 「マウス」
マルチメディアキー	「設定」 → 「キーボード」 → 「マルチメディアキー」
パネルの設定	「設定」 → 「拡張設定」 → 「パネル」
パスワード	「設定」 → 「パスワード」
PDA デバイス	「設定」 → 「PDA デバイス」
優先するアプリケーション	「設定」 → 「拡張設定」 → 「優先するアプリケーション」
プリンタ	「設定」 → 「プリンタ」
リモートデスクトップの設定	「設定」 → 「リモートデスクトップ」
画面解像度の設定	「設定」 → 「表示」 → 「画面の解像度」
スクリーンセーバーの設定	「設定」 → 「表示」 → 「スクリーンセーバー」
セッション	「設定」 → 「拡張設定」 → 「セッション」
ショートカット	「設定」 → 「キーボード」 → 「ショートカット」

表 9-1 GNOME デスクトップメニュー構造内の設定ツールの位置 (続き)

設定ツール	メニューパス
サウンドの設定	「設定」 → 「サウンド」
システム	「設定」 → 「システム」
テーマ	「設定」 → 「表示」 → 「テーマ」
ウィンドウ	「設定」 → 「表示」 → 「ウィンドウの動作」

第 10 章

設定ツールの使用

この章では、設定ツールを使用した、GNOME デスクトップのカスタマイズ方法について説明します。

- 166 ページの「デスクトップ背景のカスタマイズ」
- 167 ページの「CD データベースの構成」
- 168 ページの「CD デバイスオプションのカスタマイズ」
- 169 ページの「ファイルの関連付け」
- 172 ページの「ファイル管理の設定」
- 172 ページの「デフォルトのフォントの選択」
- 174 ページの「インターネット接続の設定」
- 175 ページの「キーボードアクセシビリティオプションの構成」
- 178 ページの「キーボード設定の設定」
- 179 ページの「「キーボードレイアウト」の構成」
- 180 ページの「アプリケーションのメニューおよびツールバーのカスタマイズ」
- 180 ページの「マウス設定の設定」
- 182 ページの「マルチメディアキーの設定」
- 182 ページの「パネルのカスタマイズ」
- 183 ページの「パスワードの変更方法」
- 183 ページの「優先するアプリケーションの選択」
- 186 ページの「画面解像度の設定」
- 186 ページの「スクリーンセーバーの設定」
- 189 ページの「セッションの構成」
- 192 ページの「キーボードショートカットのカスタマイズ」
- 193 ページの「プリンタの設定」
- 193 ページの「セッション共有の設定」
- 194 ページの「サウンドの設定」
- 196 ページの「テーマのカスタマイズ」
- 199 ページの「ウィンドウのカスタマイズ」

デスクトップ背景のカスタマイズ

デスクトップ背景とは、デスクトップに適用する画像や色のことです。デスクトップ背景は、次の方法でカスタマイズできます。

- デスクトップ背景の画像を選択する。画像は、デスクトップ背景色上に重ねられる。デスクトップ背景色は、透明な画像を選ぶか、その画像がデスクトップ全体を覆わなければ見ることができる
- デスクトップ背景の色を選択する。塗りつぶしの色を選択することも、2色でグラデーション効果を作成することもできる。グラデーション効果とは、ある色が別の色に徐々にブレンドされる視覚的効果のことです。

デスクトップ背景の外観は、Nautilus ファイルマネージャ内から変更することもできます。

表 10-1 に、変更可能な背景設定を示します。

表 10-1 デスクトップ背景の設定

ダイアログ要素	説明
「画像の選択」	デスクトップに表示する画像を選択する。画像を選択するには、「画像の選択」ボタンをクリックする。「画像の選択」ダイアログが表示される。ダイアログを使用して、画像を選択する。画像を選択して、「了解」をクリックする
「画像オプション」	画像を表示する方法を指定するには、次のいずれかのオプションを選択する ■ 「壁紙」: デスクトップを覆うように、画像を繰り返し表示する ■ 「中央」: デスクトップの中央に画像を表示する ■ 「拡大縮小」: 画面のエッジまで画像を拡大し、その画像の相対寸法を維持する ■ 「引き延ばし」: デスクトップを覆うように画像を拡大し、その画像の相対寸法は維持しない ■ 「画像なし」: 画像を表示しない

表 10-1 デスクトップ背景の設定 (続き)

ダイアログ要素	説明
「背景スタイル」	カラースキームを指定するには、「背景スタイル」ドロップダウンリストのオプションと、「色の選択」ボタンを使用する カラースキームは、次のいずれかの方法で指定できる ■ 「背景スタイル」ドロップダウンリストから、「単色」を選択して、デスクトップ背景に単一色を指定する 希望する色を選ぶには、「色」ボタンをクリックする。「色の選定」ダイアログが表示される。色を選んで、「了解」をクリックする ■ 「背景スタイル」ドロップダウンリストから、「水平方向のグラデーション」を選択する。このオプションは、画面のレフトエッジから画面のライトエッジへ、グラデーション効果を作成する 「左側の色」ボタンをクリックして、「色の選択」ダイアログを表示する。レフトエッジに表示する色を選ぶ 「右側の色」ボタンをクリックする。ライトエッジに表示する色を選ぶ ■ 「背景スタイル」ドロップダウンリストから、「垂直方向のグラデーション」を選択する。このオプションは、画面のトップエッジから画面のボトムエッジへ、グラデーション効果を作成する 「上側の色」ボタンをクリックして、「色の選択」ダイアログを表示する。トップエッジに表示する色を選ぶ 「下側の色」ボタンをクリックする。ボトムエッジに表示する色を選ぶ

CD データベースの構成

CD データベース設定ツールでは、システムが照会可能な CD データベースを構成できます。CD データベースには、アーティスト名、曲名、および収録曲など、CD に関する情報が含まれています。アプリケーションが CD を再生すると、アプリケーションは CD データベースを照会して、情報を表示します。

表 10-2 で、CD データベース環境設定ツールのそれぞれの設定を説明します。

表 10-2 CD データベースの設定

ダイアログ要素	説明
「何も情報を送信しない」	CD データベースサーバーに情報を送信しない

表 10-2 CD データベースの設定 (続き)

ダイアログ要素	説明
「実際の情報を送信」	ユーザー名とホスト名の情報を CD データベースサーバーに送信する
「他の情報を送信」	ほかの名前およびホスト名の情報を CD データベースサーバーに送信する。「名前」フィールドに名前を入力し、「ホスト名」フィールドにホスト名を入力する
「FreeDB ラウンドロビンサーバー」	FreeDB は CD データベース。FreeDB ラウンドロビンサーバーは、FreeDB サーバーの負荷分散構成になる。このサーバーから FreeDB CD データベースにアクセスする
「他の FreeDB サーバー」	別のサーバーから FreeDB CD データベースにアクセスする場合はこのオプションを選択する。必要なサーバーをサーバー表から選択する
「サーバーリストを更新」	サーバー表内の利用可能な FreeDB サーバーのリストを更新する
「他のサーバー」	ほかの CD データベースを使用する。データベースが存在するサーバーの名前を「ホスト名」フィールドに入力する。データベースにアクセスできるポート番号を「ポート」フィールドに入力する

CD デバイスオプションのカスタマイズ

CD デバイスオプション環境設定ツールを使用することによって、システム上の CD デバイスのオプションを構成できます。「CD デバイスオプション」ダイアログでは、次のデバイスのオプションを構成できます。

- データ CD
- オーディオ CD
- 空の CD
- DVD (ビデオ)

表 10-3 で、CD デバイスオプション環境設定ツールのそれぞれの設定を説明します。

表 10-3 CD デバイスの設定

ダイアログ要素	説明
「挿入された CD をマウントする」	CD のファイルシステムをマウントする場合は、このオプションを選択する

表 10-3 CD デバイスの設定 (続き)

ダイアログ要素	「説明」
「新しくマウントされた CD に対して自動実行プログラムを開始する」	新しくマウントしたデータ CD に対して自動実行プログラムを自動的に起動する場合は、このオプションを選択する
「新しくマウントされた CD のファイルマネージャウィンドウを開く」	新しくマウントしたデータ CD に対してファイルマネージャを開く場合は、このオプションを選択する
「 CD が挿入されたときにコマンドを実行する」	CD を挿入した後にコマンドを実行する場合は、このオプションを選択する。CD を挿入したら、実行するコマンドを「コマンド」フィールドに入力する。あるいは、以前に入力したコマンドを選ぶには、下矢印ボタンをクリックして、実行するコマンドを選ぶ 「参照」ボタンを使用して、実行するコマンドを選択することもできる
「空の CD が挿入されたときにコマンドを実行する」	空の CD を挿入した後にコマンドを実行する場合は、このオプションを選択する。空の CD を挿入したら、実行するコマンドを「コマンド」フィールドに入力する
「 DVD (ビデオ) が挿入されたときにコマンドを実行する」	DVD を挿入した後にコマンドを実行する場合は、このオプションを選択する。DVD を挿入したら、実行するコマンドを「コマンド」フィールドに入力する

ファイルの関連付け

以下の設定を行うには、ファイルの関連付け設定ツールを使用します。

ファイルタイプ 各種ファイルタイプの表示方法と編集方法を指定できます。たとえば、特定のファイルタイプを表すアイコンを指定できます。また、ファイルがプレーンテキストファイルの場合、そのファイルをテキストエディタで起動するようにも指定できます。

ファイルマネージャなどの GNOME アプリケーションは、ファイルの内容を確認して、ファイルタイプを判断します。最初の行でファイルタイプを判別できない場合、アプリケーションはファイル名を確認します。

サービス URI (*Uniform Resource Identifier*) は、ファイルシステム内または Web 上の特定の場所を識別する文字列です。たとえば、Web ページのアドレスが URI です。サービスは、URI が要求するプロトコ

ルまたはタスクです。たとえば、`http://www.gnome.org` という URI は、`http` サービスを要求しています。

アプリケーションをサービスと関連付けて、そのアプリケーションでサービスが要求するタスクを実行するように設定できます。たとえば、お気に入りのブラウザを `http` サービスに関連付けることが可能です。

表 10-4では、ファイルの関連付け設定ツールの要素について説明します。

表 10-4 ファイルの関連付け設定ツールの要素

要素	説明
表	ファイルタイプのカテゴリの内容を表示するには、カテゴリ名の横にある右矢印をクリックする。カテゴリが開き、各ファイルタイプの説明と、そのファイルタイプに関連付けられるファイル拡張子が表示される 操作するファイルタイプを選択するには、そのファイルをクリックする
「ファイルタイプを追加」	ファイルタイプを追加する。詳細については、170 ページの「ファイルタイプを追加する」を参照
「サービスを追加」	サービスを追加する。詳細については、171 ページの「サービスを追加する」を参照
「編集」	ファイルタイプ、サービス、またはファイルタイプのカテゴリを編集するには、編集対象の項目を選択して、「編集」をクリックする
「削除」	ファイルタイプまたはサービスを削除するには、削除対象の項目を選択して、「削除」をクリックする

ファイルタイプを追加する

ファイルタイプを追加するには、次の手順を実行します。

1. 「ファイルの関連付け」設定ファイルを起動します。
2. 「ファイルタイプを追加」ボタンをクリックします。「ファイルタイプを追加」ダイアログが表示されます。
3. ダイアログにファイルタイプのプロパティを入力します。以下の表に、「ファイルタイプを追加」ダイアログのダイアログ要素を示します。

ダイアログ要素	「説明」
「アイコンなし」	ファイルタイプを表すアイコンを選択する。アイコンを選択するには、「アイコンなし」ボタンをクリックする。「アイコンを選択」ダイアログが表示される。ダイアログからアイコンを選択する。別のディレクトリにあるアイコンを選択するには、「参照」をクリックする。アイコンを選択したら「OK」をクリックする
「説明」	ファイルタイプの説明を入力する
「MIME タイプ」	このタイプのファイルの MIME タイプを入力する
「カテゴリ」	この設定ツール内でファイルタイプが属するカテゴリを入力する。「選択」をクリックして、「ファイルカテゴリを選択」ダイアログからカテゴリを選択する
「ファイル名の拡張子」	ファイルタイプに関連付けるファイルの拡張子を入力する。左側のフィールドにファイル拡張子を入力し、Return キーを押す。ファイル拡張子を削除するには、右側のフィールドからファイル拡張子を選択して、「削除」ボタンをクリックする
「ビューアコンポーネント」	このタイプのファイルをファイルマネージャで表示するときに使用するビューアコンポーネントを選択する
「デフォルトのアクション」	このタイプのファイルを開くときに使用するデフォルトのアプリケーションを選択する
「実行するプログラム」	ファイルタイプに関連付けるプログラムを指定する。このフィールドに、プログラムを起動するコマンドを入力する。あるいは、以前に入力したコマンドを選ぶには、下矢印ボタンをクリックして、実行するコマンドを選ぶ 「参照」ボタンを使用して、実行するコマンドを選択することもできる
「端末で実行」	プログラムを端末で実行する。実行するウィンドウを作成しないプログラムには、このオプションを選択する

4. 「了解」をクリックします。

サービスを追加する

サービスを追加するには、次の手順を実行します。

1. 「ファイルの関連付け」設定ファイルを起動します。
2. 「サービスを追加」ボタンをクリックします。「サービスを追加」ダイアログが表示されます。
3. ダイアログにサービスのプロパティを入力します。以下の表に、「サービスを追加」ダイアログのダイアログ要素を示します。

ダイアログ要素	「説明」
「説明」	サービスの説明を入力する
「プロトコル」	サービスのプロトコルを入力する
「実行するプログラム」	将来のリリースで情報が追加
「プログラム」	サービスに関連付けるプログラムを指定する。このフィールドに、プログラムを起動するコマンドを入力する。あるいは、以前に入力したコマンドを選ぶには、下矢印ボタンをクリックして、実行するコマンドを選ぶ
	「参照」ボタンを使用して、実行するコマンドを選択することもできる
「端末で実行」	プログラムを端末で実行する。実行するウィンドウを作成しないプログラムには、このオプションを選択する

4. 「了解」をクリックします。

ファイル管理の設定

Nautilus ファイルマネージャを設定するには、フォルダオプション設定ツールを使用します。「フォルダオプション」設定ダイアログでファイルマネージャを設定することもできます。このダイアログは、ファイルマネージャアプリケーションから開きます。「フォルダオプション」設定ダイアログと フォルダオプション設定ツールの設定については、「*Nautilus* ファイルマネージャ」を参照してください。

デフォルトのフォントの選択

フォント設定ツールを使用して、アプリケーション、ウィンドウ、端末またはデスクトップで使用するフォントを選択できます。

表 10-5 に、変更可能なフォント設定を示します。

表 10-5 フォントの設定

ダイアログ要素	説明
「アプリケーションのフォント」	フォント選択ボタンをクリックして、アプリケーションで使用するフォントを選択する
「デスクトップのフォント」	フォント選択ボタンをクリックして、デスクトップのみで使用するフォントを選択する
「ウィンドウタイトルのフォント」	フォント選択ボタンをクリックして、ウィンドウのタイトルバーで使用するフォントを選択する
「端末のフォント」	フォント選択ボタンをクリックして、端末 アプリケーションで使用するフォントを選択する
「フォントの描画形式」	画面上のフォントの描画形式を指定するには、次のオプションのどれかを選択する ■ 「モノクロ」:フォントを白黒だけに加工する。文字がアンチエイリアシングされないので、文字の端がぎざぎざに見えることがある。アンチエイリアシングは、文字を滑らかに見せるために文字の端に使われる効果である ■ 「最適な形状」:可能なかぎりフォントをアンチエイリアシングする。CRT モニタにはこのオプションを使用すること ■ 「最適なコントラスト」:できるだけはっきりしたコントラストを実現するためにフォントを調節し、文字の端がなめらかになるようにフォントをアンチエイリアシングする。このオプションにより、視力の弱いユーザに対する GNOME デスクトップのアクセシビリティが拡大する ■ 「サブピクセルのスミージング (LCDs)」:LCD のピクセルのそれぞれの形を利用して、フォントを滑らかにする技術を使用。LCD またはフラットスクリーンディスプレイには、このオプションを使用すること
「詳細」	画面上のフォントの処理方法をさらに詳細に指定するには、このボタンをクリックする ■ 「解像度 (ドット/インチ)」:このスピンボックスでは、画面のフォント処理時に使われる解像度を指定する ■ 「スミージング (Smoothing)」:フォントのアンチエイリアシング方法を指定するオプションの 1 つを選択する ■ 「画面ピクセルの設定 (Hinting)」:ヒント は、小さいフォントや解像度の低い画面のフォントの質を改善するフォント処理技術。フォントをヒント処理する方法を指定するオプションの 1 つを選択する ■ 「サブピクセルの順番」:フォントのサブピクセルの色の順番を指定するオプションの 1 つを選択する。LCD またはフラットスクリーンディスプレイには、このオプションを使用すること

フォントのプレビュー

ファイルマネージャを使用して、フォントのプレビューを表示できます。フォントのプレビューを表示するには、次の手順を実行します。

1. ファイルマネージャウィンドウを開きます。
2. URI `fonts:///` をロケーションバーに入力します。フォントは表示区画にアイコンとして表示されます。
3. アイコンをダブルクリックして、フォントのプレビューを表示します。

インターネット接続の設定

「インターネット」設定ツールを使用すると、システムのインターネットへの接続方法を構成することができます。GNOME デスクトップをプロキシサーバーに接続するように構成して、プロキシサーバーの詳細を指定することができます。プロキシサーバーとは、別のサーバーへの要求を傍受して、可能な場合に、その要求をこのプロキシサーバー自体が実行するサーバーのことです。プロキシサーバーのドメインネームサービス (DNS) の名前か、インターネットプロトコル (IP) アドレスを入力できます。DNS 名は、ネットワーク上のコンピュータに固有のアルファベットで表される識別子です。IP アドレスは、ネットワーク上のコンピュータに固有の数字で表される識別子です。

表 10-6 に、変更可能なインターネット接続設定を示します。

表 10-6 インターネット接続の設定

ダイアログ要素	「説明」
「直接インターネットに接続する」	プロキシサーバーを使わずに直接インターネットに接続する
「マニュアルでプロキシの設定を行う」	プロキシサーバーを通してインターネットに接続し、プロキシサーバーを手動で構成する
「HTTP プロキシ」	HTTP サービスを要求するときに使用するプロキシサーバーの DNS 名または IP アドレスを入力する。プロキシサーバー上の HTTP サービスのポート番号を「ポート」スピンボックスに入力する
「SSL プロキシ」	Secure HTTP サービスを要求するときに使用するプロキシサーバーの DNS 名または IP アドレスを入力する。プロキシサーバー上の Secure HTTP サービスのポート番号を「ポート」スピンボックスに入力する

表 10-6 インターネット接続の設定 (続き)

ダイアログ要素	「説明」
「FTP プロキシ」	FTP サービスを要求するときに使用するプロキシサーバーの DNS 名または IP アドレスを入力する。プロキシサーバー上の FTP サービスのポート番号を「ポート」スピニングボックスに入力する
「SOCKS ホスト」	使用する Socks ホストの DNS 名または IP アドレスを入力する。プロキシサーバー上の Socks プロトコルのポート番号を「ポート」スピニングボックスに入力する
「自動的にプロキシの設定を行う」	プロキシサーバーを通してインターネットに接続し、プロキシサーバーを自動で構成する
「自動構成する URL」	プロキシサーバーを自動構成するために必要な情報が保存されている URL を入力する

キーボードアクセシビリティオプションの構成

キーボードアクセシビリティ設定ツールを使用して、キーボードのアクセシビリティ設定を設定します。キーボードアクセシビリティ設定ツールは、AccessX として知られています。

キーボードのアクセシビリティ設定を次の機能分野ごとにカスタマイズできます。

- 基本
- フィルタ
- マウス

基本設定

表 10-7 に、変更可能なキーボードの基本アクセシビリティ設定を示します。

表 10-7 キーボードアクセシビリティの設定

ダイアログ要素	「説明」
「キーボードアクセシビリティ機能を有効にする」	キーボードのアクセシビリティ機能を有効にする。このオプションを選択すると、設定ツールのほかのオプションも利用可能になる

表 10-7 キーボードアクセシビリティの設定 (続き)

ダイアログ要素	説明
「未使用の場合は無効にする時間」	一定時間キーボードが使用されないと、キーボードアクセシビリティ設定が無効にする。スライダを使用して、キーボードアクセシビリティ設定が無効になるまでのキーボードのアイドル時間を秒数で指定する。指定した秒数が経過すると、以下のキーボードアクセシビリティ設定が無効になる ■ バウンスキー ■ マウスキー ■ スローキー ■ スティックキー ■ トグルキー
「キーボードで機能を変更したときにピーブ音を鳴らす」	スティックキーまたはスローキーなどの機能が有効または無効になると、音で示す
「設定の取り込み」	このボタンをクリックすると、AccessX構成ファイルをインポートする
「スティックキーを有効」	順にキーを押したとき、複数のキーを同時に押す操作を実行する。あるいは、Shift キーを 5 回押すことによって、スティックキー機能を有効にできる 次のスティックキー設定を設定できる ■ 「修飾キーが押されたときにピーブ音を鳴らす」: 修飾キーを押したときに、音によって示す ■ 「同時に 2 つのキー入力を無効にする」: 2 つのキーを同時に押した場合に、それ以上続けてキーを押しても無効にする
「キーの繰り返し」	キーボードの自動繰り返し設定を有効にする次の自動繰り返し設定を設定できる ■ 「リピート間隔」: スライダまたはスピンボックスを使用して、最初にキーを押してからそのキーの自動繰り返しが行われるまでの間隔を指定する ■ 「速度」: スライダまたはスピンボックスを使用して、1 秒間に何文字入力するかを指定する
「設定内容の確認」	テスト入力領域は、入力したときに、キーボード設定がディスプレイにどのように影響するかがわかる対話型のインターフェイス。テスト入力領域にテキストを入力して、設定の影響を確認する

キーボードアクセシビリティ設定の詳細については、『GNOME 2.2 Desktop Accessibility Guide』を参照してください。

フィルタの設定

表 10-8 に、変更可能なフィルタ設定を示します。

表 10-8 フィルタの設定

ダイアログ要素	「説明」
「キーボードアクセシビリティ機能を有効にする」	キーボードのアクセシビリティ機能を有効にする。このオプションを選択すると、設定ツールのほかのオプションも利用可能になる
「スローキーを有効」	認識されるまでキーを押し続ける必要のある時間を制御する。あるいは、Shift キーを 8 秒間押し続けることによって、スローキー機能を有効にできる 次のスローキー設定を設定できる ■ 「キー入力と認識するまでの時間」:スライダまたはスピンボックスを使用して、認識されるまでキーを押し続ける必要のある時間を指定する ■ 「キーが次の状態のときにビープ音を鳴らす」:キーの押下、受付、拒否を音によって示す
「バウンスキーを有効」	キー入力を受け付けて、キーボードのキーの繰り返し特性を制御する。次のバウンスキー設定を設定できる ■ 「重複したキー入力を無効にする時間」:スライダまたはスピンボックスを使用して、最初にキーを押してからそのキーの自動繰り返しが行われるまでの間隔を指定する ■ 「キー入力が拒否された場合にビープ音を鳴らす」:キー拒否を音によって示す
「トグルキーを有効」を選択します。	トグルキーが押されたことを音によって示す。トグルキーが有効になるとビープ音が 1 回聞こえる。トグルキーが無効になると ビープ音が 2 回聞こえる
「設定内容の確認」	テスト入力領域は、入力したときに、キーボード設定がディスプレイにどのように影響するかがわかる対話型のインターフェイス。テスト入力領域にテキストを入力して、設定の影響を確認する

キーボードアクセシビリティ設定の詳細については、『GNOME 2.2 Desktop Accessibility Guide』を参照してください。

マウスの設定の変更

表 10-9 に、変更可能なマウス設定を示します。

表 10-9 マウスの設定の変更

ダイアログ要素	「説明」
「キーボードアクセシビリティ機能を有効にする」	キーボードのアクセシビリティ機能を有効にする。このオプションを選択すると、設定ツールのほかのオプションも利用可能になる

表 10-9 マウスの設定の変更 (続き)

ダイアログ要素	説明
「マウスキーを有効」	数字キーパッドがマウス操作をエミュレートする。次のマウスキー設定を設定できる ■ 「マウスポインタの最大速度」: スライダまたはスピンボックスを使用して、ポインタが画面上を移動する最大速度を指定 ■ 「最大速度まで加速するまでの時間」: スライダまたはスピンボックスを使用して、ポインタの加速時間の間隔を指定 ■ 「キー入力してからポインタが移動するまでの遅延」: スライダまたはスピンボックスを使用して、キーを押してからポインタが移動するまでの時間を指定する
「マウスの設定」	マウス設定ツールを開く

キーボードアクセシビリティ設定の詳細については、『GNOME 2.2 Desktop Accessibility Guide』を参照してください。

キーボード設定の設定

キーボード動作設定ツールを使用してキーボードの自動繰り返し設定を変更したり、キーボードのサウンド設定を変更したりします。

次の機能領域内では、キーボード設定ツールの設定を設定できます。

- 「キーボード」
- 「サウンド」

キーボードの設定の変更

「キーボード」タブセクションを使用して、一般的なキーボードの環境を設定します。キーボードのアクセシビリティ設定ツールであるAccessX を起動するには、「アクセシビリティ」ボタンをクリックします。

表 10-10 に、変更可能なキーボード設定を示します。

表 10-10 キーボードの設定の変更

ダイアログ要素	説明
「キーが押されているときのキーボードリピートを有効」	キーボードの繰り返しを有効にする。キーボードの繰り返しが有効な場合、キーを押したままにすると、そのキーと関連付けられる操作が繰り返し実行される。たとえば、文字キーを押したままにすると、その文字が繰り返し入力される
「遅延」	キーを押したときから、操作が繰り返されるまでの遅延を指定する
「速度」	操作が繰り返される速度を指定する
「テキストボックスやフィールド内で点滅」	フィールドおよびテキストボックスでカーソルを点滅させる
「速度」	スライダを使用して、フィールドおよびテキストボックスでのカーソルの点滅速度を指定する

サウンドの設定

「サウンド」タブセクションを使用して、キーボードサウンドの環境を設定します。

一部のアプリケーションは、キーボードの入力エラーを知らせるベルの音を鳴らします。「サウンド」タブセクションのオプションを使用して、ベル音を構成できます。表 10-11 に、キーボードの変更可能なサウンド設定を示します。

表 10-11 システムのベル設定

ダイアログ要素	説明
「オフ」	キーボードのベル音を無効にする
「ピープ音」	キーボードのベル音を有効にする

「キーボードレイアウト」の構成

「キーボードレイアウト」設定ツールは、キーボードのレイアウトを選択するために使用します。異なるロケールには、それぞれに合った複数のレイアウトを選択できます。「キーボードレイアウト」設定ツールの詳細は、『キーボード配列切り替え』を参照してください。

アプリケーションのメニューおよびツールバーのカスタマイズ

メニューとツールバー設定ツールを使用して、GNOME 対応アプリケーションのメニュー、メニューバー、およびツールバーをカスタマイズできます。

表 10-12は、GNOME 対応アプリケーション用に変更できるメニューおよびツールバー設定を示しています。

表 10-12 メニューとツールバーの設定

ダイアログ要素	説明
「ボタンラベル」	以下に示すオプションのいずれか 1 つを選択して、GNOME 対応アプリケーションのツールバーで表示する項目を指定する ■ 「アイコンの下にテキストを表示」: ツールバーの各ボタン上にテキストとアイコンを表示する ■ 「アイコンに表示する優先テキスト」: ツールバーの各ボタン上にアイコンだけを表示し、重要なボタンにのみテキストも表示する ■ 「アイコンのみ」: ツールバーの各ボタン上にアイコンのみを表示する ■ 「テキストのみ」: ツールバーの各ボタン上にテキストのみを表示する
「ツールバーを引き離す」	ツールバーをアプリケーションウィンドウから、画面上の任意の場所に移動する。このオプションを選択した場合、アプリケーションのツールバーの左側に、ハンドルが表示される。ツールバーを移動するには、ハンドルをクリック & ホールドして、別の位置にツールバーをドラッグする
「メニューにアイコンを表示」	メニュー内の各項目の横にアイコンを表示する。メニュー項目の中には、アイコンを持たないものもある

マウス設定の設定

マウス設定ツールを使用して、マウスを右利き用または左利き用に構成できます。また、マウス動作の速度および感度を指定することもできます。

次の機能領域内では、マウス設定ツールの設定をカスタマイズできます。

- 「ボタン」
- 「カーソル」

■ 「動作」

ボタンの設定

マウスボタンを左利き用に構成するかどうかを指定するには、「ボタン」タブセクションを使用します。また、ダブルクリック時のクリックの間隔を指定することもできます。

表 10-13 に、マウスの変更可能なボタン設定を示します。

表 10-13 マウスボタンの設定

ダイアログ要素	説明
「左利き用マウス」	マウスを左利き用に構成する。マウスを左利き用に構成した場合、左マウスボタンの機能と右マウスボタンの機能が入れ替わる
「タイムアウト」	ダブルクリック時のクリックの間隔をスライダを使用して指定する。最初のクリックと 2 回目のクリックの間隔がここで指定した時間を越える場合、その操作はダブルクリックとして解釈されない

ポインタの設定

「カーソル」タブセクションを使用して、マウスポインタの環境を設定できます。

表 10-14 に、マウスの変更可能なポインタ設定を示します。

表 10-14 マウスポインタの設定

ダイアログ要素	説明
「小」	小さいマウスポインタを表示する
「中」	中くらいのマウスポインタを表示する
「大」	大きいマウスポインタを表示する
「Ctrl キーを押したときにポインタをハイライトする」	Ctrl キーを押して放したときのマウスポインタのアニメーションを有効にします。この機能は、マウスポインタの検出を補助する

動作の設定

「動作」タブセクションを使用して、マウス動作の環境を設定します。

表 10-15 に、マウスの変更可能な動作設定を示します。

表 10-15 マウス動作の設定

ダイアログ要素	「説明」
「加速」	マウス移動時の、画面上でのマウスポインタの移動速度を指定する
「感度」	マウスの動きに対する、マウスポインタの感度を指定する
「しきい値」	移動操作がドラッグ & ドロップ操作として解釈されるまでの、項目の移動距離を指定する

マルチメディアキーの設定

マルチメディアキー設定ツールを使って、アクションにショートカットキーを割り当てます。

表 10-16 に、マルチメディア機能に割り当てることができるショートカットキーの設定を示します。

表 10-16 マルチメディアキーの設定

ダイアログ要素	「説明」
マルチメディアキーテーブル	アクションにショートカットキーを割り当てる場合は、そのアクションをクリックしてから、アクションに割り当てるキーを押す アクションのショートカットキーを無効にする場合は、そのアクションをクリックしてからBack Space キーを押す
「主音量の代わりに PCM 音量を使用する」	主音量の代わりにパルスコードモジュレーション (PCM) 音量を使用する場合は、このオプションを選択する

パネルのカスタマイズ

「パネルの設定」 設定ツールでは、パネルの動作を構成できます。「パネルの設定」設定ツールで行なった変更は、すべてのパネルに影響します。

表 10-17 に、変更可能なパネル設定を示します。

表 10-17 パネルの設定

ダイアログ要素	「説明」
「ランチャーをクリックし引き出しを閉じる」	引き出し内のランチャーを選択したときに、パネル上のその引き出しを閉じる
「引き出しとパネルのアニメーション」	アニメーションスタイルでパネルや引き出しを表示、または非表示にする
「アニメーションの速度」	ドロップダウンリストから、パネルのアニメーション速度を選択する

パスワードの変更方法

ログインパスワードを変更する場合は、パスワード設定ツールを使用します。ログインパスワードの変更手順は次のとおりです。

1. パスワード設定ツールを起動します。「質問」ダイアログが表示されます。
2. 古いパスワードを入力します。
3. 新しいパスワードを入力してから、確認のためにそのパスワードをもう 1 度入力します。

新しいパスワードは次のログインから有効になります。

優先するアプリケーションの選択

「優先するアプリケーション」設定ツールでは、GNOME デスクトップがアプリケーションを起動するときに、GNOME デスクトップが使用するアプリケーションを指定します。たとえば、優先端末アプリケーションとして、Xterm を指定できます。「デスクトップ」メニューを開いて、「新規端末」を選択すると、Xterm が起動します。

次の領域内では、「優先するアプリケーション」設定ツールの設定をカスタマイズできます。

- 「Web ブラウザ」
- 「テキストエディタ」
- 「端末」

Web ブラウザの設定

優先 Web ブラウザを設定するには、「Web ブラウザ」タブセクションを使用します。優先 Web ブラウザは、URL をクリックしたときに開きます。たとえば、アプリケーションで URL を選択するか、デスクトップで URL ランチャーを選択したときに、優先 Web ブラウザが開きます。

表 10-18 に、優先 Web ブラウザの変更可能な設定を示します。

表 10-18 優先 Web ブラウザの設定

ダイアログ要素	説明
「 Web ブラウザを選択」	標準の Web ブラウザを使用する。ドロップダウンコンビネーションボックスを使用して、優先 Web ブラウザを選択する
「カスタム Web ブラウザ」	カスタムの Web ブラウザを使用する
「コマンド」	カスタム Web ブラウザを起動するコマンドを入力する。クリックした URL をブラウザが表示できるようにするには、コマンドのあとに、“%s” を指定する
「端末内で実行」	端末でコマンドを実行する。実行するウィンドウを作成しないブラウザには、このオプションを選択する

テキストエディタの設定

「テキストエディタ」タブセクションを使用して、優先テキストエディタを構成します。

表 10-19 に、優先テキストエディタの変更可能な設定を示します。

表 10-19 優先テキストエディタの設定

ダイアログ要素	説明
「エディタを選択」	標準のテキストエディタを使用する。ドロップダウンコンビネーションボックスを使用して、優先テキストエディタを指定する

表 10-19 優先テキストエディタの設定 (続き)

ダイアログ要素	説明
「カスタムエディタ」	カスタムのテキストエディタを使用する。「カスタムエディタプロパティ」ダイアログが表示されます。 ■ 「名前」: カスタムテキストエディタの名前を入力する ■ 「コマンド」: カスタムテキストエディタを起動するコマンドを入力する ■ 「このアプリケーションは複数のファイルを開くことができます」: デフォルトのテキストエディタが複数のファイルを開く場合に選択 ■ 「このアプリケーションはシェル上で実行する必要があります」: 端末でコマンドを実行する。実行するウィンドウを作成しないエディタには、このオプションを選択 カスタムテキストエディタを指定したあと、「プロパティ」ボタンをクリックして、「カスタムエディタプロパティ」ダイアログを表示できる。ダイアログを使用して、カスタムテキストエディタの設定を変更できる
「このエディタを使用して、ファイルマネージャのテキストファイルを開く」	ファイルマネージャが、テキストファイルの表示にカスタムテキストエディタを起動する

端末の設定

「端末」タブセクションを使用して、優先端末を構成します。

表 10-20 に、優先端末の変更可能な設定を示します。

表 10-20 優先端末の設定

ダイアログ要素	説明
「端末を選択」	標準の端末を使用する。ドロップダウンコンビネーションボックスを使用して、優先端末を指定する
「カスタム端末」	カスタムの端末を使用する
「コマンド」	カスタム端末を起動するコマンドを入力する
「実行フラグ」	コマンドに指定する実行オプションを入力する

画面解像度の設定

画面の解像度を設定するには、画面の解像度設定ツールを使用します。表 10-21 に、画面解像度の変更可能な設定を示します。

表 10-21 画面解像度の設定

ダイアログ要素	「説明」
「解像度」	ドロップダウンリストから画面の解像度を選択する
「リフレッシュレート」	ドロップダウンリストから画面の再表示速度を選択する
「このコンピュータだけにデフォルトを設定」	画面解像度の設定をユーザがログインするシステムだけのデフォルト設定とする

スクリーンセーバーの設定

スクリーンセーバーは、画面が使用されていないときに、画面の画像の代わりに使用されるアプリケーションです。スクリーンセーバーは、次の方法で使用できます。

- 指定した待機時間のあとに起動
- スクリーンロックしたときに起動
- システムが待機中にモニタが使用する電力を管理

次の機能領域内では、マウス設定ツールの設定をカスタマイズできます。

- 表示モード
- 拡張

表示モードの設定

「表示モード」タブセクションを使用して、表示モードを設定します。

表 10-22 に、表示モードの変更可能な設定を示します。

表 10-22 スクリーンセーバー表示モードの設定

ダイアログ要素	「説明」
「モード」	ドロップダウンリストを使用して、スクリーンセーバーの動作を指定する。次のオプションがあります。 ■ 「スクリーンセーバーを無効化にする」: スクリーンセーバーを使用しない場合を選択する ■ 「ブランク・スクリーンのみ」: 画面をロックしたときに、画面を空白にする場合を選択する ■ 「1つのスクリーンセーバーのみ」: 画面をロックしたときに、ディスプレイリストから、単一のスクリーンセーバーディスプレイを表示する場合を選択する ■ 「ランダムなスクリーンセーバー」: 画面をロックしたときに、ディスプレイリストから無作為に選択したスクリーンセーバーディスプレイを表示する場合を選択する
ディスプレイリスト	リストから希望のスクリーンセーバーディスプレイを選択する
「ブランクの間隔」	最後にマウスまたはキーボードを使用してから、スクリーンセーバーを起動するまでの待ち時間を指定する
「繰り返しの間隔」	あるスクリーンセーバーの表示から次のスクリーンセーバーの表示までの時間を指定する
「スクリーンロックの間隔」	スクリーンセーバーが起動したあと、スクリーンロックする場合を選択する。スピンボックスを使用して、スクリーンセーバーの起動とスクリーンロックまでの遅延時間を指定する
「プレビュー」	このボタンをクリックすると、スクリーンセーバーディスプレイリストで選択したスクリーンセーバーディスプレイをプレビューできる。プレビューを停止するには、任意のキーを押すか、マウスボタンをクリックする
「設定」	このボタンをクリックすると、スクリーンセーバーディスプレイリストで選択したスクリーンセーバーディスプレイのオプションを表示できる

拡張設定

「拡張設定」タブセクションを使って、スクリーンセーバーの拡張設定を行います。

表 10-23 に、スクリーンセーバーの変更可能な拡張設定を示します。

表 10-23 スクリーンセーバーの拡張設定

ダイアログ要素	「説明」
「デスクトップ画像を操作対象にする」	一部のスクリーンセーバーでは、画面のスクリーンショットを撮ることができるため、そのスクリーンショットを使用してスクリーンセーバーディスプレイを作成できる。スクリーンセーバーで画面のスクリーンショットを撮る場合は、このオプションを選択する
「ビデオ入力を操作対象にする」	一部のスクリーンセーバーでは、ビデオのフレームを取り込めるため、取り込んだ画像を使用してスクリーンセーバーディスプレイを作成できる。システムにビデオキャプチャカードがある場合、このオプションを選択すると、スクリーンセーバーでビデオのフレームを取り込むことができる
「画像をランダムに選択」	指定したディレクトリ内の画像をスクリーンセーバーに使用する場合に選択する。ディレクトリのパスをフィールドに入力する。または、「参照」をクリックしてダイアログを表示し、ディレクトリを選択する
「診断情報を詳細にする」	スクリーンセーバーの診断情報を表示する場合に選択する
「サブプロセスのエラーを表示する」	画面上のスクリーンセーバーのサブプロセスに関連するエラーを表示する場合に選択する
「起動時にブラッシュスクリーンを表示する」	Xscreensaver を開始したときに、Xscreensaver が「ブラッシュ」ダイアログを表示するようにする場合に選択する
「電源管理を有効にする」	モニタの電源管理機能を有効にする場合に選択する。電源管理機能は、モニタを使用していないときの電力消費を削減する
「スタンバイの間隔」	モニタが予備モードになるまでの時間を指定する。モニタが待機モードになると、画面は空白になる
「サスペンドの間隔」	モニタが省電力モードになるまでの時間を指定する
「電源 OFF の間隔」	モニタの電源を切るまでの時間を指定する
「カラーマップをインストールする」	スクリーンセーバーがアクティブのとき、専用のカラーマップをインストールする場合に選択する。専用のカラーマップを使用することで、特定のスクリーンセーバーディスプレイの画像品質を改善できる
「ブランクするときフェードアウトする」	スクリーンセーバーを起動するときに、徐々に黒の画面を表示したい場合に選択する
「ブランクを解除するときフェードインする」	スクリーンセーバーを停止するときに、表示を徐々に黒から画面の内容へ表示したい場合に選択する

表 10-23 スクリーンセーバーの拡張設定 (続き)

ダイアログ要素	説明
「フェードする間隔」	スクリーンセーバーを起動するときに、黒にフェードする時間を指定する

セッションの構成

セッション設定ツールでは、セッションを管理することができます。セッションの環境を設定して、セッションの開始時に起動するアプリケーションを指定できます。また、GNOME デスクトップ上のアプリケーションの状態を保存したり、別のセッションの開始時にその状態を復元したりするように、セッションを構成することができます。この設定ツールを使用して、複数の GNOME セッションを管理することもできます。

次の機能領域内では、セッションおよび起動アプリケーションの設定をカスタマイズできます。

- 「セッションのオプション」
- 「現在のセッション」
- 「自動起動プログラム」

現在のセッションの設定

「セッションのオプション」タブセクションを使用して、複数のセッションを管理したり、現在のセッションの環境を設定することができます。

表 10-24 に、セッションの変更可能なオプションを示します。

表 10-24 セッションのオプション

ダイアログ要素	説明
「ログイン時にスプラッシュ画面を表示する」	セッションを開始したときにスプラッシュ画面を表示する
「ログアウト時にプロンプトを表示する」	セッションを終了するときに確認ダイアログを表示する

表 10-24 セッションのオプション (続き)

ダイアログ要素	説明
「変更を自動的にセッションに保存する」	セッションマネージャによって、セッションの現在の状態が保存される。セッションマネージャは、セッション管理下にある開いているアプリケーション、およびセッション管理下のアプリケーションと関連付けられている設定を保存する。次回セッションを起動したときに、アプリケーションは保存された設定で自動的に起動する このオプションを選択しない場合は、セッションを終了するときに「ログアウトの確認」ダイアログが「現在の設定を保存」オプションを表示する
「セッション」	ダイアログのこの領域を使用して、以下のように、複数のセッションを GNOME デスクトップ上で管理する ■ 新しいセッションを作成するには、「追加」ボタンをクリックする。「新規セッションの追加」ダイアログが表示される。このダイアログを使用して、セッションの名前を指定する ■ セッションの名前を変更するには、「現在のセッションを選択」表から変更するセッションを選択する。「編集」ボタンをクリックする。「セッション名の編集」ダイアログが表示される。セッションの新しい名前を入力する ■ セッションを削除するには、「現在のセッションを選択」表から削除するセッションを選択する。「削除」ボタンをクリックする

現在のセッションの設定

「現在のセッション」タブセクションを使用して、起動順序の値の指定や、現在のセッションでのセッション管理下のアプリケーションの再起動方式を選択できます。

表 10-25 に、構成可能な現在のセッションの設定を示します。

表 10-25 現在のセッションの設定

ダイアログ要素	説明
「順番」	「順番」設定は、セッションマネージャが起動するセッション管理下の起動アプリケーションの順序を指定する。セッションマネージャは、低い値を持つアプリケーションから先に起動する。デフォルトは 50 アプリケーションの起動順序を指定するには、表からアプリケーションを選択する。「順番」スピンボックスを使用して、起動順序の値を指定する

表 10-25 現在のセッションの設定 (続き)

ダイアログ要素	説明
「スタイル」	「スタイル」設定は、アプリケーションの再起動スタイルを決定する。アプリケーションの再起動スタイルを選択するには、表からアプリケーションを選択して、次のいずれかの方式を選ぶ ■ 「普通」 GNOME セッションを開始したときに自動的に起動する。この再起動方式のアプリケーションをセッション中に終了するには、kill コマンドを使用する ■ 「再起動」 アプリケーションを閉じるまたは終了すると自動的に再起動する。セッション中に継続してアプリケーションを実行する必要がある場合は、アプリケーションにこの方式を指定する。この再起動方式のアプリケーションを終了するには、表からアプリケーションを選択して、「削除」ボタンをクリックする ■ ごみ箱 GNOME セッションの開始時にアプリケーションを起動しない ■ 「設定」 セッションを開始すると自動的にアプリケーションが起動する。この方式のアプリケーションは、通常、低い起動順序値を持ち、GNOME およびセッション管理下のアプリケーションの構成設定を格納する
「削除」	「削除」ボタンをクリックすると、リストから選択したアプリケーションを削除する。アプリケーションは、セッションマネージャから削除されて、閉じる。削除したアプリケーションは、次回セッションを開始したときに起動されない
「適用」	「適用」ボタンをクリックすると、起動順序および再起動方式に変更を適用する

自動起動アプリケーションの構成

セッション設定ツールの「自動起動プログラム」タブセクションを使用して、非セッション管理下の起動アプリケーションを指定できます。自動起動アプリケーションとは、セッションを開始したときに自動的に起動するアプリケーションのことです。非セッション管理下のアプリケーションを実行するコマンドは、「自動起動プログラム」タブセクションで指定します。コマンドは、ログイン時に自動的に実行されます。

セッション管理下のアプリケーションを自動的に起動することもできます。詳細については、189 ページの「現在のセッションの設定」を参照してください。

表 10-26 に、自動起動アプリケーションの変更可能な設定を示します。

表 10-26 起動プログラムの設定

ダイアログ要素	説明
「追加された自動起動プログラム」	この表を使用して、以下のように、非セッション管理下の自動起動アプリケーションを管理する ■ 自動起動アプリケーションを追加するには、「追加」ボタンをクリックする。「自動起動プログラムの追加」ダイアログが表示される。アプリケーションを起動するコマンドを「自動起動コマンド」フィールドに入力する。 複数の自動起動アプリケーションを指定する場合は、「優先順位」スピンボックスを使用して、各アプリケーションの起動順序を指定する。起動順序とは、自動起動アプリケーションを起動する順序を指す ■ 自動起動アプリケーションを編集するには、自動起動アプリケーションを選択して、「編集」ボタンをクリックする。「自動起動プログラムの編集」ダイアログが表示される。ダイアログを使用して、自動起動アプリケーションのコマンドおよび起動順序を変更する ■ 自動起動アプリケーションを削除するには、削除対象の自動起動アプリケーションを選択して、「削除」ボタンをクリックする

キーボードショートカットのカスタマイズ

キーボードショートカットは、単独のキーまたは複数のキーの組み合わせで、通常の操作の代替方法を提供する

Shortcuts 設定ツールを使用して、デフォルトのキーボードショートカットを表示できます。必要に応じて、デフォルトのキーボードショートカットをカスタマイズできます。

表 10-27 に、カスタマイズ可能なキーボードショートカットを示します。

表 10-27 キーボードショートカットの設定

ダイアログ要素	説明
「テキスト編集ショートカット」	次のいずれかの設定を選択する ■ 「GNOME Default」: 標準のショートカットの設定 ■ 「Emacs」: Emacs ショートカットの設定

表 10-27 キーボードショートカットの設定 (続き)

ダイアログ要素	説明
「デスクトップショートカット」	この表は、操作と、各操作に関連付けられているショートカットキーを示す 操作に関連付けられているショートカットキーを変更するには、該当する操作をクリックして選択し、その操作のショートカットを選択する。操作に関連付けるキーを押す 操作に関連付けられているショートカットキーを無効にするには、該当する操作をクリックして選択し、その操作のショートカットを選択する。Back Space を押す

プリンタの設定

プリンタ 設定ツールを使用すると、GNOME デスクトップ用のプリンタを構成できます。さらに、root アクセス権限があれば、新しいプリンタを追加することもできます。「プリンタの追加」アシスタントのオンラインの説明を参照してください。

セッション共有の設定

リモートデスクトップ設定ツールを使用すると、複数のユーザー間で GNOME デスクトップセッションを共有したり、セッション共有設定を設定したりすることができます。

表 10-28 に、設定可能なセッション共有設定を示します。これらの設定は、システムのセキュリティに直接の影響があります。

表 10-28 セッション共有の設定

ダイアログ要素	説明
「ほかのユーザーがあなたのデスクトップを表示することを許可する」	セッションを他のユーザーからも見られるようにする。リモートユーザーのキーボード、ポインタ、クリップボードに関するすべてのイベントは無視される
「ほかのユーザーがあなたのデスクトップを制御することを許可する」	セッションのアクセスや制御をリモートからもできるようにする。

表 10-28 セッション共有の設定 (続き)

ダイアログ要素	説明
ほかのユーザーはこのデスクトップを次のアドレスで見ることができる。 <i>web</i> アドレス	この web アドレスリンクをクリックし、電子メールを使ってシステムの web アドレスをリモートユーザーに送信する
「ほかのユーザーがあなたのデスクトップを表示しようとするとき」	セッションの表示や制御を他のユーザーが行おうとする場合に備え、セキュリティに関する次の項目を選択する。 ■ あなたに確認を求める。リモートユーザーがセッションを共有したいときに、本来のユーザーに承認を求める必要があるようにする場合は、このオプションを選択する。これによって、セッションに接続している他のユーザーを認識できる。さらに、リモートユーザーにとって何時にセッションに接続するのが適切かを知ることができる ■ ユーザーが暗号化を使用していることを確認する。セッションに接続するすべてのクライアントに暗号化の使用を求める場合は、このオプションを選択する。これによって、非暗号化接続を許すかどうかに関してポリシー上の判断を下すことができる。 ■ ユーザーに次のパスワードを入力するように求める。リモートユーザーの認証を行う場合は、このオプションを選択する(認証が使用されている場合)。これによって、一段上のセキュリティを実現できる
「パスワード」	セッションの表示や制御を行おうとするクライアントが必ず入力しなければならないパスワードを入力する

サウンドの設定

サウンド設定ツールを使用することによって、GNOME サウンドサーバーをいつ起動するかを制御できます。また、特定のイベントが発生したときに再生されるサウンドも指定できます。

次の機能領域内では、サウンド設定ツールの設定をカスタマイズできます。

- 「一般」
- 「サウンドイベント」

一般的なサウンド設定

GNOME サウンドサーバーをいつ起動するかを指定するには、サウンド設定ツールの「一般」タブセクションを使用します。このタブセクションでは、サウンドイベント機能も有効に設定できます。

表 10-29 に、変更可能な一般的なサウンド設定を示します。

表 10-29 一般的なサウンド設定

ダイアログ要素	説明
「起動時にサウンドサーバーを使う」	GNOME セッションを開始したときに、GNOME サウンドサーバーを起動する。サウンドサーバーがアクティブな場合、GNOME デスクトップはサウンドを再生できる
「イベントの効果音を鳴らす」	GNOME デスクトップ上で特定のイベントが発生したときにサウンドを再生する。このオプションは、「起動時にサウンドサーバーを使う」オプションが選択されている場合にのみ指定できる

サウンドイベントの設定

サウンド設定ツールの「サウンドイベント」タブセクションを使用して、特定のサウンドを特定のイベントに関連付けることができます。

注 - 「サウンドイベント」タブセクションにアクセスするには、先に「起動時にサウンドサーバーを使う」オプションと、「イベントの効果音を鳴らす」オプションを選択する必要があります。

表 10-30 に、サウンドイベントの変更可能な設定を示します。

表 10-30 サウンドイベントの設定

ダイアログ要素	説明
「サウンド」表	「サウンド」表を使用して、特定のサウンドを特定のイベントに関連付ける 「イベント」列は、発生するイベントの階層リストを表示する。イベントのカテゴリを開くには、イベントのカテゴリの横にある右矢印をクリックする 「再生ファイル」列は、イベントが発生したときに再生するサウンドファイルをリストする
「再生」	このボタンをクリックすると、選択したイベントに関連付けられるサウンドファイルを再生する

表 10-30 サウンドイベントの設定 (続き)

ダイアログ要素	説明
サウンドファイルのドロップダウンコンビネーションボックスの「参照」	サウンドをイベントに関連付けるには、「サウンド」表内のイベントを選択する。ドロップダウンコンビネーションボックスから選択したイベントに関連付けるサウンドファイルの名前を入力する。または、「参照」をクリックして、「ファイルの選択」ダイアログを表示する。ダイアログを使用して、選択したイベントに関連付けるサウンドファイルを指定する 注 - イベントに関連付けることができるサウンドファイルの形式は、.wav 形式のみ

テーマのカスタマイズ

「テーマ」は、GNOME デスクトップの外観を指定する統合的な設定グループです。テーマを選ぶことにより、GNOME デスクトップの外観を変更できます。テーマを選択するには、テーマ設定ツールを使用します。利用可能なテーマのリストからテーマを選択できます。利用可能なデスクトップテーマのリストには、ユーザーがアクセス可能な要件を満たすいくつかのテーマが含まれています。

テーマには、以下のように GNOME デスクトップの別の部分に影響する設定が含まれています。

コントロール	テーマのコントロール設定は、ウィンドウ、パネル、アプレットの外観を指定します。また、ウィンドウ、パネル、およびアプレット上に現れる GNOME 対応インターフェイス (メニュー、アイコン、ボタンなど) の外観も決定します。利用可能なコントロール設定オプションの中には、特別なアクセシビリティ要件を満たすように設計されているものもあります。コントロール設定のオプションは、テーマ設定ツールの「コントロール」タブセクションで選択できます。
ウィンドウの境界線	テーマのウィンドウの境界線設定は、ウィンドウの枠の外観だけを指定します。ウィンドウの境界線設定のオプションは、テーマ設定ツールの「ウィンドウの境界線」タブセクションで選択できます。
アイコン	テーマのアイコン設定は、パネルとデスクトップ背景にあるアイコンの外観を指定します。アイコン設定のオプションは、テーマ設定ツールの「アイコン」タブセクションで選択できます。

カスタムテーマを作成する

テーマ設定ツールに一覧があるテーマは、コントロールオプション、ウィンドウの境界線オプションおよびアイコンオプションの複数の組み合わせです。コントロールオプション、ウィンドウの境界線オプションおよびアイコンオプションの複数の組み合わせを使ったカスタムテーマを作成できます。

カスタムテーマを作成するには、次の手順を実行します。

1. テーマ設定ツールを起動します。
2. テーマリストからテーマを1つ選択します。
3. 「詳細」ボタンをクリックします。「テーマの詳細」ダイアログが表示されます。
4. カスタムテーマで使用するコントロールオプションを「コントロール」タブセクションのリストから選択します。利用可能なコントロールオプションのリストには、ユーザーがアクセス可能な要件を満たすいくつかのオプションが含まれています。
5. 「ウィンドウの境界線」タブを選択して、「ウィンドウの境界線」タブセクションを表示します。カスタムテーマで使用するウィンドウの境界線オプションを利用可能なオプションのリストから選択します。利用可能なウィンドウの境界線オプションのリストには、ユーザーがアクセス可能な要件を満たすいくつかのオプションが含まれています。
6. 「アイコン」タブをクリックして、「アイコン」タブセクションを表示します。カスタムテーマで使用するアイコンオプションを利用可能なオプションのリストから選択します。利用可能なアイコンオプションのリストには、ユーザーがアクセス可能な要件を満たすいくつかのオプションが含まれています。
7. 「閉じる」をクリックして、「テーマの詳細」ダイアログを閉じます。
8. テーマ設定ツールで、「テーマを保存」ボタンをクリックします。「テーマの保存」ダイアログが表示されます。
9. ダイアログでカスタムテーマの名前と簡単な説明を入力し、「保存」をクリックします。カスタムテーマが、利用可能なテーマリストの中に表示されます。

新しいテーマをインストールする

利用可能なテーマのリストにテーマを追加できます。新しいテーマは、tar および zip でアーカイブされたファイルでなければなりません。つまり、新しいテーマは、.tar.gz ファイルになります。

新しいテーマをインストールするには、次の手順を実行します。

1. テーマ設定ツールを起動します。
2. 「テーマのインストール」ボタンをクリックします。「新規テーマのインストール」ダイアログが表示されます。

3. テーマのアーカイブファイルの位置をドロップダウンコンビネーションボックスに入力します。または、「参照」ボタンをクリックしてファイルをブラウズします。ファイルを選択したら、「了解」をクリックします。
4. 「インストール」ボタンをクリックして、新しいテーマをインストールします。

新しいテーマオプションをインストールする

新しいコントロールオプション、ウィンドウの境界線オプションまたはアイコンオプションをインストールできます。インターネット上で多くのコントロールオプションを入手できます。

新しいコントロールオプション、ウィンドウの境界線オプションまたはアイコンオプションをインストールするには、以下の手順を実行します。

1. テーマ設定ツールを起動します。
2. 「詳細」ボタンをクリックします。「テーマの詳細」ダイアログが表示されます。
3. インストールするテーマのタイプのタブをクリックします。たとえば、アイコンオプションをインストールする場合は、「アイコン」タブをクリックします。
4. 「テーマのインストール」ボタンをクリックします。「新規テーマのインストール」ダイアログが表示されます。
5. オプションのアーカイブファイルの位置をドロップダウンコンビネーションボックスに入力します。または、「参照」ボタンをクリックしてファイルをブラウズします。ファイルを選択したら、「了解」をクリックします。
6. 「インストール」ボタンをクリックして、新しいオプションをインストールします。

テーマオプションを削除する

コントロールオプション、ウィンドウの境界線オプションまたはアイコンオプションを削除できます。

コントロールオプション、ウィンドウの境界線オプションまたはアイコンオプションを削除するには、以下の手順を実行します。

1. テーマ設定ツールを起動します。
2. 「詳細」ボタンをクリックします。「テーマの詳細」ダイアログが表示されます。
3. 削除するオプションのタイプのタブをクリックします。
4. 「テーマフォルダへ移動」ボタンをクリックします。デフォルトオプションフォルダで、ファイルマネージャウィンドウが開きます。
5. ファイルマネージャウィンドウを使って、オプションを削除します。

ウィンドウのカスタマイズ

GNOME デスクトップのウィンドウの動作をカスタマイズするには、ウィンドウ 設定 ツールを使用します。

表 10-31 に、ウィンドウの変更可能な設定を示します。

表 10-31 ウィンドウの設定

ダイアログ要素	説明
「マウスがウィンドウの上を移動したら、それを選択する」	ウィンドウをポイントすると、そのウィンドウがフォーカスされる。別のウィンドウをポイントするまで、そのウィンドウはフォーカスされている
「この時間後に指定したウィンドウを前面に出す」	ウィンドウにフォーカスが移って少し時間が経過してから、そのウィンドウを立ち上げる
「前面に出るまでの間隔」	フォーカスされてからウィンドウを立ち上げるまでの時間を指定する
「タイトルバーをダブルクリックして実行するアクション」	ウィンドウのタイトルバーをダブルクリックしたときに行われる動作を選択する。次のオプションのいずれかを選択します。 ■ 「巻き上げ」:ウィンドウを巻き上げる。 ■ 「最大化」:ウィンドウを最大化する。
「ウィンドウを移動するには、このキーを押したままウィンドウをつかんでください」	ウィンドウをドラッグして移動するときに、押したままにしておくキーを選択する

GNOME デスクトップのアプリケーション

この節では、GNOME デスクトップのアプリケーションの起動方法に関する以降の章について説明します。

- アプリケーションの起動

GNOME デスクトップ内のアプリケーションを起動する方法については、この章をお読みください。

第 11 章

アプリケーションの起動

この章では、アプリケーションの起動方法および GNOME デスクトップメニュー構造の中のアプリケーションの位置について説明します。

- 203 ページの「アプリケーションの起動」
- 203 ページの「アプリケーションの場所」

アプリケーションの起動

アプリケーションを起動するには、メインメニューから「アプリケーション」を選択します。サブメニューから必要なアプリケーションを選びます。

「アプリケーション」メニューには、メニューバーからもアクセスできます。

アプリケーションの場所

表 11-1 に、GNOME デスクトップのアプリケーションとアプリケーションのメニュー構造内の位置を示します。

表 11-1 GNOME デスクトップメニュー構造内のアプリケーションの位置

アプリケーション	メニューパス
アーカイブ管理	「アプリケーション」 → 「アクセサリ」 → 「アーカイブ管理」

表 11-1 GNOME デスクトップメニュー構造内のアプリケーションの位置 (続き)

アプリケーション	メニューパス
バックアップ	「アプリケーション」 → 「システムツール」 → 「バックアップ」
起動フロッピー作成プログラム	「アプリケーション」 → 「システムツール」 → 「管理」 → 「起動フロッピー作成プログラム」
電卓	「アプリケーション」 → 「アクセサリ」 → 「電卓」
CD プレイヤー	「アプリケーション」 → 「マルチメディア」 → 「CD プレイヤー」
文字マップ	「アプリケーション」 → 「アクセサリ」 → 「文字マップ」
設定エディタ	「アプリケーション」 → 「システムツール」 → 「設定エディタ」
辞書	「アプリケーション」 → 「アクセサリ」 → 「辞書」
図のエディタ	「アプリケーション」 → 「グラフィックス」 → 「図のエディタ」
デジタルカメラブラウザ	「アプリケーション」 → 「マルチメディア」 → 「デジタルカメラブラウザ」
ディスクアナライザ	「アプリケーション」 → 「システムツール」 → 「ディスクアナライザ」
ディスクパーティション設定プログラム	「アプリケーション」 → 「システムツール」 → 「管理」 → 「ディスクパーティション設定プログラム」
Driver Installer	「アプリケーション」 → 「システムツール」 → 「管理」 → 「Driver Installer」
電子メールとカレンダー	「アプリケーション」 → 「インターネット」 → 「電子メールとカレンダー」 または、「電子メールとカレンダー」をメインメニューから選択
ファイルのバックアップ	「アプリケーション」 → 「システムツール」 → 「管理」 → 「ファイルのバックアップ」
ファイルの復元	「アプリケーション」 → 「システムツール」 → 「管理」 → 「ファイルの復元」
フロッピーのフォーマット	「アプリケーション」 → 「システムツール」 → 「フロッピーのフォーマット」
画像エディタ	「アプリケーション」 → 「グラフィックス」 → 「画像エディタ」
画像のサイズ	「アプリケーション」 → 「グラフィックス」 → 「画像管理」

表 11-1 GNOME デスクトップメニュー構造内のアプリケーションの位置 (続き)

アプリケーション	メニューパス
画像ビューア	「アプリケーション」 → 「グラフィックス」 → 「画像ビューア」
Instant Messenger	「アプリケーション」 → 「インターネット」 → 「Instant Messenger」
Java メディアプレイヤー	「アプリケーション」 → 「Multimedia」 → 「Java メディアプレイヤー」
Java Web Start	「アプリケーション」 → 「インターネット」 → 「Java Web Start」
ログイン画面の設定	「アプリケーション」 → 「システムツール」 → 「管理」 → 「ログイン画面の設定」
ムービープレイヤー	「アプリケーション」 → 「マルチメディア」 → 「ムービープレイヤー」
ネットワークプレイス	「アプリケーション」 → 「インターネット」 → 「ネットワークプレイス」
新規ログイン	「アプリケーション」 → 「システムツール」 → 「新規ログイン」
入れ子ウィンドウでの新規ログイン	「アプリケーション」 → 「システムツール」 → 「入れ子ウィンドウでの新規ログイン」
オンライン更新	「アプリケーション」 → 「システムツール」 → 「オンライン更新」
PDF Document Viewer	「アプリケーション」 → 「グラフィックス」 → 「PDF Document Viewer」
PostScript ビューア	「アプリケーション」 → 「グラフィックス」 → 「PostScript ビューア」
プロジェクトマネージャ	「アプリケーション」 → 「オフィス」 → 「プロジェクトマネージャ」
Real Player	「アプリケーション」 → 「マルチメディア」 → 「Real Player」
ソフトウェアインストールプログラム	「アプリケーション」 → 「システムツール」 → 「管理」 → 「ソフトウェアインストールプログラム」
サウンドレコーダ	「アプリケーション」 → 「Multimedia」 → 「サウンドレコーダ」
ソースエディタ	「アプリケーション」 → 「アクセサリ」 → 「Source Editor」
StarSuite 7	「StarSuite 7」をメインメニューから選択

表 11-1 GNOME デスクトップメニュー構造内のアプリケーションの位置 (続き)

アプリケーション	メニューパス
StarSuite 7 プレゼンテーション	「アプリケーション」 → 「オフィス」 → 「StarSuite 7 プレゼンテーション」
StarSuite 7 表計算	「アプリケーション」 → 「オフィス」 → 「StarSuite 7 表計算」
StarSuite 7 文書ドキュメント	「アプリケーション」 → 「オフィス」 → 「StarSuite 7 文書ドキュメント」
Sun Java System Instant Messaging	「アプリケーション」 → 「インターネット」 → 「Sun Java System Instant Messaging」
システムモニター	「アプリケーション」 → 「システムツール」 → 「システムモニター」
端末	「アプリケーション」 → 「システムツール」 → 「端末」
テキストエディタ	「アプリケーション」 → 「アクセサリ」 → 「テキストエディタ」
ビデオ会議	「アプリケーション」 → 「インターネット」 → 「ビデオ会議」
ボリュームコントロール	「アプリケーション」 → 「Multimedia」 → 「ボリュームコントロール」
ボリュームマネージャ	「アプリケーション」 → 「システムツール」 → 「管理」 → 「ボリュームマネージャ」
Web ブラウザ	「アプリケーション」 → 「インターネット」 → 「Web ブラウザ」 または、「Web ブラウザ」をメインメニューから選択

用語集

DNS 名	ネットワーク上のコンピュータを固有に識別する一意のアルファベット
GNOME 対応アプリケーション	標準の GNOME プログラミングライブラリを使用するアプリケーションを GNOME 対応アプリケーションと呼ぶ。たとえば、Nautilus ファイルマネージャおよび gedit テキストエディタは、GNOME 対応アプリケーションです。
IP アドレス	ネットワーク上のコンピュータを識別する一意の番号
MIME タイプ	MIME (Multipurpose Internet Mail Extension) タイプは、ファイルの書式を特定する。アプリケーションは、MIME タイプによってファイルを読み取ることができる。たとえば、電子メールアプリケーションは、image/png MIME タイプから、電子メールに PNG (Portable Networks Graphic) ファイルが添付されていることを認識する
URI (Uniform Resource Identifier)	URI (Uniform Resource Identifier) は、ファイルシステム内または Web 上の特定の場所を識別する文字列。たとえば、Web ページのアドレスは URI である
Uniform Resource Locator	Uniform Resource Locator (URL) は、Web 上の特定の位置を表すアドレス
アプレット	アプレットとは、パネル内に存在する小さな対話型のアプリケーション。アプレットの例として、CD プレーヤーがある。各アプレットには、マウスまたはキーボードから操作できる単純なユーザーインターフェイスがあります。
キーボードショートカット	キーボードショートカットは、単独のキーまたは複数のキーの組み合わせで、通常の操作の代替方法を提供する
区画	区画とは、ウィンドウを分割したもの。たとえば、Nautilus ウィンドウには、サイド区画と表示区画がある
ショートカットキー	操作をすばやく実行するためのキーストローク

シンボリックリンク	別のファイルまたはフォルダを指す特殊な種類のファイル。シンボリックリンクに対してアクションを実行すると、そのアクションはシンボリックリンクが指すファイルまたはフォルダで実行されます。
設定ツール	GNOME デスクトップの動作の特定の部分を制御する専用ソフトウェアツール
スタッキング順	画面上でウィンドウが互いの上に積み重ねられる順序のこと
ステータスバー	ウィンドウ下部にあるバーであり、ウィンドウ内に表示している項目の現在の状態に関する情報を提供する
ツールバー	アプリケーションで最も一般的に使用されるコマンド用のボタンが含まれたバー。通常、ツールバーはメニューバーの下に表示される
デスクトップ	パネルやウィンドウなど、グラフィカルなインターフェイス項目が何も存在しない状態の GNOME デスクトップ
デスクトップオブジェクト	ファイル、フォルダ、およびアプリケーションを開くときに使用できるデスクトップ上のアイコン。デスクトップオブジェクトを使用することで、頻繁に使用するファイル、フォルダ、およびアプリケーションへアクセスがしやすくなる
デスクトップ背景	デスクトップに適用される画像や色
引き出し	引き出しとは、パネル機能の拡張であり、引き出しアイコンから開いたり、閉じたりすることができる
ビュー	特定の 방법으로フォルダを表示できる Nautilus コンポーネント。たとえば、Nautilus には、フォルダのコンテンツをアイコンとして表示できるアイコンビューがある。Nautilus には、フォルダのコンテンツをリストで表示できるリストビューもある。
ビューアコンポーネント	特定の型のファイルを表示区画に表示できる Nautilus コンポーネント。ビューアコンポーネントは、そのファイルの型に関連するメニュー項目をファイルマネージャメニューに追加する。ビューアコンポーネントにより、Nautilus の Zoom ボタンを使用して表示区画内の項目のサイズを変更できる
フォーマット	メディアをフォーマットすることにより、特定のファイルシステムで使えるようになる。フォーマットすると、そのメディア上の既存の情報は上書きされる。
マウント	マウントすることにより、ファイルシステムにアクセスできる。ファイルシステムにマウントすると、そのファイルシステムは、ファイルシステムのサブディレクトリとして接続される
メニューバー	アプリケーションウィンドウ上部にあるバーのことで、アプリケーション用のメニューが含まれる
ランチャー	特定のアプリケーションの起動、コマンドの実行、あるいはファイルを開く。ランチャーは、パネル内またはメニュー内にある
ワークスペース	作業可能な GNOME デスクトップ上の個別の領域

索引

A

AccessX, 「設定ツール, キーボードアクセシビリティ」を参照

C

CD、書き込み, 139

CD の書き込み, 139

CD の作成, 「CD の書き込み」を参照

F

FTP サイト, アクセス, 108

G

GNOME デスクトップコンポーネントの概要, 29

GNOME デスクトップ設定ツール, 「設定ツール」を参照

GTK+ テーマ, 「テーマ、コントロールオプション」を参照

N

Nautilus デスクトップ, 「デスクトップ」を参照

Nautilus ファイルマネージャ, 「ファイルマネージャ」を参照

NFS サーバー, 「Unix ネットワーク」を参照

S

Samba サーバー, 「Windows ネットワーク」を参照

U

URI、特別, 「特別な URI ロケーション」を参照

W

Web ブラウザ, 優先するアプリケーション, 184

X

XScreenSaver, 「スクリーンセーバー」を参照

あ

アイコンテーマ, 「テーマ、アイコンオプション」を参照

アクションボタン, 「ボタン」を参照

アクセシビリティ
キーボードの構成, 175
スティッキキー, 176

アクセシビリティ (続き)

トグルキー, 177

バウンスキー, 177

アクセスキー, 25

アクセス権

8 進数表記で表示, 134

エンブレム, 104

概要, 119

ファイルやフォルダの変更, 119

文字表示, 134

アクセシビリティ

スローキー, 177

マウスキー, 178

リピートキー, 176

アプリケーション

概要, 42

終了, 64

ヘルプ, 44

「アプリケーションの実行」ダイアログ、使用, 77

「アプリケーションの実行」ボタン, 65

アプリケーションの終了, 64

アプレット

ウィンドウリスト, 91

概要, 32, 58

設定の変更, 59

選択, 59

通知スペース, 67

パネルに追加, 58

ヘルプを表示するには, 44

ワークスペーススイッチ, 93

い

イベント, サウンドと関連付ける, 194

インターネット

接続の構成, 174, 193

う

ウィンドウ

移動, 96

ウィンドウマネージャ, 86

「ウィンドウメニュー」, 90

ウィンドウリストアプレット

「ウィンドウリストアプレット」を参照

ウィンドウ (続き)

概要, 35, 85

区画のサイズ変更, 27

最小化, 94

サイズ変更, 95

最大化, 94

すべてのワークスペースに配置するには, 96

操作, 93

操作するアプレットとメニュー, 90

タイプ, 86

テーマ, 88

閉じる, 95

表の使用方法, 27

フォーカスを移動する, 93

フレーム, 88

フレーム制御要素, 88

フレームテーマオブションの設定, 196

別のワークスペースに移動, 97

巻き上げる, 96

元のサイズに戻す, 95

ウィンドウの移動, 96

ウィンドウのサイズ変更, 95

ウィンドウの最大化, 94

ウィンドウのシェーディング, 「ウィンドウの巻き上げ」を参照

ウィンドウの巻き上げ, 96

ウィンドウマネージャ, カスタマイズ, 199

ウィンドウリスト, ウィンドウリストアプレット, 91

ウィンドウリストアプレット

ウィンドウの状態情報, 92

概要, 91

ボタンのグループ化, 92

ウィンドウを閉じる, 95

え

エンブレム

概要, 103

新規追加, 122

デスクトップオブジェクトに追加, 153

ファイルに追加, 122

フォルダに追加, 122

か

画面のロック, 47, 64
「画面のロック」ボタン, 47, 64

き

キーボード
アクセシビリティオプションの構成, 175
一般設定, 178
基本的な操作方法, 23
サウンド設定の構成, 179
キーボードショートカット, 構成, 192
起動アプリケーション
カスタマイズ, 189
セッション管理, 190
基本的な使用方法, ウィンドウの操作, 27
基本的な操作方法
キーボードの操作方法, 23
マウスの使用方法, 19
「強制終了」ボタン, 64

く

区画, サイズ変更, 27

け

言語、異なる言語でログイン, 46

こ

ごみ箱
概要, 121
空にする, 121, 155
デスクトップでの使用方法, 154
表示, 121, 154
ファイルまたはフォルダを移動, 117

さ

サービス
設定, 169

サービス (続き)

追加, 171
編集, 170
最小化, ウィンドウ, 94
サイド区画, 「ファイルマネージャ」を参照
サウンド
イベントをサウンドに関連付ける, 194
キーボード設定の構成, 179
設定, 194
サウンドサーバー, 194

し

自動起動アプリケーション, 非セッション管理, 191
ショートカットキー
アプリケーション, 25
一般, 23
ウィンドウ, 24
構成, 192
パネル, 24
シンボリックリンク
エンブレム, 105
デスクトップオブジェクトへのリンク、作成, 150
ファイルまたはフォルダへのリンク、作成, 118

す

「スクリーンショット」ボタン, 66
スクリーンショットを取る, 78
スクリーンセーバー、設定, 186
スクリプト, ファイルマネージャから実行, 141
スタートアップアプリケーション
セッション管理, 47
非セッション管理, 48
スタートアッププログラム, 「スタートアップアプリケーション」を参照

せ

セッション
アプリケーションの参照, 48
オプションの設定, 189

セッション (続き)

- 開始, 45
- 画面のロック, 47
- 管理, 47
- 異なる言語、ログイン, 46
- 終了, 49
- スクリーンセーバーの構成, 186
- スタートアップアプリケーションの使用, 48
- 設定, 189, 190
- 設定の保存, 48
- ログアウト, 49
- ログアウト時の動作, 48
- ログイン, 46
- ログイン時の動作, 48
- 設定, ファイルマネージャ, 「ファイルマネージャ設定」を参照
- 設定ツール
 - CD データベース, 167
 - インターネット, 174, 193
 - ウィンドウ, 199
 - 概要, 41
 - 画面の解像度, 186
 - キーボードアクセシビリティ, 175
 - キーボードの動作, 178
 - キーボードレイアウト, 179
 - 「サウンド」, 194
 - ショートカット, 192
 - スクリーンセーバー, 186
 - セッション, 47, 189
 - テーマ, 196
 - 背景, 166
 - パネル設定, 182
 - ファイルの関連付け, 169
 - フォルダオプション, 172
 - フォント, 172
 - 「マウス」, 180
 - マルチメディアキー, 182
 - 「メニューとツールバー」, 180
 - 優先するアプリケーション, 183

た

- 端末, 優先するアプリケーション, 185

つ

- 「通知スペース」アプレット, 67
- ツールバー, 外観のカスタマイズ, 180
- ツリー、使用, 106

て

- テーマ
 - アイコンオプション
 - 概要, 196
 - アイコンオプションの設定, 196
 - ウィンドウの境界線オプション
 - 概要, 196
 - ウィンドウフレームオプションの設定, 196
 - コントロールオプション
 - 概要, 196
 - コントロールオプションの設定, 196
- テキストエディタ, 優先するアプリケーション, 184
- デスクトップ
 - アイコンのサイズ変更, 154
 - エンブレムのオブジェクトへの追加, 153
 - オブジェクトの削除, 151, 152
 - オブジェクトの選択, 148
 - オブジェクトのパーミッションの変更, 152
 - オブジェクトプロパティの表示, 152
 - オブジェクト名の変更, 151
 - オブジェクトを開く, 149
 - 概要, 40, 147
 - ごみ箱の使用方法, 154
 - シンボリックリンクの追加, 150
 - デスクトップオブジェクト, 148
 - デスクトップオブジェクトのアイコンの変更, 153
 - 「デスクトップ」メニューの使用方法, 155
 - ノートのオブジェクトへの追加, 153
 - 背景のカスタマイズ, 166
 - ファイルまたはフォルダの移動, 150
 - ファイルまたはフォルダのコピー, 151
 - ファイルまたはフォルダの追加, 150
 - フォルダを作成, 151
 - ランチャーの追加, 149
- デスクトップオブジェクト
 - アイコンのサイズ変更, 154
 - アイコンの変更, 153
 - エンブレムの追加, 153
 - 削除, 151, 152

デスクトップオブジェクト (続き)
シンボリックリンク, 150
選択, 148
名前の変更, 151
ノートへの追加, 153
パーミッションの変更, 152
開く, 149
ファイルまたはフォルダ, 150
プロパティの表示, 152
ランチャー, 149
「デスクトップの表示」ボタン, 66
デスクトップ背景, パターンまたは色の変更, 156
「デスクトップ」メニュー
図, 155
説明, 155
デフォルトのアプリケーション, 「優先するアプリケーション」を参照

と

特別な URI, ランチャー, 63
特別な URI のロケーション, ランチャー, 59
特別な URI ロケーション, アクセス, 110

ね

ネットワークプレイス, アクセス, 109
ネットワークプロキシ
設定, 174, 193

の

ノート
削除, 120
デスクトップオブジェクトへの追加, 153
ファイルやフォルダへの追加, 120

は

背景
色の追加, 136
画面コンポーネント, 135
デスクトップ背景のカスタマイズ, 166

背景 (続き)

デスクトップ背景の変更, 156
パターンの追加, 135

パネル

新しいパネルへの追加, 52
移動, 52
概要, 31, 51
隠す, 52
管理, 52
削除, 55
設定の変更, 53
操作, 52
動作と概観のカスタマイズ, 182
背景の変更, 54

パネルオブジェクト

「パネルオブジェクト」を参照

パネルオブジェクト

「アプリケーションの実行」ボタン, 65

アプレット

「アプレット」を参照

「画面のロック」ボタン, 64

「強制終了」ボタン, 64

削除, 58

「スクリーンショット」ボタン, 66

設定の変更, 56

操作するには, 55

追加, 55

「通知スペース」アプレット, 67

「デスクトップの表示」ボタン, 66

の移動, 57

引き出し

「引き出し」を参照

「ファイルの検索」ボタン, 66

メニュー, 67

ランチャー

「ランチャー」を参照

「ログアウト」ボタン, 65

ロック, 57

パネルオブジェクトのロック, 57

パネルオブジェクトポップアップメニューの図, 56

ひ

引き出し

オブジェクトへの追加, 70

設定の変更, 70

引き出し (続き)

閉じる, 69

パネルに追加, 69

開く, 69

ビューアコンポーネント, 102, 107, 124

表, 使用方法, 27

表示区画

概要, 102

ファイルの表示, 107

ふ

ファイルタイプ

設定, 169

追加, 170

編集, 170

「ファイルの検索」ボタン, 66

ファイルマネージャ

CD の書き込み, 139

FTP サイト

「FTP サイト」を参照

アイコン

概要, 103

サイズの変更, 127

変更, 122

見出し設定, 133

アイコン表示

図, 100

ファイルを整理する, 126

アクションの変更, 129

アクセス権の変更, 119

ウィンドウ, 100

ウィンドウコンポーネント、表示と非表示, 136

エンブレム

「エンブレム」を参照

オーディオ表示

図, 125

お気に入り, 112

概要, 38, 99

拡大と縮小, 123

カスタマイズ, 131

ごみ箱

「ごみ箱」を参照

サイド区画

概要, 103

シンボリックリンクの作成, 118

ファイルマネージャ (続き)

スクリプトの実行, 141

設定

アイコン見出し, 133

概要, 131

設定ツール, 172

動作, 132

表示形式, 131

プレビュー, 134

ツリー、使用, 106

特別な URI ロケーション, 110

ドラッグ&ドロップ, 113

ナビゲート, 105

ネットワークプレイス

「ネットワークプレイス」を参照

ノート

削除, 120

追加, 120

背景の変更, 135

ビュー

概要, 124

選択, 126

動作を変更, 128

表示区画

「表示区画」を参照

表示区画でのファイルの表示, 107

ファイルおよびフォルダの移動, 115

ファイルおよびフォルダの外観を変更, 122

ファイルおよびフォルダの選択, 114

ファイルとフォルダの管理, 113

ファイルにアクションを割り当てる, 129

ファイルのデフォルト以外のアクションを実行, 108

ファイルのデフォルトのアクションを実行する, 107

ファイルの別のアクションを実行する, 108

ファイルまたはフォルダのコピー, 116

ファイルまたはフォルダの削除, 118

ファイルまたはフォルダの複製, 116

ファイルを開く, 107

フォルダの作成, 117

フォルダの表示, 105

フォルダ名の変更, 117

プロパティの表示, 118

リスト表示

図, 125

履歴, 112

履歴リストのナビゲート, 111

フォーカス、ウィンドウにフォーカスを移動する, 93

フォント

アプリケーション, 172
ウィンドウのタイトル, 172
端末, 172
デスクトップ, 172
描画, 172
プレビュー, 174

プロキシ

設定, 174, 193

へ

ヘルプ

GNOME デスクトップトピック, 43
アプリケーション, 44
アプレット, 44
詳細について, 43
ヘルプシステムの開始, 43

ほ

ポインタ, 「マウスポインタ」を参照

ボタン

強制終了, 64
検索, 66
実行, 65
スクリーンショット, 66
デスクトップの表示, 66
パネルに追加, 64
ログアウト, 65
ロック, 64

ま

マウス

基本的な操作方法, 19
構成, 180
操作, 20
操作に関する用語, 20
ポインタ, 21
ボタンの表記規則, 19

め

メインメニュー

概要, 79
パネルに追加, 79
開く, 79

メタシティテーマ, 「テーマ、ウィンドウの境界線オプション」を参照

メニュー

「アクション」メニュー, 76
アプリケーション, 外観のカスタマイズ, 180
「アプリケーション」メニュー, 76
「ウィンドウメニュー」, 90

概要, 34, 73

カスタマイズ, 80

設定の編集, 82

追加, 81

「デスクトップ」メニュー, 155

特長, 74

パネルに追加, 75

パネルへの追加, 67

メインメニュー

「メインメニュー」を参照

メニュー項目の削除, 83

メニュー項目の編集, 82

メニュー項目のポップアップメニュー, 74

メニューバー

「メニューバー」を参照

ランチャーをコピー, 82

ランチャーを追加, 81

メニュー項目のポップアップメニュー

図, 75

説明, 74

メニューの起動, 「メインメニュー」を参照

メニューバー

概要, 80

パネルに追加, 80

も

元のサイズに戻す, ウィンドウ, 95

ゆ

優先するアプリケーション

Web ブラウザ, 184

端末, 185

優先するアプリケーション (続き)
テキストエディタ, 184

ら

ランチャー
設定の変更, 63
パネルに追加, 75
パネルに追加するには, 60

り

リムーバブルメディア
概要, 136
取り出し, 139
フロッピーディスクのフォーマット, 137,
141
マウント, 137
メディアの内容の表示, 137
メディアのプロパティの表示, 137

ろ

ログアウト, 49
「ログアウト」ボタン, 65
ログイン
異なる言語でセッションに, 46
セッションへ, 46

わ

ワークスペース
ウィンドウを移動, 97
概要, 37, 85
数を指定, 38
切り替え, 38, 97
削除, 98
操作, 97
追加, 97
名前を付ける, 98
ワークスペーススイッチアプレット, 93
ワークスペーススイッチアプレット, 93